

599-486



1200501529649

?

486

米國は何故
生糸を買はぬか

—米國不況の眞相—

東京・登龍閣・發行

431



國際經濟研究所編

米國は何故生絲を買はぬか

國際經濟研究所發行



599-486

は し が き

日本が金再禁止を斷行したら對米輸出は物凄く勢で増加し、生糸界は未曾有の好景氣に見舞はれるものと一般的に考へられ、農村方面でもその見透しの下に生糸の増産計畫を樹てゝ居つたが、事實はものゝ見事に裏切られ、對米輸出は漸次に減退し、生糸の如きは滯貨に次ぐに滯貨を以てし、農村の如きは未曾有の不況に見舞はれて居る有様である。

何故斯の如き意想外の狀態に陥つたかに就て政治的に觀測を下す人は、日本が聯盟を脱退して以來米國は日本生糸を故意に不買してゐるのだと觀る向もあり、又財界方面では支那、伊太利生糸等の進出や、人絹工業の發達をその理由とする觀方もあるが、本書は斯の如き部分的觀方を避けて米國經濟の實體、否、米國の購買力減退を招來せる諸多の原因を解剖し、米國がルーズベルトが宣傳する如く景氣が良いのでなく、否寧ろ、繁榮長久の國、米國は老大國の最後よろしく最後のカタストロフへ顛落しつゝある現實を、公表を許される範圍内に於て最大限に暗示せんとしたのが本書である。然るに出來上つたものを見ると考へも及ばぬチグハグなよせ

集めものになつて仕舞つたが、その中より多少なりとも参考になる所があればとこれを世に送つたものである。

昭和九年十二月十日

登 龍 生

米國は何故生絲を買はぬか 目次

— アメリカ不況の真相 —

A アメリカの不景氣と戦債の全貌……………(一)

一、對米戦債協定の締結……………(一)

二、「フーヴァー、モラトリアム」と戦債との關係……………(三)

三、ローザンヌ協定の成立と戦債改訂……………(四)

四、戦債支拂延期交渉……………(六)

五、戦債支拂の履行及不履行……………(一五)

六、戦債處理に關する教書並民主黨の態度……………(一七)

七、一九三三年初の米國上院の討議……………(一九)

B 米國財界不安と今後の動向……………(二六)

一、信用擴張政策と公債不安	(二六)
二、米國西北部農作概況	(二九)
三、米國南部の經濟界恢復の徵候	(三)

C 産業復興法の解説

成功か失敗か?	(三)
一、ケインズの樂觀論	(三)
一、改革か革命か	(三五)
二、兩個の工作	(三五)
三、反動來	(三七)
四、經濟的謬想	(三九)
五、弗の平價切下	(四一)
二、デヨンストラチーの悲觀論	(四)

一、インフレの足取り	(四)
二、物價高生産減	(四六)
三、落着點	(四八)
四、統制は可能か	(五〇)
五、大資本家躍起	(五二)
六、弊害の上塗り	(五三)
七、資本主義の修補	(五三)
八、クレヂットの横溢	(五四)
九、獨占の強化	(五六)
一〇、産業機械化の一路	(五七)

D 倫敦經濟會議の成果

一、倫敦經濟會議の總觀	(六)
-------------	-----

四

二、倫敦經濟會議の經過……………(六六)

 1、通貨問題……………(六六)

 2、通商問題……………(七〇)

 3、生産問題……………(七三)

三、倫敦經濟會議の終焉……………(七六)

四、通貨と列國……………(七九)

五、爲替は何で變動する……………(八〇)

六、「現金」の煽り……………(八三)

七、爾餘の案件……………(八六)

八、國際會議の批判……………(八八)

九、中央機關の必要……………(九一)

一〇、賠償の茶番狂言……………(九二)

一一、難關を端的に突破す……………(九四)

附 錄

世界の見たる日本經濟 目次

一、英國ではどう見る……………(一)

二、カナダではどう見る……………(二四)

三、アメリカではどう見る……………(二九)

四、イタリーではどう見る……………(四一)

五、イラクではどう見る……………(五一)

六、シヤムではどう見る……………(五九)

七、エジプトではどう見る……………(六一)

八、蘭領印度ではどう見る……………(六三)

九、フィリッピンではどう見る……………(六八)

一〇、セーロンではどう見る……………(七〇)

一一、スエーデンではどう見る……………(七三)

一二、ドイツではどう見る……………(八〇)

一三、チェッコではどう見る……………(一一五)

米國は何故生絲を買はぬか？

國際經濟研究所



A、アメリカの不景氣と戦債の全貌

一、對米戰債協定の締結

世界大戰當時及其の直後に於て、債務又は救援債として舊聯合國新興國等の米國に對して負へる債務は約九十六億弗(之に舊露國、ニカラグア、キューバ等の對米債務を合すれば約百二億弗)で其の後未拂利息等を合し約百七十一億弗に達したが、一九二三年より一九二七年迄の間

右諸國が夫々米國との間に締結せる債務整理協定に依り、別表の如く各國の基本債務總額を約百十五億弗と定め、之を約六十年に亘り各國夫々一定の利率を以て元本及利息の支拂を爲すこととなつた。故に右整理協定を完全に實施すれば、右諸國の米國に對する支拂總額は約二百二十一億弗に達し、其の年額は一九三一年度に於ては約二億四千萬弗、夫れより約二十年後には年額四億弗なる豫定である。

上記諸國の支拂は結局に於て獨逸よりの賠償金を以て充當されて居り、從て賠償と對米債務とは實質上極めて密接な關係にあるが、整理協定成立以前、英國は所謂「バルフォア通牒」に於て賠償及政府間の債務抹消を希望し右不可能なるに於ては債權國に對する支拂額は債務國より取立つる額を超過せしめざることを提議し、佛國は債權國に對する支拂額以外に獨逸よりの戰禍復興費に對する保障を要求し、白國も之と同様の態度を執つた。之に對し米國は整理協定締結に當つては各關係國の支拂能力を考慮に入れたけれども、右能力が一旦決定したる上は其の改變を認めず、又賠償と對米債務との間には何等の關係なしとの主張を終始固執して來た。

二、「フーヴァー・モラトリアム」と戰債との關係

最近の世界不況に際し、米國に於ても亦不況緩和の爲には歐洲諸國の恢復を計る要ありとして米國の對歐債權一部免除論を唱ふるものがある。特に獨逸經濟界が益々不振となるに及び右の議論財界有力者間にも擡頭して來た處、フーヴァー大統領は一九三一年六月二十日突如國際モラトリアムに關する聲明書を發表し、右聲明書に於ても對米戰債と賠償とは關係なきこと及戰債抹消に反對なることに言及した、右に基き各國政府間の債務賠償は元利支拂を一九三一年七月一日より翌三二年六月三十日迄延期することとなつた。フーヴァー大統領のモラトリアム聲明後の戰債問題に關する米國側の態度に付ては、議會としては一九三一年十二月「フーヴァー・モラトリアム」を承認するに當り、特に決議の形式を以て、戰債の抹消又は減額に反對なることを明かにしたる外一九三二年四月上院にては、英國は支拂能力ありとか、或はモラトリアムの延長には反對だといふ議論が行はれ、議會殊に上院方面では戰債問題に對し甚だ非妥協的なるやに認められた。一方行政部側に於ては一九三一年のフーヴァー・ラヴァール共同聲明中

フリーヴァー・モラトリアム終了後、經濟不況の繼續する間政府間債務支拂問題に關し何等かの協定を爲すの要あるべきを認むと爲し、又同年十二月の大統領議會教書中フリーヴァー・モラトリアム終了に當つては更に適當なる方法を考慮するに吝ならざることと言外に仄かし、更に十二月下旬國務長官は佛國政府等に對し、賠償問題に付速に歐洲諸國間に適當なる調整を行つた上米國に對し話合を爲すならば、戰債問題に付考慮するの用意ありとか内報したるやに報ぜられ、之等より推して戰債の抹消乃至減額には同意し得なれどもモラトリアムの延長又は之と類似の措置には考慮の餘地ありとせるものと看做され、何れにするも本問題の成行はローザンヌ會議の結果に懸るものと認められた。

三、ローザンヌ協定の成立と戰債改訂

フリーヴァー・モラトリアムは當初期待されし如く世界的不況を救ふに至らず、獨逸は益々財政的窮境に陥るに至り、フリーヴァー大統領提案の猶豫期間滿了後、賠償支拂を爲すの不可能なることが明かとなつた爲、遂に一九三二年六月ローザンヌ會議が開催され、賠償に關する對獨

協定其の他の成立を見た。

其の際英、佛、白、伊の四國は、爾後自國の債務に關し満足なる解決を見るに非ざればローザンヌ協定を批准せざるべく、而して右批准なきときは一切の政府間の法律的地位はフリーヴァー・モラトリアム以前に存せる地位に復歸する旨を取極めた。従つて右協定の效力は此等諸國の對米戰債問題の解決如何に懸ることとなつたのである。

一方米國に於てはローザンヌ協定成立後、國務次官より戰債問題に關しては米國政府は曩にフリーヴァー大統領の「モラトリアム」聲明中に示されたる態度を變更せざる旨を正式に聲明したが、尙國務省側の意向として、

「米國政府は從來歐洲諸國が先づ賠償問題を解決せる上に於て米國との間の債戰問題を考慮するの用意があると主張して來たが、今やローザンヌ協定も成立したから歐洲諸國は個々に米國に對し戰債問題に關する調査を議し得ることとなつた。尤も右交渉は大統領選舉前には開始されまい」

との趣旨が報道された。然し米國上院側は多くは戰債の抹消乃至減額に反對で、米國は之以上

減額し得ずとの意向を有する旨が傳へられた。

六

四、戦債支拂延期交渉

(イ)英、佛、等諸國の對米通牒

「フーヴァー・モラトリアム」は前記の如く一九三二年六月三十日を以て期間満了した。由つて戦債に對しては整理協定規定に依り、債務國は概ね支拂期日たる同年十二月十五日迄に其の支拂をせねばならぬ筈である。然るに米國大統領選舉終了後即ち十一月十日、在米英國大使は支拂延期方に關する公文を國務長官に手交し、佛國大使は同月十一日、白國大使は十五日夫々同趣旨の公文を送り、引續きチェツコスロバキア、波蘭よりも同様申出を爲した。

右英國及佛國の公文は何れも前記一九三一年のフーヴァー・ラヴァル共同聲明に言及し、右聲明の趣旨に従ひローザンヌ協定の成立に努めたる次第を述べ、此際更に戦債問題を考慮する爲商議開始の必要を認むるが、それには相當の時日が要る。就てはローザンヌ會議の際執れる處置に倣ひ、本件商議繼續中戦債の支拂延期を希望すると述べ、英國公文は右商議地と

して華府を提議した。

(ロ)大統領の聲明書及米國の回答

フーヴァー大統領は英佛等諸國の求むる本件商議を開始するとせば其の在任中に纏るまいと思はるのみならず、議會との關係もあるに付次期大統領ルーズヴェルト氏と相談の上、來るべき議會に何等かの提案をしたいといふ主旨でル氏に會見方を申入れ、其の應諾を得て十一月二十二日氏と會談の後、更に二十三日民主、共和兩黨有力議員とも會談の末大統領及ルーズヴェルト氏は夫々聲明書を發表した。

右聲明書に於て大統領は「從來外國に債務を有せざる米國民は常に一方的に讓歩を餘儀なくせられ、外國民の負擔すべき租税は米國民に轉嫁されて來た。此上犠牲を求むるに忍びないけれど、若し債務國側に於て米國品の販路擴張、軍縮を以て米國民の租税負擔を輕減する方法に依り適當の報償を米國民に與ふるに於ては何とか話合の餘地もあるべく、右の趣旨に於て英佛等と意見交換を行ひ、適當と認むる解決策を議會に報告せしむる爲、世界經濟會議及一般軍縮會議代表を以て構成する一の機關を設へることが適當であらう。又十二月十五

七

日の支拂に關しては、米國政府の表明せる原則に照し猶豫を正當とすべき事實の提示なく、此際寧ろ右支拂を實行する方が一般戦債問題の討議開始に有利であらう。尤も貨幣價值の下落貿易の減退等の爲、弗に代ふるに當該國貨幣を以て支拂ひに充つるの方法に考慮しやうとの趣旨を述べ、他方ルーズヴェルト氏は、支拂猶豫問題に關する措置は現政府及議會の責任であるとして婉曲にフーヴァー大統領の見解を支持せる後、一般戦債問題に關しては米國と債務國間の個別的且獨立の交渉を行ふこと、戦債と賠償との間には何等關係なきこと等の點に付フーヴァー大統領と意見一致を見たるが、右原則にして確立せらるる以上、米國と債務國との間の交渉方法の如きは第二次的問題とならうけれど、兎に角右は現在の機關及外交機關に依ることを以て有效と爲した。

國務長官は一九三二年十一月二十三日、前記大統領の聲明の趣旨に依る回答を英佛白三國大使に手交したが、英國側では同月二十五日首相及藏相は其の演說中本問題に關し何等かの調整解決案を見出すことの困難ならざるべきを仄かし、首相は世界不況救済の爲、米國との協調の必要なこと及戦債の取消又は減額を提議せるものに非ざることを明にした。

尙米國議會側の態を見るに、英佛等より債戦支拂延期の申出あるや共和、民主兩黨有力議員中には、右申出を以て戦債の抹消又は大削減を目的とする歐洲側の共同戦線と見做すもの少からざると共に、歐洲諸國が軍縮經濟協調等の方面で米國に酬ゆるの行動に出るの保障なき限り、右申出を受諾してはならぬとの意見も相當行はれたる模様で、要するに英佛等の通告の筋に依り更にモラトリアムを與ふることに反対し、英佛等が支拂をせぬならば其儘放置するの外なしといふに大體の意見が一致せる如く、前記十一月二十三日の大統領及兩黨有力議員の會談に於ても議員は一致して支拂延期に反対し、議會に於て新に機關を設けて戦債問題を再檢訓する如きことにも反対の氣勢を示したらしく、從て大統領が議會に對し其の聲明書に言及せる機關設置を勸告するも殆んど問題となるまいと見られ、唯ルーズヴェルト氏が此の際一般戦債問題の検討の必要を認めたことは希望を將來に繋ぐものとして注意を惹いた。又フーヴァー政府は曩に世界經濟會議招請に應ずるに當り、戦債及關稅の二問題を議題とせざることを條件としたに拘らず、今回の大統領聲明中には、戦債問題と世界經濟不況打開問題とを關聯審議するの議會を作るが如き案に言及してゐるのは、民主黨有力者の戦債問題を

世界的經濟不況回復に關する諸問題と共に一括國際會議に於て解決を計れとの意見を取入れたるもので、明かに現政府の態度の變更を示すものと一般に觀測された。

(ハ)英佛の第二次對米通牒

英國政府は十二月一日第二回對米公文を交付し、其の中に於て、資金移動の方法は由來最も不自然であり、從て再検討を要する所、右の方法に依る支拂の爲生すべき財政的經濟的缺陷に世界が果して耐え得るや否やに寧ろ問題がある。英國は戰債に付ては大なる犠牲を拂つて居り、現状に於ては十二月の支拂を困難とする一方、此際戰債支拂を再開すればローザンヌ會議の結果を水泡に歸せしむるであらうことを縷述せる後、英國政府は今回の支拂延期要請理由、即ち戰債支拂をフーヴァー・モラトリアム以前の儘で實施するなら必然世界通商の不況を激化し、物價の低落を加重し、全世界は其反動に苦しむに至るべく、從つて本件に關し英米間に話合を行ふは景氣回復に有效なるべきこと、十二月支拂延期は右話合成功の見込を増大すべきを信じ、右延期に付最も便利なる方法の發見に付、米國と共に考慮せんとするものなる旨を述べた。

佛國政府も同じく十二月一日對米第二回公文を發し「フーヴァー・モラトリアム」提案は獨逸大統領の要請に基いたるものであるが、同提案の動機たる經濟不況は其の後愈よ深刻化し歐洲諸國は「フーヴァー、ラヴァル」聲明の趣旨に従ひローザンヌ協定に達し、佛國政府は不利を忍んで之を受諾したものであるが、右協定は更に一般的なる協定を俟つて初めて完全のものとなる。ローザンヌに於ける努力を徒爾ならしむるが如きは重大事である。且現存戰債協定を嚴格に適用することは不自然なる資金移動に依つて世界不況を惡化するに止まり、結局米國民の利益であるまいとの趣旨を述べた。

尙其他の對米債務國中エストニア、ラトビア及波蘭は既に米國に對し元本支拂延期方を正式に通告し、希臘は支拂を實行せず、洪牙利は支拂不能なる旨を通告し、又伊國は英佛白等の態度に拘らず沈黙を守つて居たが、十二月五日のファシスト大評議會に於て、世界經濟回復の爲には伊國從來の主張たる戰債抹消に依る根本的解決の必要なること及賠償と戰債との相関性確認すると共に、十二月の支拂を爲すこと及直に新協定締結商議開催方を政府に要請する旨決議した。

(三)米國の對英佛回答

一一

1 米國の第二次回答。米國政府は前記第二回英國政府公文に對し、十二月七日回答を發して戰債問題に關する米國從來の主張を繰返し戰債支拂は世界不況の原因に非ずとし、世界經濟會議の準備として戰債問題の全般的檢討を爲すの用意あるも、右は戰債抹消を意味せずして米國製品の販路擴張に資すべき報償方法の考慮を要すると述べ、米國議會は十二月の支拂を容易ならしむべき合理的提案を考慮すべきを確信する旨申送り、翌八日佛國政府に對しても同趣旨を回答した。

2 英國の第三次對米通牒及米國の回答。英國政府は前記米國の回答に鑑み、特に其のローザンヌ協定との關係を重視し、十二月八日首相及藏相は巴里に於て佛國首相及藏相と意見交換の結果、戰債問題に付ては英佛共各々独自の行動を執るの權利を保留しつつ國際的協力に依り世界經濟回復の方策を講ずべき共通の決意を固めたる旨公表し、以て英佛は戰債問題に關し對米共同戰線を張るものに非ざることを明にすると共に、英國政府としては、既に十二月の支拂を爲すことに決意し、十二月十一日米國政府に對し、戰債問題の全般的

檢討に關する英國の主張には變更なき旨を明にした後、同政府は十二月の支拂を金を以て爲すべきも、右支拂は之を現存戰債協定に依る年次拂と認めず、戰債問題の最終的解決に際し考慮に入れらるべき元金の償還と看做さんとするものなる處、右の措置は例外的なること明白であるから、現存協定の一般的崩壊を避くる爲、一九三三年六月十五日迄に何等解決に到達せんことを希望する旨の第三回公文を送致した。

右に對し米國政府は即日對英第三回回答を發し、戰債支拂條件變更の權限は議會に存し、行政部としては現存協定の條項に基く受領以外の權能を有せざるが故に、今回の英國支拂も現存協定通り元金と共に利息支拂にも充當するものとの見解の下に之を受領すべく、英國側提議は今後交渉上の措置に對する希望を述べたるに止まるものと思考すとの趣旨を申送った。

3 英國の第四次對米通牒。右米國の第三回回答を承けて、英國政府は十二月十二日更に米國政府に對し、英國第三回公文は何等米國憲法に影響ある問題に觸れんとするものではなく、唯英國として今回の支拂を爲すに至つた理由及今後戰債問題の全般的討議に當り提起

せんとする諸點に付豫め留保を爲したものに過ぎないと述べ、右討議を速かに開始するの必要ある旨を力説せる第四回「ノート」を發する所があつた。

米國側は右英國公文を以て寧ろ英國内政上の目的に出でたるもので、英國が現行協定の下に十二月十五日の支拂を爲すことに變り無しと認め、國務長官も右支拂に關する限り米英兩國間の交渉は打切られたとの意を表示した。

4 佛國エリオ内閣の總辭職。佛國側に於ては、十月末議會再開以來戰債問題の討議を要求して居りたる下院共和聯合（右派）は、十一月二十九日即時討議に依り支拂反對の決議を爲さんことを要求した。然し政府の希望に依り下院は之を十二月十二日に延期方議決し、エリオ首相は其の際戰債問題に關し、政府に於て決定に達せば米國に回答するに先ち議會に諮るべき旨約したが、其の後十二月八日の前記英佛兩國首相及藏相會議の結果、佛國政府は十二月の支拂を爲すの己むを得ざるを決意し、エリオ首相は十二月十二日下院に於て留保付支拂の必要を詳述する所あつた。

然るに之より先、米國政府が英國の留保付支拂申込を拒絶したとの報道は佛國下院の形勢を惡化せしめ、社會黨は國際會議召集迄支拂延期方を決議せる爲政府の立場は益々不利に陥つた。而して佛國政府に於ては十二月十三日英國回答と歩調を合せた留保付支拂案（戰債改訂會議の速開を要求し、十二月の支拂額は將來の協定額より差引くことを求め、一般的戰債協定成立せざる限り將來の支拂は不能だと述べたるもの）を下院に提出した處、外交財政委員會共に之を否決し、一般的商議あるまで支拂を延期すべしとの修正案を採擇して之を本會議に提出した。

本會議に於ては、留保付支拂案に對しては右派中央派の外社會黨が反對し、政府黨たる急進社會黨中にも政府案を支持せざる者が出て來た爲政府案は否決され、委員會案の通過を見るに至つて、エリオ内閣は十二月十四日辭表を提出した。

五、戰債支拂の履行及不履行

1 支拂日到來と對米債務國の措置。上記の如く歐洲諸債務國の對米戰債支拂延期に關する對米交渉は其の目的を達するを得ず、滿期日たる十二月十五日の切迫に伴ひ諸國は對米戰債支

拂の履行に關する態度を決定するの必要に迫られ、伊國先づ之が履行を聲明し、次で諸國の注視せる英國亦留保を附して之が履行を決定したが、其他の債務國に關しては曩に米國政府が十二月十三日白耳義及チェツコスロバキアの第二回公文に對し、又同月十五日波蘭第二回公文に對し夫々英佛第二回公文に對して爲せると全く同趣旨の回答を發したに對し、十四日白耳義及波蘭より滯納の旨、チェツコスロバキアより支拂履行の旨通牒あり、十五日更に佛國より十四日佛國下院に於て米國が前以て一切の國際債務を整理すべき一般會議の召集に同意せざる限り支拂を爲すべからずとの趣旨の決議を可決した結果、同日内閣辭職し滯納の止むなきに至れる旨の通牒に接した。

右の結果十二月十五日米國大藏省は英國（元本三千萬弗利子六千五百五十五萬弗）伊國（利子百二十四萬五千弗）チェツコスロバキア（元本百五十萬弗）芬蘭、ラトビヤ及リスアニアの六國より總計九千八百六十八萬五千弗を受領し、之に對し佛國（利子一千九百二十六萬一千弗）白耳義（利子二百十二萬五千弗）波蘭（元本二十三萬二千弗、利子三百七萬弗）洪牙利及エストニアの五國は滯納したが其の總計は二千四百九十六萬六千弗に過ぎざる旨を公表

した。

2 米國の輿論。英國の支拂が好感を齎らしたる反し、佛國の滯納は可成り不良なる印象を米國に與へた模様であつたが、米國議會に於ては戰債を履行せざる外國政府證券の賣出方を禁ずる趣旨の決議案が一九三二年十二月十四日下院へ、又旅券査證に對し多額の料金を課し、米人の戰債不履行國旅行を禁遏する趣旨の法律案が十二月十五日上院へ夫々提出された外、米佛間の通商條約交渉中止、軍縮交渉中止、國際常設司法裁判所加入議定書批准反對等の聲も一部に起つてゐる。

六、戰債處理に關する大統領教書並民主黨の態度

其後フーヴァー大統領は本件に關し特別教書を一九三二年十二月十九日米國議會に送付したが、同教書に於て米國及主要債務國間戰債問題に關する最近の交渉經過を述べ、結局戰債、世界經濟回復及軍縮の三問題は相關聯し、殊に來るべき世界經濟會議の成功は戰債問題の速かなる検討に負ふ所多大であると説き、次で

「本問題に關する諸外國との交渉には通常の外交機關に依らず、特別に本件交渉の權限を與へられた代表者に依るを可とすべく、尙右代表者の一部は世界經濟會議及軍縮會議の事務に参加すること及右代表者の一部は議員を以て之に充つることを適當としやう。然し戰債問題及世界經濟會議は予の在職中に終了し得ざるが故に予は次期大統領たるルーズヴェルト氏に對し右代表者の選定に協力せんことを求める。右機關は大統領の權限に於て設定せんとするものであるが、若し議會が法律に依つて之を設置するを可とするなら予は之に賛成する」と述べた。

茲に於てルーズヴェルト氏の態度は内外注視の的となつたが、諸新聞はルーズヴェルト氏は戰債問題の検討を直に開始することに異議無きも、其の方法に付てに十一月二十三日の同氏聲明の如く、現有外交機關に依れば足ると爲し、現政府と責任を分つが如き形式を取ることは民主黨側の回避せんとする所であると報じた。

然るにフリーヴァー大統領は十二月二十日に至り、ルーズヴェルト氏との間に往復せる電報（自十七日至二十一日）を公表すると同時に、前記特別教書に於て述べた提議にルーズヴェルト

氏は不同意である。予は氏の意嚮を尊重するとの趣旨の簡単な聲明書を公表し其の提案に係る代表者の任命を見合すに至つた。

斯くしてフリーヴァー政府は民主黨の協力を得ず、獨力を以て問題の處理に當らねばならぬ立場に立つに至り、他方英國等も民主黨及議會の協力を得ざる共和黨政府と話合を進むることを躊躇すべき旨の報道が専らであるから、一般に戰債問題は一九三三年三月ルーズヴェルト氏就任迄無爲に持越さるゝものと觀測されて居つたのである。

七、一九三三年初の米國上院の討議

一九三三年一月四日米國上院に於て戰債問題に對し五時間に亘る論議が行はれた。右論議は主として佛國の支拂不履行に對する批難に終始し、殊にハイラム・ジョンソン氏、ウオットソン氏、ロビンソン氏、リード氏等の共和、民主各黨有力議員は何れも佛國の態度を責め、リード氏の如きは、

「支拂を履行せる英國と、而して長期恩を受け居れる國に對し、約束履行の能力が有りながら

之を履行しなかつた佛國との間には截然たる區別を立てねばならぬ。吾人は大戰以來各種の援助を佛國に與へた。而かも吾人が支拂を求むるものは、現在の價值に於て往年の貸與額の半以下に過ぎざるに拘らず、佛國民は吾人を「シャイロック」として嫌惡する」と述べた。

唯ボラー氏はラヴァル首相對フーヴァー大統領の會談に先つて催されたる一九三一年八月三十一日白亞館に於ける大統領對上下兩院領袖會合の際、戰債の改訂又は支拂の問題に關し之を支持し能はざる旨述べたが、大統領佛國首相會談の結果は、賠償問題を整理するに於ては米國亦戰債の改訂に應じやうとの印象を佛國に與へたことは當時發表のコムミュニケに徴して明白である。佛國の不履行を辯護するかに解せらるゝは不本意であるが、佛國が賠償問題の整理ありたる今日、戰債の改訂を求め得やうと考へたるのは尤もと言はねばならぬと述べウオットソン氏との間に論議を生じた。

尙同日民主黨議員マツケラー氏より戰債支拂不履行諸國の協定違反を看過し難しとなし、此等諸國に警告を與ふる旨の決議が提出され、外交委員會に付託となつたが、前記討論中フーヴ

アー對ラヴァル會談に關するボラー氏、リード氏の所言に多大の相違を來したる爲、同日の上院本會議後リード氏より國務、大藏兩長官に意見開示方を求むる所があつた。

一月九日米國上院に於てリード氏の右要求に對する國務及大藏兩長官の五日附各回答が發表された。右に依れば、スチムソン國務長官は米佛何れの側よりも戰債又は賠償の帳清又は減額を提案せること無く、又右に付何等言質を求められ、又は與へたること無しと述べ、ミルズ大藏長官は、大統領及佛國首相の會談に全部列席したけれど右會談中ローザンヌに於て行はれた所の「獨逸賠償の改訂行はるゝに於ては佛國の對米債務の改訂行はるべし」との言質が與へられたと言ふ如き主張は何等根據なきことを無條件に言明し得ると述べた。

備考

第一表 戰債其他大戰に關する米國の對外債權

(甲) 債務整理協定締結前の米國債權額

(乙) 債務整理協定に基く米國債權額

(丙) 債務國よりの既往償還額

第二表 一九三二年十二月十五日支拂期限到達の對米戰債支拂額

第一表 戰債其他大戰に關する米國の對外債權

(甲) 債務整理協定締結前の米國債權額 (單位百萬弗)

(國別)	(休戰前)	(休戰後)	(合計)
英國	三、六九六	五八一	四、二七七
佛蘭西	一、九七〇	一、四三五	三、四〇五
伊太利	一、〇三一	六一七	一、六四八
白耳義	一七二	二〇七	三七九
露西亞	一八八	五	一九三
波蘭	—	一六〇	一六〇
チエツコスロバキア	—	九二	九二
ユーゴスラビア	—	四二	五二
羅馬尼亞	—	三八	三八
奧大利	—	二四	二四

其ノ他十國	一〇	六〇	七〇
合計	七、〇七七	三、二六一	一〇、三三八

(乙) 債務整理協定に基く米國債權 (單位百萬弗)

(國別)	(協定成立時)	(基本債務)	(利率)	(元本及次鎖却金額及利息總額ノ合計)
英國	一九二三年	四、六〇〇	三、三〇六	一一、一〇五
佛蘭西	一九二六年	四、〇二五	一、六四〇	六、八四八
伊太利	一九二五年	二、〇四二	四〇五	二、四〇八
白耳義	一九二五年	四一八	一、七九〇	七二九
波蘭	一九二四年	一七九	三、三〇六	四三六
チエツコスロバキア	一九二五年	一一五	三、三二七	三三三
ユーゴスラビア	一九二六年	六三	一、〇三〇	九五
ルーマニア	一九二五年	四五	三、三二一	一二三
其他	—	七八	—	一三一
合計	—	—	—	二二三

合 計 一一、五六五 二二、一八八

(丙)「フーヴァー・モラトリアム」實施前迄に於ける債務國よりの既往償還額 (單位百萬弗)

(國 別)	(基本債務)	(償還額元利子を含む)	(残存元本額)
英 國	四、六〇〇	一、九一二	四、三九八
佛 蘭 西	四、〇二五	四八六	三、八六四
伊 太 利	二、〇四二	九八	二、〇〇五
白 耳 義	四一八	五二	四〇一
波 蘭	一七九	二三	二〇六(註)
チエツコスロバキア	一一五	一八	一六七(註)
ユーゴスラビア	六三	二	六一
羅 馬 尼	四五	五	六四(註)
其 他	七八	三二	三〇一(註)
合 計	一一、五六五	二、六二八	一一、四六六

(註) 債務整理協定に依り支拂猶豫を認められたる爲金額が増加した。

第二表 一九三二年十二月十五日支拂期限到達の對米戰債支拂額 (單位弗)

(國 別)	(元 本)	(利 息)	(合 計)
英 國	三〇、〇〇〇、〇〇〇	六五、五五〇、〇〇〇	九五、五五〇、〇〇〇
佛 蘭 西	—	一九、二六一、四三八	一九、二六一、四三八
伊 太 利	—	一、二四五、四三七	一、二四五、四三七
白 耳 義	—	二、一二五、〇〇〇	二、一二五、〇〇〇
チエツコスロバキア	一、五〇〇、〇〇〇	—	一、五〇〇、〇〇〇
エ ス ト ニ ア	二一、〇〇〇	二四五、三七〇	二六六、三七〇
芬 蘭	五八、〇〇〇	一二八、二三五	一八六、二三五
リ ス ア ニ ア	—	九二、三八六	九二、三八六
ラ ト ビ ア	九、二〇〇	一〇二、六五二	一一一、八五二
波 蘭	二三二、〇〇〇	三、〇七〇、九八〇	三、三〇二、九八〇
合 計	三一、八二〇、二〇〇	九一、八二一、四九二	一二三、六四一、六九八

B、米國財界の不安と今後の動向

一、信用擴張政策と公債不安

現時のインフレーションは銀行預金の膨脹を來せること及低金利の持續と公債高値維持の形態を以て進行しつつあるが、一方政府は何時たりとも更に約一割の弗價引下の權能を有するが爲、今日と雖も通貨價值に就ての不安一掃せられず、折に觸れてデパリュエーション説擡頭することとを免れず、其都度政府公債の低落を反覆惹起して居る状態である。

國債の現在残高二百七十二億弗に對し之を保持せる最大の投資家は各銀行筋であつて、ドクトル・パーカー・ウィルスがヒナンシアルグロニクルに發表せる所によれば、此中百六十億弗即ち全體の約六〇%は各銀行の手中に在ることであり、斯の如く公債の分布が偏在的なのは何等か材料出現せば利喰賣叩を誘導することとなり相當危険の存することを指摘して居る。

今日の如く各銀行の手許資金巨額となり、而も恰好の放資口乏しき際に於ては、銀行は何れ

も其預金として吸收せる資金を専ら短期政府公債買入に使用するの外途なき有様であるが相當値頃となるも賣却後の資金利用の途なきが爲久しく賣却手控の姿であつた、過般の銀國有宣言發布後急速に一時公債の低落を來したのはインフレーション懸念を契機として一には利喰の賣進に出たものと言はれて居る。

最近來公社債市場頗る鈍状であつたのは來月政府は十七億弗の金融を控ふるに對し、各銀行共其成行を見送り氣迷の姿であり賣買共手控の爲めであつたが、再び又復インフレ聲明に政府公債の低落著しく株式市場俄然強調を呈した。政府は結局公債高値維持を圖ること政策遂行上何れにせよ絶體必要であるが、一面既に公債への投資額巨額となつた今日に於ては爲替相場の騰落と同様公債相場の動搖の幅は自然擴大されて來ることとなり、投資物として保有することの安全性は幾分薄らいで來て居ると言ふことができる。

政府の財政計畫上差迫れる問題は既述の通り、九月十五日期日 11/2% Certificate of Indebtedness 五億二千五百萬弗及第四回 1/4% 自由公債、十月十五日償還豫告十七億弗の償還に關する件であるが、是等に關しては九月初旬發表を豫想せられて居る。新聞論調によれば政府の Cashposition

は極めて餘裕ある上、新公債發行により資金を賄ふとせば相當の Basis にて賣出さるゝものと見られ、期日到來すべき公債の大部分の保有者たる銀行は新公債に對しても之を受入れることは疑がないとし、種類は現在の市場より考慮し長期のものとの中間のものとの二種に分たれるであらう。従て假令最近政府公債の低落著しいものがあつたとは言へ、新公債の賣行には何等の影響がないであらうと見て居る。

米國政府公債への巨額投資が果して將來安全なりや否やは米國の將來に對する觀測の如何により自ら議論の存する所であらうが、米國政府が一般の信任を傷けることなくして信用擴張政策を遂行し得る限り投資物として差支なきものと言ひ得るであらう。但し假令 Controlled Intion にもせよ其の程度が進むにつれ、公債の將來に對しても不安の念を高めることとなり、自然其折々の相場動搖の程度が加はり、投資物としての安全性と確實性とが次第に薄弱とならざるを得ないこととなる傾向をもつが、更に長い目で見るならば弗が大統領に許されたる切下最低限度五〇%で安定といふことにでもなれば再び當國への資金回歸を促し政府公債の需要も勃興するものではあるまいか。

二、米國西北部農作概況

一九三四年八月十日米國農務局發表によれば、同年度米國小麥の收穫豫想高は四億九千萬「ブッシェル」なりとのことなるが、之を例年の七、八億萬「ブッシェル」に比すれば、非常なる凶作にして、右は主としてロッキーマウンテン以東の中部六州の早魃に基因するものなる處、反之西北部三州（華州、オレゴン、アイダホ）の小麥收穫豫想高は、六千七百六十一萬三千「ブッシェル」にして略々平作に近く、麥價騰貴の結果は當方面農家は、約五千萬弗の收入を期待しつゝあり例年西北部地方は小麥の生産過剩に苦しみ、政府は買上又は輸出補助等の方策を講じ來り、昨年來緊急輸出協會の手により東洋方面に賣込の爲、買上たる額は二千六百五十萬「ブッシェル」に上り、其大部分は輸出済にて目下約五百萬「ブッシェル」を手許に存するも、之亦不日小麥及小麥粉として輸出せらるべし、従て本年收穫の過剩小麥は鐵道又は巴奈馬運河經由により東部及加州方面に移出せらるべき見込にて、既に相當大量の移出を見つゝあり、米國全土を通じ三億二千五百萬「ブッシェル」に上りたる小麥の滞荷も此分にては一億二千五百萬「ブッシェル」程

度に減少すべき見込なり。

小麦に次ぐ當地方の重要農産物たる果實類も良作にして、特に本年は市價高騰せるを以て農家の利益多く、例へば華盛頓州梨類は平作以上の四百二十六萬四千「ブツシエル」の收穫を豫想せられ、市價は例年の二倍にして一噸十五弗乃至三十弗なり、又當州の名産たる林檎類は二千四百萬「ブツシエル」の收穫にして、品質は極めて良好而も他州は不作によりて更に好影響を受け、桃類亦豊作にして東部地方への移出相當盛となりつゝあり。

當州内邦人農家は主として蔬菜類を栽培し居る處、數年來蔬菜類も亦生産過剰の結果著敷市價の値下りを來せる爲、甚だ不況の状況にありしが、本年は他地方の凶作に依り蔬菜類特に主産物たる豆類の市價騰貴せるを以て、邦人農家の大部分も亦永年の損失を償ふ程度の利益を收め得たり。

要之從來生産過剰に苦しむたる西北部地方の農家は、中部の旱魃により本年は却て好況を見んとするの状況にあり。

三、米國南部の經濟界恢復の徴候

米國南部の經濟界は屢報の通り漸次恢復の途に就きつゝある處、更に最近の概況を記するに當地方銀行の手形交換高の増加、郵便局の切手販賣高の増加、各海水地の繁昌、市役所の赤字減少等好況現象を呈しつゝあり、即ち一九三四年七月中ルキジアナ州ニューオルレアンス、ジョージア州アトランタ、ヴァージア州リッチモンドの三都市の銀行手形交換高は合計三五九、九〇〇、〇〇〇弗に上り、前年七月に比し四五、三〇〇、〇〇〇弗の増加を示せり。フロリダ州ジャクソンヴルの七月中の銀行手形交換高は三七、四七六、〇〇〇弗にして、六月に比し二二、四二八、〇〇〇弗の増加なり、又イス・カロライナ州チャロット銀行の七月交換高は四五、五六一、〇〇〇弗、前年同月に比し八、〇〇〇、〇〇〇弗の増加なり。

殊に夏場商賣の激増せるは注目し値すべく、ヴァージニア・ビーチ・ホテル組合會長の談に依れば、本年は前年に比し六〇%の營業を増し、一九二九年以來の好況なりと云ふ。ミシシッピイ州ガルフ・ポートにては來遊客の數年前に比し三倍に増加し、アラバマ州モビールにては夏

期の居住者著増し、貸出コテイジは貸切となり、新に借入困難なる趣、ジョージア州ブランズウキック附近のシー・アイランド及セント・シモンズ等にてはホテルは何れも満員の盛況にて前年に比し一〇〇%の増加ジョージア州サヴァナ・ビーチの本年商賣は頗る良好、ノース・カロライナ州アシブル及同州西部地は一九三〇年以來のベスト・シーズンなりと云ふ。

南部九大都市よりのレポートに依れば、六月中郵便局の切手販賣高は一、〇八五、〇〇〇弗に達し、前年同月に比し五六、八〇〇弗の増加を示せり、鐵道バス、ガソリン・ステイション、レストラン其他の營業者よりの報告に依れば、南部を通じ確實に營業を増加しつつありと云ふ。

C 産業復興法の解説

一 成功か失敗か？

昨年六月十六日「産業復興法」を裁可したルーズヴェルト大統領は、各種産業に於ける同業者團體をして當該産業の勞務諸條件其他に付同法の目的に添ふ如く「統制規程」を自發的に設定せしめ、政府に於て一々審査の上之を認可厲行すること、したる外、右規程の手の届かざる方面にも遺漏なきを期する爲ヒュージョンソン氏を長とする「産業復興事務局」に命じて、別に總括的産業統制規程（最低賃銀、最長勞務時間、幼年勞働禁止等を含む）（註一）を起草せしめ、右脱稿後間もなき七月二十四日ラヂオを通じて之が受諾方を全國關係者に訴へ、八月一日より十二月末日までを一期間として關係事業主より該規程を基礎とする契約を大統領との間に任意取結ぶの形式をこらしめ、確定契約者に對しては之が象徴たる「青鷲」のマークを適宜

掲出せしめ以て官民一途、不況克服の徹底に腐心して來たが、後者規程の有効期間は更に本年五月一日まで延期されるに共に、各方面の復興工作も略ぼ順調なる發展を遂げ、就中、商工業に關してコードの提出されしもの既に一千二百、採用實施中のもの二百六十に達し、勞働爭議の如きも著減し、一千數百萬の失業者中職を得たるもの政府の各種救濟事業に相俟つて七百萬乃至九百萬に達するに達するに至つた（二月九日現在）。

左記二種の論文は、昨夏より略ぼ現在に至る右復興工作の一面を髣髴せしめんが爲に取り敢えず紹介したもの、ジョン・メーナード・ケインズ氏は言ふまでもなく英國の經濟評論家として重きを爲す人、ジョン・ストラチー氏は全米の講演行脚を終えて最近歸英した評論家であるが、文中の小見出しは編者に於て便宜上之を挿入したこゝこゝ、ストラチー氏論文の後半、米國の復興運動が當然同國側の經濟的ナショナリズムを激成し、ルーズヴェルト政府の平和的意思如何に拘らず、結局國際的葛藤に導くべきを論斷した部分を省略し、一種の悲觀論として前者に對比せしめたこゝこゝを斷はつておく。



一 ケインズの樂觀論

一 改革か革命か

現在の社會組織が容す範圍内で筋道立つた實驗を試み、之によつて時弊を矯めようとする側の人々が各國にゐる。ルーズヴェルト氏は今端なくも之等人士の與望を自から荷ふの形となつた。失敗すれば合理的改革は痛くその信用を害し、全世界を擧げて革命主義對改革主義の決闘場と化するであらうし、成功すれば隨所に思ひ切つた新手法が改革上に試みられるこゝこゝならう。大統領の實驗の歸趨が異常に重大視されてゐるのは、之を以て不況克服に資したいこゝこゝだけでなしに、かゝる理由があればこそである。

大統領の遣口は果して事の輕重を誤つてはゐないか、その顧問連の獻策中には怪し氣なものがありはせぬか。大統領に對する英國側の同情者さへも懸念を抱き、倫敦の實業界も亦概ね、

大統領にして今の顧問連に絶縁せざる限り米國は顛落の憂き目を見はせぬかを憂慮してゐる。然し之等は何れも認識不足の致すところで、私は左程に前途を悲觀するものではない。

二 兩個の工作

大統領には二重の任務がある爲に事は複雑なるのである。其の一は復興、即ち不況の克服、其の二は業界並に社會の改革（夙に來るべくして來らざりしもの）之である。

復興上肝腎なのは靦面の効果を擧げるに在りしところだ。改革の方でも、多年離伏の後政權に有附いた自由主義の民主黨政府の身にしては功を急ぐ氣味もあらうけれど、改革は由來拙速よりも功遲を尊ぶ。復興工作が靦面奏効する時、大統領は茲に遠大なる改革を成就すべき原動力を掌握するところなる。

過去九ヶ月を顧るに、復興、改革兩工作の緩急必ずしも宜しきを得ず、後者は往々にして前者に誤認されて來た嫌ひもあり、當局の努力は過度に改革方面に費され、復興方面へのそれに不充分的の憾みがないでもなかつた。テクニクに付ていへば、景氣の挽回を悉く物價吊上の一

手でやつてゆかうとする謬想が復興上の成績に累を及ぼした。

元來物價の騰貴は、それが普通生産の發展を而して失業の減少を隨伴すべき筋合として歓迎される、蓋し購買力が旺盛になれば物價高のまゝ生産量は膨脹するものに見られるからである。然し「物價が昂騰せざる以上生産の發展は望まれない。故に通貨を増發し、増發されたる通貨の流通を活潑にするのを嫌つて業界の恢復を阻碍してはならぬ」と斷定することは間違つてゐる。

増産を犠牲にして物價だけ上げてみても致し方はない。債務者中に助かる者が出來ても一般社會の恢復はその爲に妨げられる。生産原價の故意の引上げや、限産に起因せる物價の吊上げは、國民購買力の増大から來る物價騰貴には及びもつかぬ。物價の吊上を以て能事了れりとするやうでは、景氣の挽回上に物價高が貢獻する所乏しきを見て結局失望するに至るであらう。

三、反 動 來

次に、一九三三年の秋米國の復興上に現はれた反動は、貸出金が就任半歲後の政府の手で抄

々しく増加しなかつた事情から夙に見透し得る種類のものであつた。十月半までを比較すれば前年のフーヴァー大統領時代よりも貸出金の支出は減じてゐたらしい。

全国の生産を増進せしめ、之によつて失業者を減ずるところに復興事業の目標がある。然るに近代の経済組織からいへば、何よりも先づ物の賣行が盛んになつてから生産が起るの順序で、購買力の増減は生産量の大小を支配する。大雑把に言つて、左記三個の事情の一角が缺けてゐては生産の増加は行はれない。

- 一、世人に勧めて現在の所得中からもつゝ散財させること
- 二、前途を明るくして、又は金利を低下して、配下使用人の所得を増加させるやう事業主を勧説すること

三、政府乃至市町村を促がし、借入金を散ずることにより、若くは紙幣を増發することにより世間の目前の収入増を企圖せしむること

今の不況時に(一)は望めない。又差當り米國では(二)も駄目である。尤も政府乃至市町村の散財から産業が好轉した後、第二段の對策として之をやる場合はこの限りでない。

政府が其の借金で全國の購買力を露ほすこと、これが何よりも大切で、之に比すれば他は論ずるに足らぬ。私は思ふ。莫大なる資金貸出の基礎が確立したかごうか。いふ事に向後半歳の事態を主として左右されよう。今までのところ金が幾らも使はれてない。私は敢て驚かぬ。咄嗟の間に資金を有用に支出することのむづかしさは英國自身に體驗がある。イクス内務長官が慎重事に當るのは敢て非難すべき筋でない。近く貸出金が多分に散じられるかごうか、萬事はそれに支配される。而して一九三三年十一月には其の徴候が現はれた。今後それが著々増大してゆくことすれば、此の夏までには米國の産業界には改善の美花が開くであらう。

四 經濟的 謬 想

更に、相當の勢力をもつた謬想がある。普通に貨幣數量説(註二)を稱せられるさつばくなく經濟學説それがである。

通貨の數量を窮窟に制限すれば産業的生産も各個人の所得も早晚減じてゆくに相違ない。而かもこの事實から演繹して、通貨量さへ増大すれば生産、所得共に増大することを考へる人々があ

るらしい。それは恰度、寛い帶革を着用すれば體が肥えるといふのと同じ論法で、一個の制約的因子たるに止まる所の「通貨」に對して過大の價值を附し、増産乃至所得増大の原動力たる消費量の問題を却つて輕視する如きは人を誤るも甚だしい。

これに輪をかけた愚説は、右の思想を擴張して、金價對物價の間に數學的關聯ありとするもの之である。

弗の對外價値の増減(弗爲替の騰落)は、國際貿易に出廻る種類の商品に影響を及ぼす。故に弗爲替を過度に高くすれば、この關係に於ての國內物價の吊上げを妨たげ、對外支拂の決濟尻を不利にする。従つて、この限りに於て弗爲替の下落は望ましい。然し國內の物價が順調に騰貴すれば自から弗爲替の下落を誘ふの道理で、その下落は自然に委するを以て至當とし、恣まに之を落として世界に迷惑を及ぼすべきものでない。私は思ふ。

こはいへ、大統領は當時出色の政治家で、復興手段に一大改革を施すの必要を認識しながら、無理を通さず、破壊を事せず、雅量を以て之が遂行に當り、誤謬を訂正しつゝ、其の進路を模索してゐる。大統領は究極に於てそれを見出すであらう。

然らば大統領として目前の成功をかり得べき、具體的方策如何を問はるゝならば私は左の如くに答へる。

五、弗の平價切下

平價の切下並に爲替政策によつて弗價の不安を一掃すべき時節は既に到來した。

外國爲替の投機者流に無定見に拮抗することは本來の目的に背き、政府の威信、世人の信頼を傷けるのみか、延いては商取引の決斷を鈍らし、社會の耳目を不相應に聳動させる。

即ち大統領として執るべき道が三つある。

第一、弗の平價切下を斷行し、新平價を以て金解禁を行ふこと(物價の安定を旨とする大統領の宣言には悖る所もある)

第二、爲替相場の變動を防ぐ爲英國との間に爲替協定を遂ぐること(尤も五弗よりもズツに下位で磅對弗の協定に應ずる肚がなければ實際政策上の問題はならない)

第三、一定價格を以て金及び外貨を賣買し、大幅の無意味なる弗貨の動搖を避くる旨を宣言

するこゝ（但し國際收支の均衡維持及び内外物價の調整を行ふ上に何時たりこもバリテイ
ーを變更するの權利は之を留保する）

大統領過渡期の對策としては先づ第三であらうか。又對内策としては前に述べた通り、政府の宰領の下に巨額の資金を散ずるこゝを第一としよう。散財の目的は産業界に雪達磨を轉がすに在るので、今後半年間にグツミ一ミ押し押し出せば米國は一轉して繁榮に向ふ。

最後に、政府の支出が世間の懷中を霑ほし、産業界の雰圍氣が好轉する潮時をすかさず、クレヂットの豊かな聯邦準備銀行が個人的企業の擴張——殊にその短期高利債の長期低利債への借換——に出動助力するこゝを私は希望する。

英國の業界は主にも長期債の金利引下げによつて好轉し、英蘭銀行は有意的に之が爲、公開市場政策を執行した。米國大藏省としては長期公債の利子を二分五厘以下に引下げて毫も支障なしを考へられるし、準銀さへ短期藏券の長期債への乗換を諾するならば證券界全般も之を好感するであらう。政府自らインフレを行ふほご樂なこゝもない代り、又それだけの危険は伴ふ。然し事困難なりこはいへ、合理的な一切の手段を竭して復興を遂げんこするほごの當局が之に

失敗しようこは思へない。大統領は必ずや成功を収めるであらうし、今ロンドンに行はれてゐる悲觀論は誤謬の結果たるこゝを私は確信する。

二 ジョン ストラチーの悲觀論

一、インフレの足取り

復興法に準據する諸々の産業統制規程に爾餘の不況新對策が相寄つて米國資本主義の機構をどう變化してゆくか、それを検討するのが本論の主旨である。

第一に、眼につき易いインフレーション對策の方面から考察してみる。産業復興法運動を象徴する「青鷲」は不思議な鳥で、左右の翼を交互に羽ばたく。而して右の翼の爲すところを左の翼をして知らしめないのである。

インフレーションを讚美して「クレジットの強制的擴張」といふことが方今流行する。私の所謂青鷲の左の翼はこの「クレジットの強制的擴張を實行するもので、「左」と言つたのは何もそれが労働者に安定した利益を授けるからではない。實際はその逆を行くものであるが、唯

物價の比準を引上げるこいふ方面のみを取出していふならば左の三點に於てそれは「左」の政策でもある。

第一、一時的ながら債務者の利益となること

第二、政府で救濟事業に盛んに散財する關係上産業労働者一般の就職率を暫時恢復させる。

従つて大衆へのデマミして力強く響くこと

第三、産業資本家と對抗關係に在る「極右」の金融資本家から猛烈な反對が出ること

「青鷲」は今日までインフレの「左の翼」だけで飛んでゐたから、その方の成績を先づ點檢してみる。シカゴ、デーリー・ヘラルド紙上（一九三三年十一月二十四日）にリ्यूキーザー氏の掲げた「功過表」が私の散見した中で最も豊富且簡便であつた。氏は左記三個の日附を取出して立論した。

△四月十七日……………米國の金兌換停止當日（新對策の出發點とも見做してよからう）

△七月十八日……………昨夏産業界の發展が絶頂に達した日

△十一月十三日……………氏の調査上の「現在」

表中の主眼は産業界の生産指數と卸賣物價指數とである（別種の統計も見たが、數字上の差異は本論を崩すほどのものではなかつた）。それによるこ、四月十七日——十一月十三日の七個月間に生産指數は四%を、而して卸賣物價指數は一七・五%をそれ／＼増してゐる。

然しその中間を調べてみるこ、四月——七月の間に於て、生産量は四三%方上進したのに、物價は僅々一六%しか騰貴しなかつた事實があり、結局七月——十一月の間に於て生産量は二七%方減じ、物價は一七%方昂騰した勘定になる。

二、物價高生産減

見るにつけても重大性を増し來るのはこの數字である。吾人は四月の月にクレジット機關のブレーキを緩めて突進した。弗貨は下落し、政府は幾十億のクレジットを豫約し、産業的生産は躍進を遂げ、物價亦之に追隨した。而して生産及物價兩指數の上進する率も至つて健全に見られ、通價政策故の物價高は産業界に對して一の刺戟劑として働いたこも考へられた。一九三三年の夏に於ては、件の刺戟劑たる一六%方の物價騰貴は忽ち患者側（産業界）に四三%の

生産昂騰となつて響いた。新政策を司るドクトル諸先生は寧ろ得意であつた。

然るに病勢はブリ返へし、生産量は下落又下落の一途を辿つた。而かも駆け付けたドクトル達は、此の前能く利いた薬をもつこ飲ませろこいふ以外手の下しようがなく、何人に對しても借金と貸出しを強制して廻つた。然し今度投じた幾十億弗の効果は以前よりはつゞ稀薄となり、患者は之を抄々しくは服用し得ず、利いた點こしては僅かに物價が一・七%方騰貴したに止まつた。

更に當惑したのは、薬が何等患者の力の足しにならなくなつた一事である。十一月十三日現在の生産は新對策開始勿々の際こ略ぼ同一の比準に還元して了つた。リューキーザー氏の數字でいへば、産業復興法の成績は半年が、りで生産量を四%方引下げた、而かも之が爲に一七・五%方の物價騰貴の代償を支拂つた、こいふに盡きてゐる。愈よ本格的インフレの眼前に迫つたこが右の數字によつて明らかだ。

聊さか通貨價值の下落が起り來る當初は——それがクレジットの強制的擴張に原因するこ紙幣の増刷に原因するこを問はず——件の影響は著しく生産上にあらはれ、新たなる生産に實需

に對して接近してゆく。然しながら次第に機關の運轉は澁滯を來たし（一九三三年七月）新對策の當事者は更に幾十億弗を注入する外なしとするに至つた。然かも此の期に及べば、以前の効果の半ばを奏する爲には倍額の投薬が必要となる。而して、物價指數と生産指數とは相共に昂騰するけれど、昂騰率に變調を來たし其處に不吉の徴候が現はれた（一九三三年七月——十一月）。

物價の動きと生産の動きとは方向が逆になつて來た。政府から放出する幾十億弗の金は、行く／＼困難を加へながらも、尙ほ物價比準を吊上げるの力はもつてゐる。然し生産比準の方は頑固に下向の一途のみを辿つてゆく。

三、落 著 點

米國のインフレも落著するところは所詮これだ、と評することは早計でもあらう。今迄に隨分通貨は出てゐるけれど、今後政府の増發すべき通貨量に至つてはその位でなからうし、新規クレヂットの奔流が物價比準を高めることにも變りはあるまい。従つて生産指數下向の傾向が

その爲に押返へされぬものでもない。孰れは複雑なる諸多の要素が交互に作用し合ふのであるから、其の見据えはつかう筈もなし、一九三四年一杯、急角度のインフレは繼續されるに相違ないから、その結果は生産量を向上せしめ得ざるまでも、世の所謂「繁榮」状態を取戻す爲に持續されてゆくであらう（蓋しインフレの期するところは社會全般の隆昌をいつたユトピヤ的理想を目指すものではない）。

然しながら、インフレ政策なるものは畢竟するところ之に基づく利潤を如何に分割するかの問題に盡きてゐる。インフレの實體として、物價全般に急速な騰貴が起る結果、それが各種資本家の間にどう影響するかは極めて複雑な問題である。

債権者側が悉々痛手を負ひ、債務者側が全部その負擔を輕減されることいふことに議論の餘地はないが、大概の資本家は債権者であつて同時に債務者を兼ねてゐるから面倒だ。

企業家、事業家、「ファーマー」なる農業的小資本家乃至小工業家等は兎に角一時は利益を受け、金融業者、銀行、生命保險會社、投資信託等は一齊に打撃を被る筈ではあるが、之等の分類に對しては更に無限の分類小分けが利くので、インフレの影響も容易に突止め得ない。

但し米國社會の、地方別を加味した階級別が今日も尙ほ依然として存在してゐることは、この問題に對する政争激化の跡をみても明らかである。

換言すれば債務者側に屬する西部諸州の農業者乃至工業者——所謂「スモール・マン」——は安直な弗を求め、この弗を以て債務辨済に充てんするに反し、東部諸州の銀行家、金融業者等の大債権者は高價なる弗を要求し、この弗を以て債權回収を行はんとするのである。兩者の利害は散々戦はされて來た。而して今もなほ後者はインフレ政策の停止に狂奔してゐるが、一九三四年には相當徹底したインフレは潜らせられるものゝ私は確信する。

四、統制は可能か

或は又、此のインフレは大統領が意のままに處理し得るところの「統制付インフレ」ではないか。反問する向きもある。如何にもテクニク上より言へば無論統制は利かう。幾十億弗の金を放射するポンプを停止することも、或は又不換紙幣の増刷——かゝる舊手法が行はれること——を停止することも出来る譯である。

然しながら、政治上より見ればさうは往くまい。インフレの停止は果して何を意味するか。曰く、大衆に金を拂はず、救濟事業の従業者名簿から四百萬人を抹殺することである。

今各地の人々は政府の増發する安直な弗の御蔭で一息ついてゐる。此の人々に政府で金を拂はなくなるのだ。棉花栽培業者への、小麥栽培業者への、而して豚飼養者への幾十億弗を引上げるのだ。

インフレを停止したら、スプリーグ君、アル・スミス君あたりは喜ぶだらうし、大統領の評判も同時に——ウォール街では——高まらうが、ルーズヴェルト氏その人の現前の全國的名聲はさうなるか。

今や安直なる弗の堰は開け放たれ、失業者は如何はしい實物給付を離れ、救濟事業の賃銀として相當の金——一週十弗乃至十二弗——を現金で受取つてゐる。彼等に課せられた仕事の大半は勿論笑止千萬なもので、違法なる看板の取外し（シカゴ市）とか郵便局のペンキの塗替へとかいつた種類ではあるが、兎にも角にも失業者中の幾割は之で金が取れるやうになつたのだ。ルーズヴェルト氏としては其の政治的生命からは無論のこと、生理的生命を保つ上から言

つても此のインフレは止め得ない。私は地方巡視の結果考へるやうになつた。安直な弗は次第々々に購買力を減じてゆくけれども之無きに優るこゝ勿論である。

五、大資本家躍起

然らば大資本家階級がインフレ政策に必死に抵抗するのは何故か、それが次の問題となる。手持債券類を株式に乗換へる等少しく恠巧に立廻れば彼等は略ぼその損失を回避し得るのみならず、安直な弗はいつても之あるが故に擔保も受出される譯で、貸金のコゲ附を見るよりましだと思はれるけれど、大資本家になれば、其の考へ方は又別で、救済事業は差當り安い弗で賭なひ、大半現實賃銀の上で労働者に損をさせて行くやうなもの、インフレの過程一に度去らばそれだけの失費は税金で理合はすの外ないといふ風に受取るのであらう。英國の資本家が（失業保険等の爲に）重い負擔に呻吟する爲體をみて米國の資本家に怖毛をふるふのである。

六、弊害の上塗り

惟ふに米國インフレを潜る。然し喧々囂々たる議論が一過してみるに「インフレ」は何の事だといふ結論に到著するであらう。蓋しインフレは毫も米國資本主義に根本的變革を來すものではなく、労働者階級の生計を却つて苦しくするものだからである。假令變革を來したところで、それは所詮各種資本家の間に新たに富の再分配が行はれるといふ意味に外ならず。一九二九年秋の瓦落の原因となつた資本主義の諸々の特質は何等面目を改むるどころなく、一層之を濃厚ならしむるであらう。

七、資本主義の修補

扱、今度は注意を「青鷲」の左の翼「インフレ」から右の翼「組織」の方に轉じてみる。可なり多くの人々は、復興法の「組織」の翼を以て社會主義への一進歩を踏出すものを見てゐるが、又他方之を以て資本主義を組織化するの端緒と考へ、先年の瓦落を二度せぬやうに、

安定ある首尾一貫したものに資本主義を矯正す所以であるを看做す人々もある。

兩者の見解中何れが正しいか、それを斷ずるに付ては一九二九年の瓦落を招いた原因が資本主義の奈邊に存したかを突止めねばならぬ。

現行資本主義には根本的な特習が三つある。而して此の三特質が相寄つて先年の瓦落を生じたとする見解は極く大雑把にみて成り立つのである。其の一、クレジットの過度の擴張、其の二、獨占的傾向、其の三、産業機械化の傾向之である。

八、クレジットの横溢

一九二四—二九年の期間を特徴づけるものは思ふに無茶なクレジットの擴張であつた。

産業家は誰彼の區別なく皆莫大な資金を銀行、金融業者、保險會社等に仰いで生産設備を新設擴張し、出來た品物は皆捌けて儲かるこいふ確信の下に新工場を設け、新たに土地を開墾し又は既耕地に改善を施こした。

而かもそれらは何等相互の聯絡なしに無計畫に出現し、自然仕事が増えて失業者は著減した

やうなもの、其の仕事たるや、消費材の製作ではなくして新規なる生産手段の製作であつた。禍根は茲に潜んだのである。

是等新規生産手段が愈よ完成し、實地に消費材の生産に従事するや、物資は忽ち氾濫を來たし、而して、それミ時を同うして最早や無用ミなつた労働者は労働市場に逆流して來た。生産の能力が幾百倍に膨脹した時恰かも幾萬、幾十萬、幾百萬の労働者は失業して消費力を喪失した（極端な一例をこれば、製靴工場の如きは最大實需の三倍半も出現した）。

然らば對症療法として、無茶なクレジットの擴張を止めるの外はない。次の不況を避けるには次の景氣を抑へねばならず、新規に生産手段を起すに方つても確たる現實の市場を引當てにしつゝ、行く／＼決濟出來る、程度の資本乃至クレジットを以てそれを起すやうにせねばならぬ。

翻つて不況新對策の所爲を見るは其の正反對であり、政府當局のインフレ的手法は益々露骨ミなつてゆく、それで景氣は出るにしてもその景氣は從來のそれは比して十層倍も不健全なものミなるであらう。蓋し實需乃至有効的需要から游離せる點に於て従前のそれより甚しいが

故に瓦落が來れば其の性質は一層悪化せざるを得ない。

九、獨占の強化

現行資本主義の第二の特質は獨占形成の傾向之である。

放置すれば資本は集中し、生産規模は増大し、小資本家は大資本家の手に併合され、延いて被併呑會社の使用人——大切な消費者階級の中堅——が消滅する。シャーマン排トラスト法は勿論群小資本家が自衛上必死に成立させたものではあるが、商品の一大市場たる中間階級を保全することに經濟的意義もあり、それが有効に運用された限りに於て資本主義を調節して來たものとも見られる。

然るは復興法は率先シャーマン排トラスト法を中止した。加之、米國資本家は今や多くの點に於て合同を強制されてゐる。

資本家同志の競争手段たる賃銀切下、商品の價格引下乃至勞働時間の延長は復興法によつて封じられ、小資本家が資本家に拮抗する所以の競争形態は致命傷を被つた。實際南部、中西

部、東部の人々に面接して、復興法の影響如何を尋ねてみるに「スモール・マン」に於てはヒドク辛いと異口同音に答へる。(註二)

一〇、産業機械化の一路

弊害の根柢に横はる第三の特質は産業機械化の傾向である。

カレント、ヒストリー誌一九三三年十一月に出たスチュワート・チユース氏論文の實例を引くならば、ミルウォーキー市のエイ・オー・スミス會社では自動車の車體を一日一萬臺製出する新機械を工場に据え付けた。舊い機械でも日に一萬臺は出來るのだが、それには二千の職工が要つた。然るに新機械でやるに二百人の職工で済む。かくして一千八百人が一遍にドツミ街頭に投出されたといふ。

獨占と並行する産業機械化の過程は消費者としての中間階級を締付けて跡形もなくする。機械を以て人間に代用するこゝをやめさせるには、可及的に勞働を安價にし、可及的に勞働時間を延長するの外なく、さうすれば資本家も高價な機械を買ふより賃銀切下で行く方が得だとい

ふ算盤玉を弾くかも知れないが、假令名義上にもせよ、最低賃銀や最長働時間を高い水準に規定すれば、それはやがて資本家に機械化を勧めるにも等しく、職工を使ふのは不廉な贅澤となり、資本家仲間の競争は機械化又機械化の一分野にのみ局限されてゆく。

之に對處する試験的規定が復興法中にあることも聞いたが、全國を巡遊してみても何等有効の對策を見ず、復興局長官ヒュー・ジョンソン氏の如きも、同法は決して米國のテクニーク上の進歩を妨げるやうな反動的なものでないことを力説した。

復興法が産業機械化を刺戟した影響は既に表面に現はれて來た。ニューヨーク・トリビュン紙は一九三三年九月十二日、早くも機械製作に關する會社の株式騰貴を報道した。

(註一) 賃銀俸給に付ては

工場の職工は一時間四〇仙以上、商店員、事務員は就業地たる都市の大小に準じて一週十二弗乃至十五弗以上と定め

勞務時間に付ては工場は一週三十五時間以下、商店員、事務員は同四十時間以下とし、

幼年勞働者に關しては、十四歳未満の者の雇傭を絶対に禁止、工場に在つては十六歳未満の者も

之を禁止し、其他に於て十六歳未満の者を使用する際は日中三時間以下と限つてゐる。

(註二) 貨幣數量説は本文に言ふ如き素朴なもののみではなく、物價の騰落は

(一) 貨幣流通高

其の流通速度の二要素によつて影響せるものと見、又貨幣の中に、小切手として流通過程に投ぜらるゝ銀行預金なる潜在通貨及其の流通速度をも同じく計算に入れて立論するものである。

(註三) 上院は此の點に關し報告を求むる旨の決議を採擇した結果、政府は目下産業復興局及び聯邦商業委員會をして事實を調査せしめつゝある。

附記。農業方面の復興工作に關して、政府は棉花、小麥の生産制限に腐心し、玉蜀黍、豚、煙草の限産をも實施すべく農民に頻りに勧誘してゐるが、一九三三年の棉花限産の結果、必ずしも所期の効果が出なかつたので、「自發的減反」の案を捨て、法律を以て各州の割當を規定し、割當を超過して市場に出た棉花に課税する法案が目下上下兩院に提出されてゐる。

又、牛乳、野菜、諸種果實に關する販賣協定は相當の成績を收めつゝあるもの、如く、他方金融方面に在つては、一九三三年十月下旬以來、金購買政策を開始し、事實上弗貨を切下げ、愈々よ本年一月末日法律を以て四〇%強の切下を斷行したが、金融界は平靜に之を受容れた。

弗平價の切下は、國內に於て一面財政上の必要に寄與するに共に、他面無謀なるインフレーションを抑へるの效果があり、且切下の見据がついて一種の安定状態が作られたのは事實である。

D 倫敦經濟會議の成果

一、倫敦經濟會議の總觀

ローザンヌ會議最終議定書の第五項に「世界經濟並金融に關する決議」が掲げられてゐた。世界經濟會議を開催して廣く通貨及び經濟の諸問題を議すべしといふのが同決議の趣旨であつて、通貨の安定、換言すれば通貨制度を健全な基礎に置き代へることが來るべき會議の主要な眼目であることも既に決議の上で明らかにされてゐた、其後二回の豫備會議を開き、會議の議題が作成され、次で主要國間の意見を纏めることは出來ないまでも、主要問題について意見を交換すべく華府の豫備交渉が行はれた。

右のローザンヌ會議で大に儲けた者はマクドナルドであつた、彼は極度のネバリを見せて

苟くも會議を破局に導く虞ある障碍を悉く突破し、會議を成功せしめた、而て英人にとりてはローザンヌ會議が既に純然たる經濟會議であつたから、次で來るべき世界經濟會議は英國からすれば同じくローザンヌ會議の論理的歸結として當然倫敦に開催さるべきものと期待された。而てローザンヌ會議は世界經濟立て直しのジナラシを爲したものであり、倫敦會議はその上に世界經濟復興の石礎を築き上げるものであるといふのがマクドナルド及び英人一般の見解であつた、然れば若し倫敦會議が彼等の少くもマ氏の豫期せるが如き効果を擧げ得たならば、首相マクドナルドの功績は永く史上に特筆され、世界は彼及び英國に多大の感謝を捧げて然るべき建て前になつてゐた、然るに會議は豫期に反して失敗し、マクドナルドの目的は畫餅に歸した。彼は會議が開けるに、閣僚が會議の前途に對して早くも題を投げてゐる間にあつて極度の努力をなしたが、惜いかな四圍の情勢は彼の熱心をもつてしても如何にも爲し難く、折角の會議も有耶無耶に終つた、此の際若し彼に對して非難すべきものありせば、切り上げの潮さきを見るこゝが出来ずしてものならない會議にいつまでも執着してゐたこゝである云々やう、而てもう一つの失敗は米國から歸つた時に、ルーズベルトの豫備的會商が圓滑に進捗

し、會議の基礎がすつかり決定したかのやうに外部の者を信ぜしめたこゝである、こゝで愈々蓋を開けてみるに、米國との間に何等纏まつた話のついてゐなかつたこゝが曝露され、これが會議に少なからぬ動搖を與へた。

倫敦會議成否のめやすは戰債問題と通貨安定問題との二つの難問の解決如何にかゝつてゐた。然るに戰債問題の解決は極めてこそくなものとなつた、米國側では英國の一部支拂を認め、之を以て英國が戰債支拂義務を怠つたものでないとの聲明を發したに止まる、米のルーズベルトは既にこの問題のこきから板狭みの窮狀に立つてゐた、恰かも戰債問題について英米間に決定的交渉の進行してゐた時には議會はまだ開會中であつた、ルーズベルトとしては議會を無視するこゝが出来なかつた、然るにその議會は形式だけの支拂には頑として反對の意志を表明してゐたので一時は大統領の「ブレレスチツジ」が疑はれたものである。

戰債問題の解決は右の如きこそくなものに終つたにして、更にルーズベルトを待つてゐた第二の問題がある、それは國內物價の引上である、物價の引上げは米國人が擧つて彼に期待し、彼も亦政策の中心をなすものが物價の引上であるこゝを屢次聲明し來つたのである。

従つて彼を以てはさうしても此の際以前の聲明を實行し、國民の期待に添はねばならぬ立場にあつた、而て五月七日愈卸賣値段の引上を斷行したが、弗の据置き物價の引上げは兩立しないから、物價引上と同時に弗協定運動は打ちきられた、かくて經濟會議の第二の眼目であつた英、米、佛の通貨協定も惜いところで不調なつた。

通貨協定の失敗に關しては、倫敦會議では通貨協定が出来なかつたから、通商協定も不成立に終つたこの説を立てゝゐた、それは確かに一面の事實に相違ないが、それなら通貨協定が出来たらば、通商協定が成立したかといふも、必ずしもさうは斷定するを得ない、ルーズヴェルトは議會から各種の全權を委ねられてはゐたが、關稅問題で拘束的協約を締結する權限は賦與されて居なかつた、關稅問題の決定權は議會が留保してゐた、此の點が會議に非常な不安を與へた、何となれば米議會は關稅の引上をこそ主張すれ、關稅引下げには反對の態度を示してゐたからである、他方オッタワの諸條約並スカンヂナヴィヤ諸國との協定に縛られてゐる英國をはじめ、佛國その他の諸國も此の際もつゝ自由な通商政策に轉向するが如きは殆んど期待されなかつた、之等の事情から推測すれば、通貨協定の失敗のみを以て通商協定不成立の原因と

斷ずるは當を得ない。

倫敦會議は失敗した、それにしても會議が大戦後の一の大きなエピソードであることには疑ない、何となれば會議の經過を通觀すれば、經濟的方面でも將又外交的方面に於ても、來るべき各國の離合集散及び各自の行くべき途が略ぼ明らかとなつたからである。則ち同會議の決裂を機として米國は歐羅巴より手を引き、國內經濟を以て満足し、他の諸國に關係せず、獨自の途を進むの肚をきめた、英國がエンバイヤを中心とし、磅貨諸國のブロックにより大きなエンバイヤを現出せんとしてゐることこの會議で愈々明らかとなつた、而て金本位制維持の爲めに佛、伊が共同戦線を張つたことも注目すべき現象であることに、蘇國がウィツカス(英國技師)逮捕事件以來中斷してゐた英國との通商關係を恢復し、蘇國を以て有望な市場なるが如く見せかけて米國を誘い、蘇國承認運動を促進せるが如きも特筆すべき事件である。

軍縮會議々長ヘンダーソンは倫敦に集まれる各國代表と談合をなし、行詰つた軍縮會議の打開策を講ずる筈であつたが、彼の折角の斡旋は佛國の頑強な反對でもものにならなかつた、此の間にあつて百パーセントの外交的成功を収めたものは不侵略條約の締結によつて東歐諸國を自

己の傘下に網羅し得た蘇國の活躍である、そしてローザンヌ會議で儲けたマクドナルドは倫敦經濟會議でその地位を蘇のリトヴィノフに譲らねばならなくなつた。

倫敦會議では豫定されてゐた問題は一つも解決されなかつた、而して反つて經濟的に又外交的に豫定されなかつた方面に大きな收穫が得られた。

二、倫敦經濟會議經過

1、通貨問題

倫敦會議の最も大きな失敗は主要諸國間に通貨問題の協定がつかかなかつたことであつて、會議の權威は亦之が爲めに全然失墜した。通貨と通商と生産とは會議の主要な三題目である、従つてそのうちの一である通貨問題の解決に失敗した時、會議の運命は既に定つた。而てそれからの討議は通貨安定について協定が遂げられたものゝ如く裝うて他の問題の交渉を進めて行つたのであるが、その假裝も畢竟役に立たなかつた。

會議は非常な盛況を以て開會された爲め、一時は何等かの成果が今次の會議で得らるゝもの

の如き外觀を呈した、則ち會議の開かれたのは六月十二日で、六月十五日は英國の對米戰債年賦金の支拂期日に相當せる爲め、會議としては直ちに暗礁に遭遇したこゝになつたけれども、この暗礁はさうやら避けられ、年賦支拂について英米間に妥協がついた、而て同日更に通貨安定問題について英、米、佛三國間に協定が成立したこの欣ばしき報道が倫敦から傳はつた、恐らく會議はこの時が頂上でそれから下り坂が続いた。則ち傳へられた三國の通貨協定は米國大統領ルーズヴェルトの承認を得るこゝが出来なかつた爲めに、不成立に歸した、不安な期待の幾日かを經た後、「今に於て通貨安定の措置を講ずるは時期尙早である」この米國側の聲明が到達したのである、この聲明は爲換市場に非常な悪影響を及ぼし、弗は一段と低落し、他の金本位國の通貨に對する不安が高まつて、和蘭のグルデン、瑞西の法は著しく低落した。

此に於て金本位諸國の代表は六月二十七日金本位制維持の聲明を發した、この聲明は右諸國の金本位制維持に對する外間の不安を去り、殊に和蘭發券銀行に對して少からぬ聲援となつた。七月上旬西歐金本位諸國は米國を動かすべくもう一度必死の努力を試みたが、米國が肯かない爲めに會議は殆んゞ此の時を以て決裂の危機に瀕した、此の間マクドナルド以下の斡旋が

あり、僅かに決裂の不運を免かれて、その儘進行はしたが、それから後の會議は影の存在に過ぎない有名無實のものであつた。

今度の倫敦會議で三つのグループが形成された、その一つは米國である、米國の眼目とするところはインフレに依つて物價の引上げをなすにある、それが爲めに米國は弗を低落せしめた、磅や法との比率を定めては物價の引上げが妨げられる虞のあるこゝが一つ、世界市場へ進出しやうといふ肚のあるこゝがもう一つの原因である、然しながら大綱は定まつてもこまかいこゝろになるに米國人自身にも案が立たず米國の進退は會議を通じてふらついてゐた。

次は金本位諸國のグループで、佛國が牛耳をこつてゐる、然しながらこのグループは單に策戰的なものであつて、實質的な關聯は諸國の間に毫も存在しない、従つて通貨的措施に依つて不景氣をさう切り抜けるかといふが如き具體的問題については何等の提案もなへ、佛國の如きは寧ろ放任的態度をこつて居り、クレジット、物價、通商の諸政策に依り金のあらたな分配を招來し、資本の國際的移動を自由ならしむるが如き方策については何ごこもいはない。

兩グループの中間に介在して兩端を持して居るものが英國である。英は米國の肚さへ定まれば

ば磅を安定してもよいとみなしてゐるが、同時に世界市場が弗安でかき亂される虞があれば、磅を下げやうといふ建前で、他方關稅政策等に依り磅諸國を糾合し、ブロックの形成準備に怠りがない。

(備考)

獨逸の他の新聞も經濟會議が當初の期待に反し殆んぞ何等なす所なく半死半生の間に彷徨しつゝあるを寧ろ冷笑を以て目し事の茲に至れるは主として米國の責任なるも、金本位諸國の態度も餘り感心出來ずと論じ、獨逸全權の一員たるシャハト氏は七月十三日倫敦に於いて國粹社會黨機關紙「フェルキツシエル・ベオーブアハテル」通信員に對し大要左の通り述べた。

通貨安定は世界に於ける經濟的協力上缺くべからざる前提なるを以て米國の弗安定拋棄聲明後直ちに會議を延期する事最も賢明なりしならんも其實現せざりしは海外諸國代表の思惑等を考慮せる外、米國の貨幣安定に對する希望を有するもの依然存在せるが爲である倫敦會議は今や明確を尊ぶよりも寧ろ「アズ・イフ」を基礎とせる感あり、獨逸は戰爭に

依る經濟的及財政的殘滓を淨化し國際協力の新「スタート」を樹立せんことを眞面目なる希望を以て會議に列席せる次第なるも會議は之れに對し全然無能なる事を暴露せるに過ぎず國際會議は議會政治同様没落の一路を辿り來れるを以て最早や此種の會議再開は無用であらう。

2、通 商 問 題

世界的不景氣發生の始に當りては關稅引上、割當制度その他いろ／＼の輸入制限が國際貿易破壊の主因なりとせられたものである、然るに此の主張は倫敦會議の後期では殆んど問題にされなくなつた、極めて悲しむべきことであるが、又無理のないことでもある。關稅休戰協定と相並んで爲換休戰協定を設けやうとの企てが失敗に歸せる以上、通商協定の遂げやうがないではないか、近來輸出諸國間の競争條件は爲換の混亂によつて著しき變調を呈し、物價や生産費の調節を目的とする程度の關稅の改正だけでは均衡がとれなくなつて來た、そして多くの國では關稅が爲換政策の爲めに左右せらるゝやうにさへなつた、則ち之等の諸國は自國の爲換を保護し且つ外國の爲換ダンピングに備へる爲に輸入を極度に制限するの止むなきに至つた、これ

は明かに産業保護の自衛手段であるから、いづれの國も爲換協定の成立せざる限り、産業の自衛手段を放棄しやうとしないのは當然である。

かくの如くにして關稅その他輸入制限については會議で何等纏まつた結果は得られなかつたが、議論だけは相當に賑はつた、さきに和蘭と白耳義との間に關稅一率引下の協定が締結された、今度の會議に米國から提出された關稅一率一割引下の提案は白、蘭の關稅協定に範をこつたものであらふ、然るに米國は中途から提案を撤回せるのみならず、更に多年の關稅休戰協定からの脱退を聲明した、本來各國の關稅は程度が區々で、現在既に過重なものもあれば、比較的これまで引上をなさなかつたものもあるから、此の際一率に一割の引下を行はんとするは聊か不公平であり、米國案の撤回せられたのは寧ろ當然であるが、米の眞意は他國に關係なく、自己の力によつて國內市場を固め、同時に南米市場に輸出上優越な地位を占めんとするにあり、その爲には關稅協定なきに拘束せらるゝを不便なりと感ずるに至つた爲である、英國は英帝國を固めて、外國の輸入を排除し、爲換政策によつて北歐諸國を磅クラブに隸屬せしめ、之を殆んど英帝國たるの地位に置いてゐる、而て今米が内に國內市場を固めて外に南米市場を

確保せんとするは英のやりくちに倣はんとするのである。

各國は出來得る限り自力によりて國內市場の更生を謀るべきであつて、それが世界經濟の現狀に於て最も適當な方法である、獨逸の經濟政策は此の見地に立つてゐるものであるが、各國の自力更生は同時に隣接諸國との關係が健全な基礎の上にあることを必要とする、殊に國際債務の方面から觀れば、債權國が債務國に對し貨物によりての支拂、即ち債務國の貨物に對して輸入を容易ならしむるの便宜を與へざる限り、債權を回收するの見込はない、此の問題は分科會で問題となつたが、債務國の輸出に便宜を與ふる件は本會議で畢竟有耶無耶に葬られた。

英米兩國は自らは幾多の特惠的條約によりて特有の經濟市場を確保しながら、他に對しては最惠國條款の違反の特惠關稅による經濟單位の擴張に對してあらゆる妨害を試みた、然しながら過度の自由貿易は理想としては申分ないが、現在の情勢では行はれ難きをいかん、之を實際の事情についてみるも、各國のうちには國際平和の不安に國際分業の停頓に鑑み、無理をなしてまでも國內に新工業を起せるものが少くない、而て之等諸國が新工業を維持するには關稅の保護によるの他途がない。

最惠國條款よりの違反、則ち地方的特惠協定は結合に歴史的關係のある諸國間にのみ許さるべきだこの議論があつた、さりながら歴史に云へば二三の國がそれに倣つて新しい途を行かんとするのも亦歴史的發展の結果に他ならない、獨逸は本來輸出國であるから、故意に自由貿易に反對するものでないことは明らかである、唯だ今日の地位が之を許さないのである。

獨逸の代表はいままでの通商障礙を排除することも、經濟的に遅れてゐる地方を開發して新たに市場を擴張することもが世界經濟の復興にも、工業品の輸出増進にも利益のあることを指摘し、他の注意を喚起したが、倫敦會議は此の方面に於ても何等の進歩をも示さなかつた。

3、生産問題

經濟委員會報告者たる英代表ランシマンは生産、販賣問題に就て左の如く述べた。

主要農産物及原料價格の激落は世界不況の主因である、而てこゝ、數年間に各國が鎖國的經濟政策をこるに至つたのも大部分はそれに基因する、生産、販賣統制分科會は充分に審議を盡し、此等の事情を明らかにすべきである云々。

こ、而て審議を續くるうちに、農産物の價格下落が不況の原因であること、各國の鎖國的經濟政策がその結果であることは明らかにされたが、委員會の仕事はそれだけのものになつてしまつた、委員會では各國代表の要求によりいくつもの分科會が設置されたけれども、解決された問題は殆んど一つもなく、多くは更に別の特別委員會に附托されて有耶無耶に葬られた。

生産統制に關する案は大部分佛國側の提出に係はるものであつて、その範圍は小麥、ワイン、材木、棉花、羊毛、石炭、銀、銅に亘つてゐた、此のうち銀問題は通貨委員會の分科會に附托されたが、その代り生産販賣分科會の方ではキューバ、和蘭の動議により砂糖、ブラジル代表の動議で珈琲が議題として追加され、更に希臘、土耳其では煙草を、エクワドルがココアを、イラクが棗椰子の實を討議すべきことを要求し、最後に英國の要求により茶と錫が上程されることになつた、問題が此の如く盛り澤山では短い會期中に纏まつた審議の出來ないことははじめから解りきつたことである。

審議の経過を述べるに、最初はあまりにも動きのされない規定によつて消費國殊に原料に乏しい諸國の將來の立場を拘束することを避けたいこの意見が多くの代表によつて主張された、



その後審議の途上生産統制が殆んど望みなしとせらるゝに至つてからは消費國の關稅引下を中心として論議が進められた、又附托された問題のうち棉花と茶は時間がないので遂に上程せず、茶だけはイクラの棗椰子にも、以前から續けられてゐるジュネーブの委員會に移し、適當なる機會を見て審議を行ふことになつた。

眞面目に審議された生産品のうちで稍纏まつた結末に達したものは銀で、之に關しては銀協定が成立した、同協定は四ヶ年を限り、銀を産出する主要五ヶ國に銀不賣の義務を課したものであるが、不賣の義務は政府だけに局限せられ、米國、加奈陀、墨西哥、ペルー、濠洲等の銀業者は生産、輸出にも何等拘束せられることがない、錫は現に存する國際カルテルを以て統制機關と認め、未だ之に加入せざる諸國に對しい同カルテルへの加入が勸請されることになつた、錫よりもつまつまらない結末をみたのは銅の生産統制で、之は經濟會議事務總長宛九月十五日まで適當と思はれる統制案を銅産出諸國から提出し、乳酪の統制は羅馬國際農事研究所であらためて下調査をなすべく、これまで續けられて來た砂糖の生産協定は今度の經濟會議で事實上崩壊して、砂糖の最大生産者であるキューバは協定を脱せんとし、日本ははじめから砂

糖の生産制限に關與しなかつた。珈琲、ココアも同様で分科會ではあらたに國際的統制の方法を研究し、別の國際會議で議することゝなつた。

小麥は經濟會議に切り離し、國際小麥會議で審議されたが、期待された主要國の生産制限も、輸入國側の關稅引下げも、畢竟ものにならなかつた、以上の不成績に鑑み、會議の失敗は國際善意の缺乏に基因するに鹿爪らしく泣言を並べるまでもない、これからどんな委員會が出來てもより以上の結果が得られやうとは信じられぬ、惟うに世界不況は農産物の價格協定だけで克服せらるべき性質のものでなく、通貨、クレジット、關稅について満足な解決をみた上ではじめて景氣の立ち直りが來るべきである、加之多數國の集まつてゐる國際會議が此の種の問題を議して纏まつた試めしは未だ一つもない。

三、倫敦經濟會議終焉

七月廿七日の本會議は米國代表コックスが提案し、伊藏相ユング、佛藏相ボンネの賛成を得た議長マクドナルド、英國政府並皇帝に對する感謝の決議を以て、無期休會に入ることゝなつ

た、右決議に對しマクドナルドは簡單に謝辭を述べ、藏相チエンバレンガ起つて英國政府の立場を述べ、心細い儀禮だけの喝采が起つた。こゝに離壇では聯盟の諸公、代表席では各國代表、新聞記者席では新聞記者が紙や書類をまこめてさつさ退席、廊下へ出てちりちりになつた。時まさに四時半、六十六ヶ國を網羅した大がかりの世界經濟會議、六週間に亘つて開かれてたる世界經濟會議而て事實は二週間前に已に形骸のみになつてゐた世界經濟會議はかくの如くにして終焉を遂げた。

これよりさき正午の休憩後、三時に再開された會場では若干の代表はまだ悼辭を讀んでゐた。

今度の經濟會議にこゝめをさしたものは米國大統領であつたが、ハル國務長官も亦會議の基礎を少からず混亂させたものであつた、それかあらぬか米代表の演説は會議の主要問題には觸れず、顧みて他を言ふの感があつた。軍備競争をこゝしく經濟競争は總ての國にこりて壊滅的であり、全世界にこり危険である、けだし國民經濟を雖も國際協力なくしては恒久的安定も得ることゝ出來ず、又健全な繁榮をも期せられないといふのが彼の演説の趣旨であつた。

日本代表石井子は關稅休戰並物貨交易の調整に關する米の提案を會議の再開までに研究する
 こゝを各代表に勸奨し、かくてはじめて會議に成果あらしむるを得やうと述べた。

次で起つた佛代表のボンネ氏は經濟不況の回復、國際貿易の復興には通貨安定が缺くべから
 ざる必須條件であるこゝを指摘し、この事情が早く一般の認識ならんこゝを希望した。

ボンネ氏のあこをうけて議長マクドナルドは閉會の辭を述べた、彼は會議のうみの親として
 當然感じてゐる筈の失望を表てにはあらはさなかつたが、それでも會議がこれで閉會となつた
 こいふのは正しくない、唯だ休會になつたに過ぎぬ、各國代表が一堂に會して解答を求めた問
 題の緊要性はこれまでと今後とに於て少しの差違もないといつた。軍備競争と經濟競争との相
 似は午前中に一度ソヴェイエツト代表のマイスキ大使が引用し、午後になつてハル長官がもう一
 度くり返し鼻についてゐた、それにも係らずマクドナルドは更に同じやうなこゝを繰り返して、
 我等のこゝに集つたのは經濟的軍縮を議し、亡はれた世界の繁榮を恢復する爲だといつた。

次でマクドナルドは遠慮勝ではあつたが、戰債問題にも論及し、債權國が貨物及び勞務を以
 てする支拂を承諾するに非ざれば、債務のこりたては畢竟不可能に歸すべしと述べ通貨問題に

付ては、他の問題の解決は主として同問題の解決にかゝつてゐる、それ程重要な通貨の安定措
 置をいつまでも此のまゝに放任するが如きは考へられぬこゝであること述べ、經濟や通貨の問題
 は純然たる國內的性質のもののみならず、ものでも、押しつめて行けば、各國との協調によらな
 ければ解決のつかないものが多い、こゝに國際的の讓歩の必要がある、そして又れそが畢竟各
 國自身の利益でもあること云ひ、最後に幹部會並實行委員會の議長として休會中と雖も會議の仕
 事を進めて行くこゝに全力を盡すであらふと結んだ。

四、通貨と列國

世界經濟會議は停頓に終つたが、毫も異にするに足りない。列強中確定方針を持して會議に
 臨んだものは唯二ヶ國、即ち佛、米の二ヶ國のみに止まつた。

米國現政府の政策はインフレーション、即ち一九二六年の同國の水準にまで物價を引上げよ
 うとするもの、佛國現政府の政策はデフレーション、即ち物價を更に引下げるか、又は少くも
 も三ヶ年のデフレーションの末一九三三年に到達した水準にそれを留めおくこゝを目的とする

ものである。相對立する兩政策は衝突するにきまつてゐる。

果然衝突は殆んど會議の劈頭から現はれた。佛國の指導にその鼓舞の下に一個の企圖が行はれてゐた。それは米國を初め大國を縛して、その外國爲替相場を、金を標準に事實上安定せしむべく約束せしめんとする企圖であつた。それが若し成功してゐたなら、米國政府は物價引上政策の上に手足を縛られた譯である。かゝる歸結……通貨安定に何等關係するこゝをルーズヴェルト大統領が拒むに至つたのは無論この歸結故である……に付ては、大統領の行動を批難する側の人々も一般に理解が薄いようだ。乃ち多少の解説を試みるも無益ではあるまい。

米國政府が通貨安定策に同意するこゝは、「弗」對「法」の爲替相場を一定比率に維持するこゝを約束するこゝになる。弗爲替の相場を一定の値段以下に落さざるこゝを同政府は約束せねばならぬ。其値段は一弗を二十五法とするか二十法とするか又は何法とするか知らぬけれど、兎に角「弗」は釘付にされる譯だ。

五、爲替は何で變動する

抑も爲替相場の變動は各國爲替の相對的需給關係に支配されるが、從來此の爲替の需要供給關係は普通三個の要素から發生するもの……大戰以前では實際その通りであつた……こゝで考へた。

(イ)貨物の輸入及輸出(ロ)所謂「貿易外收支」……例へば諸種サービスへの支拂、觀光客の消費、長期借款の利子等(ハ)長期資金の甲國より乙國への移動。

これらの項目は相複合して「貿易の決済尻」を作り、それが全體として均衡を保てば需給は茲に互角になつて双方の爲替は平價に落付くけれど、その均衡一たび破る、や、入超國は入超額の決済上「金」を輸出するだけの覺悟を要する。さもなくば爲替の需給は對等を失して相場は崩壊するといふのである。これが外國爲替變動の理論であり、常時には爲替は此の道程を辿つて動いてゆく。故に一定期間を通じて爲替の安定を保たんが爲には一國は前記三項目の貸借の均衡を旨く維持せねばならぬ。入超の決済尻は一時「金」を以てつけてもゆけるが、それは眞に一時のこゝであり、又差額も比較的少額の場合のみに限られる。

然るに爲替相場を支配する第四の要素が此處にある。その要素に従前餘り重きを做さぬもの

であつたところ、近頃になつて其の重要性は著々増大し來り現今に於ては他の三要素を打つて一丸としたものよりも更に有力なものとなり了つた。第四の要素は一般に「短資」と呼ばるゝものが甲國より乙國へ移動する事情之である。短資のこゝを便宜上本文では「現金」と呼ぶことにする。

差當り説明の要なきも、事情の然らしむるところ、全世界の「現金」——それは大半銀行預金の形として存する——は近年に至つて著増した。國際決済銀行一九三一年現在の調査によるこゝ一百億弗を注せられるが、一百億弗といへば先づ全世界の貨幣用金の總額に相當する額だ。完全に流動状態に在るこの老なる資金は二三の金融中心地に集中され、而して比較的少數人士の手中に壟斷されてゐる。之が所有者は主として銀行並に金融資本筋、次いで少數の富豪である。

投下された資本を流動状態に在る「現金」の相異なるところは、前者は全然動かし得ぬ、若くは動かし得ても換金手續——それには困難も多大の損失もが伴なふ——を経なければならぬけれど、後者は何等豫告なしに容易に動かし得るこゝいふ點である。

巨萬の「現金」を移動せしむるこゝは時に「爲替の投機」と呼ばれる。然しそれは不精確な表現、少くも極めて不完全な表現である。勿論爲替投機を事とする立人もあれば又折ふしそれを試みる素人もあり、且つ彼等の間に夥しい資金を擁してゐるこゝも争はれぬ。然しながら、「現金」筋全體を通じてみれば彼等投機者流は眞に九牛の一毛で、「現金」の大半は、本來投機者といはんより寧ろ投資者であるこゝの機關乃至人間に所屬するものである。而して彼等投資者は、丁度甲株を乙株へ乗換へるやうに、其の現金を甲の通貨から乙の通貨に乗換へる。而して乗換の傾向は自からインフレーションの行はるゝ國を去つてデフレーションの行はるゝ國に就く、蓋し前者に於ては物價が昂つて金の價値が低落するからである。

六、「現金」の煽り

扱、最初に列擧した三要素、即ち貨物の移動(貿易)、サービスの移動、長期資金の移動は緩テムボを以て行はれ、遅々として進みながら次第に自己調節を行ふのみならず、一般に爲替の先物取引が行はるゝ結果、それが爲替相場に響くのも専ら徐々であり、又その影響の如きも

普通之を豫測し得る。

然るに「現金」の方は突如として動く。而して移動の勢ひも猛烈で壓倒的ならば、其の分量も皆目見當がつかない。「現金」の移動は僅々一週目にして能く貿易の均衡を破壊する。而して一旦破られたる均衡は「現金」を以て對治するまで恢復しない。英國の磅爲替が一九三一年に崩落——全然「現金」の移動に起因して——した著明な實例を眼前に眺めながら、此の間の消息がなほ理解されないのは妙である。最近の弗爲替の崩落にしても同じこと、それは貿易收支の變動乃至貿易外收支の變動といふ普通の貿易決済尻の變化に因るものではなく、實に「現金」の移動、而かも割合少額の「現金」の移動に因るものであつた。

事情は此の通りである。「弗」を幾「法」かに安定せしめることを諾しておきながら、物價引上策を續行しようとするれば米國の立場は一體どうなるか。

「現金」關係グループは米國に於いても他國と同様、傳統上、打算上主としてデフレーションを可とする人々から成り立つことを忘れてはならぬ。米國政府が實地に通貨インフレーションへの措置をこる瞬間から——物價引上運動の一端としても通貨インフレはやらざるを得ない

——「現金」の流出は、彼の通貨インフレの見越しだけで夙に始まつてゐた所の現金の流出は俄然その勢を強める。而かも約束通り「弗」の相場を所定水準に保たんが爲には米國政府は「金」を輸出せねばなるまい。「金」の輸出は「現金」筋の錯愕を轉じて恐慌とするであらうし、之が流出の勢は激して奔流ならう。次第にかさみ來る「金」の喪失に惱んでゐた所の米國には破産の悲鳴があがることであらう。道理なき悲鳴は言ひ條それは依然として囂々として響く。物價引上策を放棄せよとわめかれて、政府は多分壓倒されもしようし、弗爲替を誓約通りに安定せしめんが爲に、或は逆にデフレーション政策へこ逐込まれもしよう。

ルーズヴェルト大統領は突付けられた特に手を通すことを拒絶した。通したが最後大統領が議會から授かつたインフレーション遂行上の権限は「現金」筋に其の行使の手を抑へられてフイに歸したであらう。大統領は所詮之に應ずる筈がない。

第一、事情の致すところ、米國としては國內の生産消費を常態に復せしむることが外國貿易上の如何なる問題よりも肝要である。

第二、又外國貿易にしたところで、米國は得をこそすれ決して損は招くまい。「現金」筋が

その爲に佛國の如き金本位國や英國の如き爲替の半ば安定した國に彼等の金を移動せしめる結果として弗の相場が下落しても、落勢の持續する限り米國の輸出業者が利益することは、恰かも過去二ヶ年間に英の産業家筋が之によつて需ほつたと同様であらう。

又他方、佛國側が米國に倣つて金本位を離脱——佛國の場合には必ずしも對內的にインフレーションを起すことは限らない——すれば「弗」對「法」の爲替相場はこれによつても事實上安定を得る道理である。金本位制を停止すれば、金が引出されても別にパニックを生ずることは最早無くなつて、現金の烈しい移動は減少する譯だ。然し佛國以下の金本位國に現在さる意思なきこと言ふまでもない。通貨安定の一件は従つて議題から消え失せたのであつた。

七、爾餘の案件

通貨問題以外の重要案件としては關稅を初め通商上の障礙除去が必然次に回る順序であるが、斷じて金本位制を擁護するに決した諸國は「現金」が金本位國に追隨することを識つてゐるし、金本位國の爲替は、目先は兎に角昂騰し、金本位離脱國のそれは目先下落することを識

つてゐる。

而して爲替の下落は、輸出上一時補助金の作用をなし、輸入上同じく附加關稅の働らきを生ずるから、金本位國は、通商上の現行制限を更に加重し、之によつて外貨の輸入に對處する十二分の自由を留保せんことを希望する。現に佛國の如き此の種の措置を講じてゐた。

かく通貨安定、關稅低下の兩題目を放棄し去つた以上、而して物價引上政策に付て融和し難き見解の相違が存する以上、談合の餘地は最早至つて乏しく、休會は不可避となつた。而して全世界の購買力増進策に失敗した經濟會議は茲に活動力の殘餘を生産制限に轉ずること、して種々の案を持出したのであつた。中には能くその目的に協ふものもあらうと思ふ。

今回の會議では、何國も甲斐々々しく目的を達成したものはないやうだけれど、少くも空氣はこれで明澄になつたし、難問中從來一般に認識を缺き、従つて充分の攻究を経なかつたもの、實相乃至各國の展望の相違いふものが明らかにされた。解決の第一要件は問題の理解である。會議は此點で普ねく世界公衆の理解を助けたのであるから、其限りに於て有用であつた。尙ほ利害の干格は今思ふ程に融和し難いものでもなからう。更に思ひ返す所があるならば、而

して事の成行次第では結局吾等を迷路から脱せしむるに至るかも知れない。

八、國際會議の批判

世界經濟會議、ルーズヴェルト大統領、軍縮、「國際議會」及び今後の形勢に付て某日午後私はサー・ノーマン・エンジェルと長時間談話を交へたが、此の長い會談の間に氏は米國並に世界に對するメッセージを與へてくれた。

倫敦キングス・ベンチ・ウオーク在アパートメントの氏の居室の窓越しに色鮮やかなプラタナスの青葉やら、ブッシュ・ハウス聖ポール間のテムズを上下する舩やらが眼に映る。然しながら「英文系評論家中其の深みに於てハミルトン以來の第一人者」なる定評が米國に於て行はれつゝあるサー・ノーマンの唇から、條理井然たる洞察深き談話がはじまる。此等外界の事象は忽ち念頭から消え去るのであつた。

私が氏を訪づれたのは挫折後事態の收拾に腐心してゐた世界經濟會議を去つてから、而して又軍縮事業の爲ジユネーヴでの際限なき奮闘に臨むべく出發するヘンダーソン氏を見送つてか

ら後の事であつた。

世界の前途如何。私はサー・ノーマンの心境を訊ねた。暫時黙してゐた氏は、やがて早口に獨逸及び露國の時事に觸れて來た。

「世に畏るべきものは壓制と盲従である。未だ西歐デモクラシーを毒するには至らないが、吾等にもその危険はある。英國の學校では青少年に「社會心」、換言すれば、眞の世界的識見を注入してゐない。地元第一主義や地方主義が最も幅を利かしてゐる。通貨に對しても通商に付ても而してその運用に付ても學ぶ所なく、純然たる感情的な議論の危険さいふことに關しても何等警告を受けてゐない。數年たてば彼等が有權者として又爲政者として社會に乗出すのである。

今回の會議を見給へ。又は戦後の何の會議でもよい、その爲體を見給へ。世界大戰の呈示したイリニュージョンから抑も幾何の教訓を得來つたか。會議さいふ會議が皆一樣に貧弱な、中途半端な結果を以て散會し、その果ては我が國民の間に危険極まる所の冷靜主義や倦怠を生ずるのである。何故か。

曰く、吾人は機構上からも、日常生活の上からも國際的一大單位化した「世界」に不用意の問に出會したが爲である。

痛切な問題が起るミアワテ、特別會議を開いてそれを解決しようとするが、一體短期の會議でそんなことが出来るものか。出來ぬものか。ヴェルサイユ會議この方會議といふ會議が皆、言はゞ一舉にして、永久的解決を得んことを標榜した。即ち、僅々一二ヶ月の會談や決議をすませるに最早や世界には協議し、攻究し、調整し、注視すべき事柄が無くなるといふ譯である。果して正氣の沙汰か。丁度議會を召集して結構な永遠的解決をつけた上、以後は法規や討論にヒマを出す、こいふのと同様、所詮出來ない相談である。而かも此のグロテスクな思想が廣く世界に行はれてゐるのだ。

何會議によらず、開會後一週間もするに、解決を期した問題は一層發展し、更に新要素を附加し來つて、ヨリ周到な攻究と別途の處理が必要になつて來る。米國の上下兩院にせよ英國の議會にせよ、此の間の消息を解するが故に之に適應するやうに仕組まれてもゐるし、事態の發展に對處すべき立法上の工夫も講じてある。

然るに折にふれて開かれる諸會議——ロカルノ會議、ブラッセル會議、ゼノア會議、ローザンヌ會議、倫敦會議——の方は主として危機に胚胎する時事の所産なるが故に失敗し、會議が濟めば忽ち其の決議の半ばを抹殺するやうな事柄が續出するのである。

倫敦經濟會議は非常に制限された議題を以て開かれたものではあつたが、米國側の不意の出來によつてそれが更に一段の掣肘を蒙つて參會者一同當惑した。

これが若し「國際議會」にでもいふものだつたら、短兵急に成果を得ずとも、目出度く手打にならずとも、當惑なきは夢さら感じまい。

國民が變遷し生存ししゆく限り新事態は必然に發生する。目出度く手打にならずともよいではないか。

九、中央機關の必要

今の世界はその中央に何等の機關をもたない、困つたものだ。永極的に意識し活動する神經中樞がない。氣のみ焦りながら往々無爲に終るのもその爲だ。而かも「失望」は時こして吾

等に積極的な害をする。

こはいへ、世人は、此の中樞なしにやつて行けるものでないといふ事を今後悟る所があらう。そゝくさゝ組織される一時的な怪しい諸會議の裡から必ず何等かの中央機關——別に何國の議會を模すべきものでもないが——が発生せずにはゐまい。世界は事實國際的になつてゐる。それをナシヨナリズム本位の政府が右に左に振回すやうでは所詮崩壊は免かれない。

吾等の所期に副ふべき中央機關のモデルは米國の聯邦政府機關である。種々狀況を異にし、大小劃一ならざる各地方を集めた老大な地域に政治を布いてゐる點に於て殊にさう思ふ。

然し機關はどうあらうとも、當局はナシヨナリズムに浸る世間に對して恐れをなす。ルーズヴェルト大統領程の「獨裁者」さへ數人の上院議員に脅かされば如何ともし難いし、その上院議員等に見ても、彼等より遙かに無識なる各自の選舉人諸子に恐れをなしてゐる譯だ。

十、賠償の茶番狂言

事の真相を傳へずに、専ら世人に諂つてゆくといふ著しい實例は、吾等英國人が賠償の悲喜

劇を十二個年も打たせておいたのを見てもわかる。明々白々な數理上の眞理——「賠償は一のイリュージョンに過ぎず」といふ事の計數的眞相——を敢然世人に打明けるだけの勇氣ある人は極めて少數に止まつた。

我が友人たる米國人諸子はこの點の啓蒙上まさか十二年はかゝるまい。過大債務の支拂、過大賠償の支拂が債務者のみならず債權者をも傷くるに至るべきは敢て戦争と撰ばない。事物當然の理として到底傷けざるを得ないのであるが、複雑で感受性鋭どき人間の社會的組織といふことに付ては政治家も教育者も、學生も大多數の評論家も未だ頭が出来てゐない。合成蒸氣機關等の發明は二十世紀の國際的世界にその機構を賦與したが、吾等は十八世紀十九世紀の心境と制度とを以て之れを運轉しつゝある。人々口を開けば自己防衛、祖國防衛とあどけなくも言ふ。道路交通規則を遵守するが至當であり、さうさへすれば萬人が安全になるものを、衝突した時先方が壊れるやうにとて我が自動車をヨリ堅牢に作るのと何の相違があらう。

帝國主義に取つて代るものは退嬰主義でもなければ、自給自足主義乃至は無謀な獨善主義でもない。取つて代るものは世界聯邦主義之である。

茲に至つて米國の歴史は世界にとつての貴重な道標になる。弛寛な英帝國の國民聯合組織はモデルになるか否かとの御訊ねであるが、彼の組織は明らかに行き過ぎである。地元第一主義が勝つて聯邦の紐帶なるもの、價値を充分に諒解してゐない。その爲吾等は現に多大の不便を感じてゐる。

米國は夙に之を解してゐた。奴隸解放の爲戦争迄したけれど、其戦争のお蔭で聯邦組織の至寶をも獲得した。事の序に申すが、米國の奴隸解放は戦争しなくても何年か待てば解放されてゐたと私は思ふ。解放論は既に瀾漫してゐたし、然かなるべき道程に在つたからである。

十一、難關を端的に突破す

米國には種々異なる地方的立法府があり、法律があり、習慣があるけれど、其の通貨、關稅、國防、上院、大統領は現に唯一不二である。茲に世界の將來に對する指標がある。而かも米國人は幾多の困難を排して之を獲得したのだ。幾代もの昔に彼等の爲し得た事に吾等とても之を爲し得るかと思ふ。

出来る迄は何でも不可能だといはれる。然し斯様な事は天から降つては來ず、飽く迄人間の手で仕遂げられるのである。英帝國、歐洲而して世界は今や之に類した事業を成就し得べき段階に到した。私は差當りさる「國際議會」の機構を云々する積りはない。唯嘗ての米國が對内的には戦争及び通商上の困難に力盡き、全土に多大の障礙を蒙つてゐた際、この問題に逢着し之を解決したことを一言した迄である。

經濟會議、軍縮會議の究局の運命は假令どうあらうとも、双方成功に近づいてゆくものと私は思ふ。「國際議會」に到達する以前にそれに近づいてゆくと私は思ふ。然しながら「國際議會」の方もその機關の端緒と之を作らんとする人間の意思とは既に具はつてゐる。

(備考) 七月廿八日の英國各新聞は經濟會議の休會に入れる事に關し論説を掲げ、同會議を以て失敗とするに一致したが、就中

「タイムズ」は、昨日のマグドナルド議長の演説は各代表の支持を得たが、幹部會に次の會期の下準備をなす權能を與へた事は會議再開前、主要政府間に根本問題に關し原則上の一致を得るの望を與ふると共にチエッコのマサリーク博士、佛國のボンネ氏等の演説は

各國が便々として次の會議の招請を待つ事なく、利益及見込を同じうする國民が互に協力するの政策に出づべき望あるを示した。次の會期は不明であるが、米國の實驗の結果が明かとなり、ルーズヴェルト大統領が確定的の國際政策を採るに至るに先だつて之を開く事は無益であるし、旁々政府間債務の問題の解決が實質的進捗を示す迄待つ方が賢明であらう。其の間何國政府と雖も甘んじて無爲に待つものはあるまいが、英國政府は争點の調停に努めると共に國內に於て繁榮を回復する外、帝國內の各國並に對英經濟關係密接にして其通貨が金又は弗に結付けられてゐない其他の國々となるべく緊密なる協力を遂げ以て繁榮の確保増進を計る事に努力せんことを望むと述べ、

「デーリー・メール」は、今後の安全なる道は經濟的ナシヨナリズム又は帝國內の保護及特惠制度を速かに促進せしむるにあると論じ、

「デーリー・テレグラフ」は、會議は帝國內の國々をしてオタワ會議に於ける協力を鞏固にする機會を與へたが、右は次善の收獲であると評し、

「モーニング・ポスト」は、六十六ヶ國間に協定を作らんとしたのは「デモクラシー」の

行過である。會議再開の場合には大國の全權のみを招請せよと説き、

「デーリー・ヘラルド」は、今回の會議が失敗したとて國際會議に對する信賴を失ふは愚かである。英國政府は外國に對し敵意を挾まず、國內回復に努むべく、各國がルーズヴェルト大統領の勇氣と精力とに倣つて國內問題を解決した後其結果を持寄らば次の會議は確かに有益であらうと觀測した。

(終)

附錄 世界の觀た日本經濟

一、忍び得ぬ日本の競争

綿業組合議長グレイ氏

イギリス

綿紡織組合の議長にして綿業團體聯合委員會の前會長たりしデー・エツチ・グレイ氏は日本品の世界的進出に關しマンチエスター・ガーディアン紙記者に對し大要左の通り語つた旨同紙は報道してゐる。

「日本人は世界的に懸念を起さしむる價格をもつて各種商品を全世界の市場に送出しつゝある

が日本人は之をもつて單にランカシア又は英國のみの見解なりと誤解してはならない。外國の或る方面に於ては日本の競争手段は歐洲文明の安定に對する脅威なりとの意見を有して居るのである、歐洲諸國及び恐らくその他の諸國は日本品の進出が各自國の國民經濟に及ぼすべき影響を注意しなければならぬこと及び或る種の行動を取ることを避け得べからざることを日本は十分了解するを要する。オランダ、フランス、イタリー等はいづれも本問題に細心の注意を拂ひつゝあるのである。

日本人の多數市場に於ては圓價低落を考慮するも尙ほ生産費以下の價格をもつてまた彼等が受諾するの必要な安價をもつて商品を販賣しつゝあることは疑問の餘地がない。かゝる方針に依つて惹起せられた敵意はこれを能率の劣つた競争者の嫉妬に歸することは出来ない。何人も日本人がその安き勞銀と近代的設備とをもつて有効に他國と競争する能力については苦情を云ふ者がない。けれども日本が世界市場を大仕掛に襲撃し日本品のために優越の地盤を獲得する目的をもつて爲替政策により人爲的に右有利の條件（勞銀と設備）を倍加し來るに於ては世界各國は袖手傍觀することは出來得ないのである。

最近印度の採つた行動（條約廢棄通告）はランカシアの要求に依るのでなくして印度の紡績業者が自分等の利益を保護するため自發的に努力した結果であることは日本に於て明らかに了解せらるゝことが必要である。本件には毫も人種的または國民的反感はない。日本人が現在遭遇しつゝある反對は世界の大半の産業機構を脅威する政策に對する經濟的自衛の一行動に過ぎないのである。日本は全世界の需要を滿すことは出来ない。而して日本が現在の政策を遂行する唯一の結果は他の諸國が世界の需要に對し供給し得る各自の分擔額を生産する機械を不要に歸せしむるものである。日本が他の工業國との激烈なる衝突を避け之と協調して行くことは日本の利益であるばかりでなく併せてその競争者の利益ともなるのだ』

二、日英綿業の比較

バーナード・エリンガー氏

一九三三年七月八日附マンチェスター・ガーディアン紙にバーナード・エリンガー氏の筆になる左の記事が掲載せられた。

『日本の紡績部及び織布部の職工を男女別に見れば、兩部ともに女工八割男工二割の割合であつて、女工の大部分は十四歳乃至十八歳である。彼等は三箇月の豫備修業を終へ、爾後約三年間就業後結婚のため歸郷するのを常としてゐる。就業期間中は工場所屬の寄宿舎に生活し、必需品亦工場所屬販賣所に於て一般市中に於ける定價の約二、三割方安値に購入することが出来る。離職に際してはその就業期間に準じ賞與を支給することゝなつて居るが、右給與率は通例給料の約七分に相當する額で、この外なほ各種の小額賞與の給與規定がある。

一九三〇年の食事時間を除くいわゆる純就業時間の平均は、一日について九時間三十二分である。しかして就業日数は一週六日であるが、時として隔週七日就業することがある。給料は一九二九年この方、大減額を實行した結果、一九三一年の給料平均は一ヶ月二十一圓以上には達しない。右は平價に於て我が週給約十六志六片に相當し、このうち職工は食費一週約一志六片を納入しなければならぬのである。

アーン・ピアース氏は、一九二九年同じくわが國を視察したその報告書中に日本女工の寄宿舎の生活状態に關し左の如く述べて居る。

大工場の女工はその居所、食事ともに家庭にあるよりは數等優れた待遇を受けて居る。小工場もまた規模の大小こそあれ、その待遇が前者と異ならない。女工は或る期間軍隊教練に匹敵するいわゆる行儀作法及び正規手藝を修得すると共に、工場學校に於て讀書、書法、算術、圖案、料理、裁縫、家政等を學修してゐる。體育方面もまた決して輕視せられては居ない。かくの如き周到の設備は西歐の聲澤ないいわゆる寄宿學校といへどもこれ以上の設備ありや否や疑問であるけれど右は女工吸收策としてその待遇改善を目標とし、工場主は互にその優越を誇らんとして努力した結果である。云々

一九三三年發表された國際労働局報告中には日本の工業労働に關し、日本の工場労働者の多くは講演、研究會、讀書會、回覽圖書、演藝その他娛樂、蹴球、野球、庭球等をもつて日常生活の一部としてゐると述べ次いで現在の寄宿舎組織は個人的自由の見地より缺陷のあることは事實だが、職工の生活向上の見地よりすればその利するところは多大である。と報じて居る。ピアース氏の一九二九年報告を再びこゝに引用するに、日本の女工は平均月三十圓の收入がある。内當然必要な費消額は僅に十三圓五十錢であるが、殘金額を兩親に送金する者は極めて稀である。

彼等は右の外衣服費に對し約六圓三十錢、化粧品に約一圓九十錢消費するを常としてゐる。かくの如くしてもなほ且つ預金の餘裕がある。事實について云へば蠶絹を含む纖維工業労働者の貯金増額は、一九三〇年十月一日現在に於て二千九百萬圓以上に達して居る。

日英賃銀の比較は同一基礎に於て之を制定しなければならぬ。即ち日本の十四歳乃至十八歳の女工が得る収入は、ランカシャの同年齡女工の収入に比較すべきである。三箇月の豫備實習を終へたそれらの女工は、リング紡績の二十番手以下の作業に従事してゐる。尤もミユール紡績は相當經驗を経た後でなければ不可能である。織布の場合はこれらの初心女工は概ね下級番手の單純な織布作業に従事する。尤もこの年輩の織布工はランカシテ同様高級品若くは複雑なる織布方法を未だ修得するに至らない。然れども三箇月の實習を経たこの種の女工がリング紡績機に依る下級綿絲若はドウラゴンの如き織布作業に従事し得ることは疑ふ餘地がない。然らば彼等は我國の同年輩女工に比し果して低賃銀、長時間就業なりや否や、我實例を示せば左の通りである。

家具塗九志九片、食料品裝填八志乃至十志、製本八志、封筒製造九志、商店裁縫六志、屑切地分類九志六片、ラッグ製造八志六片、絹絲撚織八志、店舗助手五志乃至十二志、印刷物配達五志

乃至十志、菓子包裝九志、レース製造五志であるが、これをもつて直ちに苦汗賃銀と想像してはならない。商務省公定の十四歳の女工に對する賃金率の一、二例を挙げれば左の通りである。

靴修繕五志、亞麻纖維業九志、仕立業五志、女帽子製造その他六志、コルセット製造七志、リネン小切細工九志、紙函及び紙袋製造九志六片、諸種卸賣向き外套製造六志六片である。綿業について云へば十六歳のエンダー助手は九志であつて、該賃銀は織布職工の資格を得るまでよ不變である。十四歳のリングドツプアーの初任は七志であつて、漸次標準給たる十五志に累進しその後は十七歳若は十八歳にしてサイドピーサーの資格を得るまで据置である。十四歳にて就職したものが十二志六片に達するには少くとも一箇年を要するのである。

勿論右賃銀は練習期間のものではないが、初任給を示したものだ。例へば仕立裁縫業について云へば、初年は一時間一片半、二年目三片、三年目四片半、四年目六片半であつて、四年以上のものは平均一週十六志である。けれどもこの種の職業はいわゆる季節物なるが故に、一年を通じて右の率に依る収入を得ることは極めて困難である。

各種同業組合の支給費は、右に比しやゝ高率であつて、十四歳初任一週十志三片、爾後四年間

勤續の平均賃銀は十四志四片半である。

右實例に依つて見るに一定賃銀以外に、寄宿舎の提供並に特別賞與等の規定にある日本女工に比較すれば、我國の賃銀にして日本のそれより更に低いものが多數ある。日本の賃銀をもつて、一概に不當呼ばはりするが如きは、無根の巷説と云ふべきである。

ランカシアは東洋諸國の綿業發達により、下級品方面に於て一大打撃を蒙つてゐるとはしばしば耳にする處であるが之は換言すれば就業時間短縮、交替就業制の廢止及び給料率引揚等に依り世界市場の下級消費者が購入し得るやうな價格では生産し得なくなるに至り、遂にこの種の綿布は安價な市場より驅逐せらるゝの餘儀なきに立ち至つたといふ意味になるだらう。けれども若し現在の通貨問題が解決せられた曉、吾人にしてこの種の貿易の復活を謀らんとする意志あるに於ては、その實現は必らずしも至難ではないであらう。私案に依ればその方法は左の如くである。

リング紡錘を増設し、之が作業には十四歳乃至十八歳の女工を充當する。その賃銀は家婢その他の賃銀を標準として決定する。該女工は一定賃銀の下に定めた數種の單純なる織布作業のみに従事する。この諸織布のために他に隔絶した一機關を設け、給料の如きも他の干渉を許さぬこと

し而してこの種の綿布販賣のためその生産より東洋市場に於ける販賣に至るまで一系統を有する特殊の販賣方法を講ずべきである。けだし該方法の實現は紡織部の生産費低減と相並んで、わが綿業復興上重大性を有するであらう。』

三、根據なき日本攻撃

イヴニング・クロニクル紙

英國綿業の本場だけにマンチエスター地方の新聞紙、殊に二流以下の新聞紙は、機會ある毎に英國及び屬領等に於ける日本品の競争問題を兎角大袈裟に報道する傾があるが、六月二十九日のイヴニング・クロニクル紙(マンチエスター)は南アフリカ及びヂヤマイカ島に於ける日本品の進出に關し攻撃的記事を掲載した。その記事には殆ど統計その他の根據を示さずして、徒らに日本の安賣政策を非難し、もつて英國政府の斷乎たる措置を必要とする旨強調して居る。この種のセンセーショナルな記事の一例としてその大要を譯出すると左の通りである。

日本はランカシアに對して新たなる打撃を加ふ

南阿に於ける投資戦術

地盤獲得のため如何なる安價でも賣る方針。

我等の商賣は良好なりき。

然れども苦汗労働の脅威は我等の貿易を破壊すべし。

日本はその苦汗労働に依る製品の捌口を英帝國市場の一部に於て閉鎖せられた結果、今やその注意を南阿に向けつゝあり。

激烈なる投資戦術は今や酣なり。速に對策を講ぜらるゝにあらざれば南阿に於けるランカシアの地位は知らぬ間に顛覆せらるべし。

最近數箇月間南阿に於ける我等の商賣は進歩の兆を示せり

然れども地盤を獲得するまでは如何なる安價にても販賣すとの日本の方針は、合法なる貿易に對する重大なる脅威なり。

などと盛んに書き立てゝゐるが一面ランカシア選出の議員一同は、日本の陰險な取引が英國の商賈を窒息せしめつゝある英領ヂャムイカに於てランカシア品を優先的に購入せしむる件を議

會に提議することに決心を固めてゐる。

「我等の値段と比較せよ」

ランカシアの平織生綿布製造家及び南阿向き輸出商はランカシアの最重要市場の一たる南阿に於て激烈な投資戦術が行はれて居る旨の報を入手し、又々新たな脅威に攪亂された。

「近來南阿に於ける我等の綿製品貿易は進歩の兆を示し、過去數箇月の間各種綿布の南阿向き輸出の増加したのは、南阿人がランカシア品購入増加の希望を表示したものである。しかるに今や日本は他の市場を閉鎖せられた結果、この方面の市場に對し斷乎たる攻撃を開始したのである若し之に對し同様斷乎たる方法を採用するのでなければ右日本の攻撃は成効すべきを慮るのである。

東阿及び西阿に於て企圖せられたやうに、安價品に依り南阿市場が氾濫するを防止するには必然政府の行動を必要とするのである。

日本の脅威が如何に重大であるかは、日本品及びランカシア品の價格の大相違によつても明らか

かである。

一例を挙げれば無地の生綿布一碼が日本品は三片 $\frac{3}{4}$ なるに對してランカシア品は八片 $\frac{1}{4}$ である。』

など頻りに日本攻撃を行つてゐる

マンチエスターの著名な一輸出商は「今や日本は西アフリカ市場より閉出されんとしつゝあるをもつて南阿に轉向し、地盤獲得のため例の安價政策をもつて非常の努力をなしつゝあるは疑ふの餘地がない」とか「それこそ彼等の遣口である。彼等は一市場を閉鎖せらるゝや直に他の市場に轉向するのだ」など、述べてゐる。

ランカシア選出議員一同はヂャマイカ駐在商務官代理と會見し協議の結果ヂャマイカに於てランカシア品を優先的に購入せしむる件を議會に於て強硬に論ずることゝなつた趣でこれらの人々は本件をもつて特別且つ徹底的行動を要するものと見做してゐるのである。

これらの人々の一人エントウイルス少佐は「日本は生活標準の引上を欲せずして、飽まで安價勞働の結果をもつて市場を氾濫せしめ、市場の平衡を破壊せんとするものであるから、日本品の

競争問題は迅速且つ概括的に處理しなければならぬ」と云つた。さらに他のランカシア選出議員は「日本が飽までも右方針を固執し、もつて世界の市場を混亂に陥れんとするに於ては、彼等は別個に取扱ふ必要がある。若し彼等が賢明な世界經濟の觀念に同意せず、出來得る限り安價の生産を増加するに於ては、之れ即ち世界産業を救済し且つ安定せしめんとする全政策に、強ひて反對することを意味するものである。目下日英兩國間に交渉が行はれつゝあるけれども、結局我等は斷乎たる行動を執ることを決心しなければならぬこと明白である」と硬論を吐いてゐる。

四、殘忍な組織的經濟戰

英國綿業合同會社重役

英國綿業の牙城たるマンチエスター市の地方新聞デイリーデスパツチ紙は日本品競争問題に關し從來しばしば攻撃的記事を掲載して來てゐるが十月二十六日の紙上には「わが市場に於ける日本の戦ひ」と題する記事を掲げ翌日その以後の紙上に於てイングランド北部選出議員のこの問題に對する意見を連載する旨を豫告すると共に一綿業合同會社重役の談として左の如き趣旨の記事

を掲げた。

『日本品の競争は残忍なる組織的經濟戰爭であつて日本側との會商により日本との競争を除去せんとするが如きは日本にとつては却つて滑稽の至りであらう。歐洲諸國の大政治家達のジユネーヴに於ける非常なる努力も日本の領土擴張方針を轉回せしめる事が出来なかつた次第であるが果して日本側を會商に招請しもつて彼等の商業擴張方針を變更せしめ得る可能性があるかどうか？ 會商は彼等の戦利品の幾何を保有せしむべきかを相談する譯であるが英國がこの相談に耽つて居る間に日本は戰爭を繼續し、分捕品を蓄積しつゝあるのである。我國の輸出を増加するためには日本の經濟戰爭に應戦すべきである。また日本と交渉せずしてわが殖民地と折衝すべきである、また必要あらば日本の爲に打撃を受けつゝある他の製造國と共同戦線を張り財政的援助または保護については消費國及び米國と相談すべきである。しかしこれらの折衝相談の目標は日本品の輸入を禁遏し商業上の山賊國民を孤立せしめ政治上及び財政上の壓迫を加ふるにある。貴重な商標を模造し之によつて安物を販賣するのは不正直且つ有効な常套手段である。その結果英國製造家は市場から驅逐され日本は之を獲得するのだ。』

五、英綿業改造の急務

エイチ・キグラー氏演説

(左の文は英國中央電氣局の經濟學及び統計學顧問キグラー氏が昨年十一月一日マンチエスターの事業經營協會支部でなした演説の概要で、マンチエスター・ガーデン紙に載つたものである。)

『日本がやがてランカシアの恐るべき競争者となることは、すでに早くから豫期せられてゐたところである。日本綿業は全部最新式組織であつて、その大部分はランカシアによつて供給せられたのみでなく、ロンドンはその財政的援助をなしわが外務省もまた日本の産業改造により、日英間に政治的葛藤を生ずるやうなことがないやうにと保證したのであつた。

過去四年間わが外務省の行動とランカシアの無活動との對立はわが綿業をいよ／＼危地に導く結果をもたらしたのである。日本をもつて親善なる友邦と信じたのが、一大誤謬であつたことは今にして始めて明らかであらう。僅々一年前まで政府の指示に依り各刊行物は日本の競争に關してはどんな批評をも避けて居た状態であつて、英國工業聯合會が、遂に警鐘を鳴らすの餘儀な

きに至つたときは既に遅く、ランカシア綿業は收拾し難き状態に陥つたのである。

わが綿業衰頹の責任を全然外務省の政策のみに嫁することを得ないのは當然である。けだし綿業自體の無活動もまたその原因をなしたからだ。國際的に密接な關係を有する産業は、政治家の活動のみに倚頼することなく、産業自體に於てその自衛策を講じなければならぬ。從來ランカシアの執つて來た自衛方法は單に代表者を政府に送るに止つてゐたが、斯る方法は現代の世界情勢に鑑み愚策だと云はなければならない。

ランカシア代表は日本や支那を訪問するよりは、むしろ米國の産業復興局長官ジョンソン將軍を訪ひ、産業救済のため共同政策を講ずることの方が遙に有益である。わが國にして三年前に米國と協調してゐたとすれば、現在の如きわが産業の危機を招來する以前に於て、日本の競争を阻止し得たであらう。然るにわがランカシアは米露支を無視して日本との協調を試みたのである。

日本の現在の産業はランカシア綿業が、會て大戦中に經驗せるが如き動搖せる基礎の上に建設せられて居る状態であつて、政府は獨り原料のみならず、價格及び市場に至るまで保障を與へて

居る。だが日本現在の滿洲問題及び國費過重に因る圓價の暴落竝に一九三一年來の軍事費膨脹等に想を到せば、日本の政治的變動の到來は數箇年内か數箇月内かが、單に時期の問題なることを何人も看取し得るであらう。

米露兩國の提携は日本産業の勢力牽制上、わが國の執つてゐる差別割當に依る關稅政策よりは遙に有力である。いづれにするも速かに日本の競争力を緩和する方法を講じ、もつてランカシアは喪失市場の一部を回復しなければならぬ。實際の事實に徴するにランカシアの販賣方法は、過去三年間に於て著しく改善せられ殊に本年度に入りその輸出は好調を示してゐる。

大體ランカシア綿業は、自體に於て一大國家産業たるの形態を備へてはゐないのである。そこに何等の指導者もなく、また何等の經綸をも存してゐないのだ。ランカシア綿業はわが鑛鋼及び炭鑛業者の合理化に學ぶべき點が多々あるだらう。東部ランカシアの千九百の綿工場中、電氣使用のものは僅かに八百五十五で、その使用工場といへども動力使用を目的とするものが多數である。私見をもつてすればランカシアは過剩工場整理により、例へば五百内外の有力工場に、その生産を集中することをもつて賢策なりと信ずるものである。

ランカシアはなほ將來の發展のため、運輸機關の整理を必要とする。尤も鐵道運輸は目下相當完備して居るをもつて、新工場地域の擴大を見ざる限り、急激の改善を施すの必要はあるまいが水運即ちマンチエスター船運河の如きは更に新規線を擴張し、消費の中心地に近接せしめる必要がある。鐵道その他の電化もまた緊要事である。」

六、明らかに戦争行學だ

モーニング・ポスト紙

昭和八年十一月十三日モーニング・ポスト紙は日本の廉賣方法なる見出の下に同紙東京通信員發の長文の記事を掲げ本邦貿易上進振り、日本品の競争非難に對する日本側の反駁等を敘したのち日本に低廉にして豊富な婦人労働の存することを指摘し最後に「支那が日本品不買により反抗を試みたとき日本はこれを戦争行爲なりと稱しこれに對抗するため戦争行爲をもつてした。しかも今や日本は印度の棉花に對し同様なる不買を行ひながら之を戦争行爲とは考へて居ないがその態度たるや通商上の戦争と異らない。日本は現在軍部の支配下にあるをもつて右は自然のことな

るべきも平和的交渉の希望を阻害すること大である。此の際若し諸外國が明瞭且つ率直にその見解を表明せば日本に事態を正解せしめ得て平和的調整を計ることを可能ならしめるであらう」と結んでゐる。

七、世界貿易へ日本挑戦す

モーニング・ポスト紙

日本商品の進出問題が英國下院に於ける重大論議となるやモーニング・ポスト紙は直ちに特派員をマンチエスター市に派遣し連日大見出しを掲げてその通信を掲載して居たが十二月四日の同紙は「世界貿易に對する日本の挑戦」と題し日本の進出は綿布雜貨類より毛織物に及びランカシアのみならずヨークシャの脅威となりつゝある次第を詳論し更に別に日本の毛織物の輸出は支那に於ては既に英國を凌駕して進で印度、アフリカを侵蝕しつゝある事實を記載し翌五日には「紡績戦上の奸計」なる標題の下に日本が東洋の市場に於て英國の商標乃至意匠を剽窃し公正ならざる競争をなしつゝある旨の記事を大々的に掲載した。しかるに同日の同紙はこれとは別に「日本

に對するフェア・プレー」なる投書を掲載したがこれは「モーニング・ポスト紙」ばかりではなく最近の各新聞や議會が一齊に日本攻撃に集中し「繰り返し三度云つたことは三倍も事實だ」との威力を呈しつゝあるやうだがフェア・プレーが吾人の矜持なるに鑑み事實を述べやうと前提し統計を示してランカシャの衰退は日本よりも印度の進出に依る事實を説明し更にポスト紙の特派員がバーンレイに於ては日本の進出に依り同地の紡績業が衰退し失業者が續出し營養不良に依る小兒の疾病が甚しいとのセンセーショナルな報道を掲げた點を指摘し右は事實に反し日本を誣うるも甚しいとて事實を擧げて反駁した上、世界は争鬪に疲れた平和な貿易の世界に於て戦争用語を用ひて之を攻撃し國際的反感の題目を創るが如きは之れ他日の涙の種を播きつゝあるものである」と結び不當な日本攻撃を辯駁し警告を與へて居る點が注目を惹いた。

八、優秀な日本工業

レヴィンステーン博士

十二月二十二日マンチエスターのデイリー・デイスパッチ紙に工業化學家ハーバート・レヴィ

ンステーン博士が左の如き一文を寄稿した。

「日本の競争はますます激甚となり綿業のみならずその他の工業にも及びつゝあるがこの此の傾向は今後いよゝ顯著となるだらう。

現在の日本はナポレオン戦争後の英國と同様である。また大戦前英國に於て獨逸品の安價を責め考案の盗用を攻撃して居る間にドイツは漸次優秀品を多量に輸出するに至つたやうに日本も間もなく同様の経路を踏むであらう。日本の賃銀は日本の生活程度に比し決して安くはなく、労働者はよく取扱はれ満足して居る。圓の下落を別としても日本は近代式大工場を有し買入販賣は統制せられ技術上の教育も遙に進歩して居り、労働組合による障害もない。日本は商工業上の機會均等を主張して居る。目下綿業が問題となつて居るがその他の商品も同様進出し來るべく化學製品品の如きも日本は逐年その輸入を減し來り近く輸入が絶無となるだらう。徒らに日本を非難しても何等獲る所がない。政府は斷乎として對策を講じ綿業に對しては財政的援助を與へ之を改造せしむることが肝要である。今や組織の改造を要する。然らざれば破滅の外はあるまい。」

九、ランカジャに責あり

レノツクス・ビー・リー氏

十二月二十二日附のマンチエスター・ガーディアン紙は同市のカリコ捺染會社々長レノツクス・ビー・リー氏寄稿の論文を掲げた。同論文は主として日英綿業の競争と之に關聯してランカジャ綿業の改造に關する問題を取扱つたものでその趣旨は日本品が一般にダンピングされてゐると云はれてゐる事實に疑問を抱くと同時にいわゆるダンピングに由つて來るところを検すれば多くは生産分配に關し合理的且つ科學的方法を適用した自然的結果に過ぎぬことが多い事實を指摘し從來日英綿業の競争について新舊二様式のあることを識別せず且つ必要な救済に策を講じなかつたことはランカジャ綿業が今日の悲境に沈淪してゐる主要原因であるとなし英國の綿業は戦後に於てイタリーやソヴイェト・ロシアの製品によりその市場を蠶食され、米國もまた英國に於て曾て試みられたことなき大量分配方法が如何に市場獲得に適するかを示し生産統制、商品の標準化、

品質、仕北の改善についても遙かに英國を凌いで居るをもつて、ランカジャ工業をして存続せしめやうするならば變化せる事態に適合せしめるやうにその組織を改造するため一致して斷乎たる努力をなさなければならぬ。一九三三年一月三十一日現在の日本紡績數は英國の一割六分であるのに同日に終る一年間の棉花消費額に於ては日本は英國の十一割五分となつて居る現状を見るに日本は低賃銀、交代制、長き労働時間、工業に對する社會的負擔の輕いこと、税金の輕いことなどを別としても左記二個の偶發的利益をもつてゐると述べてゐる。

一、一九二六——二七年度に於ては日本は安價な棉花を大量に購入したること

二、一九三一年日本が金本位制離脱以前に普通需要額よりも遙に多量の棉花を購入したことその後圓價が全價格の約三分の一（英貨に比し三分の二）に下落したこと、相俟つて日本をして平價にて原料を購入して製品を下落せる貨幣をもつて販賣する二重の利益を獲せしめたこと

次にリー氏がランカジャ綿業改造案として述べたところを見るに紡績部及び綿布部に於て三交代をなし協力するに於ては生産費を約三割方減少することが出来るやうであつてこの調査に依れば綿業各部に於ける現存機械を左記の方法によつて速度を早めることが絶體に必要であるとなし

てゐる。

(イ) 諸外國に於けると同様リング紡績を採用すること

(ロ) 織布中一人三十臺持の自動織機を利用し九〇%の能率をもつて運轉すること

(ハ) 仕上工程を連續運轉し得るやうに調節すること、例へば綿布の種類を局限し仕上の種類を少数とし少くとも一交代時間内は同一組合せの生産をなし得るやうに調節すること

カナダ

一、カナダ市場への脅威

ニュース・ヘラルド紙

一九三三年七月二十二日ヴァンクーヴァ(カナダ)のニュース・ヘラルド紙は『世界商品市場問題』と題し、大要左の如き社説を掲げた。

『日本が世界市場に投じた輸出品廉賣の問題は、世界各國をして將來通商障壁の改善を促す交

渉に關して重要な原動力たらんとしつゝある。即ちカナダ、特に從來東洋市場に注目して來たブリチツシュ・コロムビア州としては、アジア大陸に近接し、低き加工賃金で商品を提供する日本をもつて、正に不可抗的競争と思惟するものである。これら日本品廉賣の偉力の効果は、すでに印度市場に於て十分説明せられて居り、濠州及ニュージールランドもまた最近シンガポール等より輸入すを日本品流入のため、同様關心を持つやうになつた。これらの商品は英國製品たる商標の假装の下に、英帝國製品としては到底及びもつかぬ低廉な價格で同方面の市場に流入しつゝありと報ぜられてゐる。

過去に於てカナダは、日本に對してその要する原料品を輸出し得たのであるからこの種の危險に對し無關心なことを得たのであるが、日本が滿洲を支配するに至つた今日となつては、原料品供給上昔日と同一に有利の地位を占めることはもはや困難となつた。現在日本を以て他の産業國に脅威なりとなすのは愚かであるかも知れないが、以上の如く日本の産業上の偉力は實に大なるものだ。

斯くの如き現象は他國品の廉賣を防止するため、自國市場保護のための通商手段を再開せんと

しつゝある多くの國家に對して、反對する國家のあることを強く説明するものである。」

二、日加の諒解が必要

ニユース・ヘラルド紙

ヴァンクーヴァのニユース・ヘラルド紙は重ねて七月三十一日の社説欄に「日本の輸出貿易」と題し論評を試みたそれに依り最近一日本商社が英國の保護下にあるイラク國政府に納品しつゝある英國商社の取引契約を横奪した事實があるとして英國側は之を激怒して居るとの事であるが大戦後英國より多額の資本投下を受けたイラク國が如何なる理由によつて斯くの如く日本商社に取引契約になすに至つたものであるかと反問した上ヴァンクーヴァに於ける某氏が最近の世界旅行中かくの如き日本品の侵略的躍進に至る處に於て見受けたと語つた旨を述べ、更に現に印度に於て英國品が日本品の激烈な競争を受けつゝあることを指摘し最後にカナダとしては日本との間に政府間の了解を遂げて置くことが極めて望ましいことである。何となればカナダは東洋と緊密な關係に置かれて居るものであるが現に日本の主都にはカナダの外交機關も設けられて居る次

第であるから此の日加關係はカナダの太平洋沿岸貿易に重大なる意義を有するからである」と結んでゐる。

三、人口増加と自給自足難

ブロービンス紙

八月二十五日同じくヴァンクーヴァ・ブロービンス紙はその社説欄に於て「ジヤパンス、ブロープレム」と題しわが國の人口問題に關し大要左記の如き論説を掲載した。

「一九三二年に於ける出生率は人口一千人について三二・九二の割合で年々増加の傾向を示してゐるが一方死亡率は之に反して減少の傾向を辿り、これを合算する一ヶ年約百萬人弱の人口増加を來すわけである。然もその國土は狹隘にして山岳多く之を支ふるの餘力なく昔時のやうに海外移民によつて之を解決せんとしても日本の移民は到る處に門戸を閉鎖せられ僅に南米は未だその入國を許して居るか之とて年一百万の移民をゆるすなどは到底思ひも寄らぬことである。その他臺灣、朝鮮、滿洲及び支那沿岸等もあるがその數には限りがある。のみならず生活標準低き

支那人、鮮人等とは競争し得るところではない。滿洲は自由に入國し得るが氣候その他の點よりして日本人の方で之を喜ばない。

斯くて日本は英國の如く産業立國策を樹て、東洋の工場否な或る程度に於ては世界の工場たらんとするに至つたものであつて、比較的低廉にして適應せる勞力を自由に使用し得ることは日本産業の強味なりと云ふを得べく、現にその綿製品は支那や印度に旺んに輸出せられ、電気機具の如きは關稅障壁を越へて米國にさへも輸出せられつゝある。日本今次の滿洲制禦の目的もむしろ植民ではなくして滿洲をして原料品を供給せしめると共に日本製品の一大市場たらしめんとするにあつたと云ふことを得るであらう。だが日本の産業立國策もその帝國主義的侵略主義と同様に時すでに遅く今や諸外國の關稅障壁に直面しなければならなくなつたのだ。斯くて年々一百万餘の増加人口を擁してますます問題は尖鋭化しつゝあるにも拘らず、日本ははまだ其の解決策を發見することを得ず、その輸出貿易上の唯一の強味なる比較的低廉な生活標準そのものに對しては各國競ふて之に對抗せんとし遂に關稅障壁を設けらるゝに至つた次第である。

更に日本は最近一層自給自足主義を採るやうになり、小麥を植つけ棉花を滿洲に栽培せんとし

てゐる。けれども日本は年々増加する一百万の人口を如何にして扶養すべきか、先づその方法を發見してかゝらなければ自給自足は到底出來ない相談であらう。』

アメリカ

一、貿易は國旗に隨ふ

アプトン・クローズ氏

札幌の排日評論家として再三わが官憲に假て上陸を禁止され、日本國民に馴染の深いアプトンクローズ氏は十月二十一日のサタデー・イヴニング・ポスト紙上に於て『國旗のある所に貿易あり』と題し同人一流のセンチシヨナル筆致を以て日本の外國貿易の膨脹及び之に伴ふ日英間等の經濟抗爭を誇大に論述し大要左の如く述べた。

『日本は滿洲事件の結果としてその財政が窮乏するに至るであらうとの豫想を裏切りその外國貿易はいよゝ膨脹しつゝある。東洋市場に於ては英國綿製品を驅逐し英國に取つては今や戦前

のドイツ以上の脅威となつた。日本が斯の如く目覺ましき進出を遂げた所以は生活標準の低き國民が機械に對する高度の能率を有するに至つた爲めであつて（但し日本職工の賃金は白人職工に比べて少いがその生活條件は自人に勝つてゐる）英國の如きもその現在の生活標準を維持する限り之に對抗することは到底不可能であるから結局東洋市場より退き本國市場に立籠るの外はないであらう。日本人中には西はスエズ運河より東はハワイに至る廣大な地域に於て日本海軍の保護の下に經濟帝國を建設し之を經濟的に支配せんと考を持つものがある。しかして彼等は英國は無力だが米國だけはこの計畫を妨げる力を持つてゐると考へ米國が常にハワイ以東に引込んでゐることを強く希望してゐるのである。思ふに米國にして支那から手を引けば支那は日本とのアジア聯盟に加はり永久に日本經濟の支配下に置かれるに至るであらう。之を要するに白人商人は狡猾しかも残忍な手段をもつて國旗に従つて東洋に進出したものであるが今や國旗に従つて東洋から退却すべき運命にあるものでこの日本の經濟的進出はその經濟的占領と世に世界組織上の新事態發現の徴である。」

二、日本綿布の市場荒し

テキスタイル・フレテーン誌

米國南部の纖維工業に關する有力雜誌たるテキスタイル・フレテーン誌は昨年十月二十二日發行の誌上に、中南米及びフィリナピン等の米國顧客市場に、日本綿布が著しく擡頭しつゝある状況を指摘した記事を掲げた。その要點を摘出すると左の如くである。

「最近米國商務省の統計によれば、未晒綿布四十吋及び以下の中のものゝ輸出は一九三三年六月中に五、五二三、〇〇〇平方ヤードであつたのに對し、八月には二、五四三、〇〇〇平方ヤードとなり、綾織木綿は六月に九〇二、〇〇〇平方ヤードであつたのが、八月には四七四、〇〇〇平方ヤードに減少し、チャムブレイは六月に一、四七〇、〇〇〇平方ヤードであつたのが八月には六六八、〇〇〇平方ヤードとなつた。プリント物の六月中の輸出は一、八三三、〇〇〇平方ヤードであつたのが、八月には一、二七九、〇〇〇平方ヤードとなり、その他のものゝ輸出も右同様で減退した。」

右米國綿布の輸出減退に對し、日本綿布は著しく進出を見た。例へば一九三二年米國のキューバに對する輸出は三、五〇〇、〇〇〇ドルに達したのであつたが過去三箇月間に日本の同國に輸出したものは一、〇〇〇、〇〇〇ドルに上つた。此の調子で進めば日本の輸出は本年中に米國に追付くであらう。米國綿布の最大市場たるフィリッピン群島に於てもまた然りである。フィリッピンの關稅關係は米國品は無稅であつて、他國品には課稅されるに拘らず、日本品は生産費が低廉なるをもつて、關稅を支拂つてもなほ且つ米國品より市價を安く引合ひ得るのである。試みに粗布について例を擧げてみるに、日本品は三六吋もの三ヤード三三C・I・F 値段四仙八分の一なるに對し、米國の類似品はC・I・F 値段八仙四分の一であつて、粗布兩國品の開きは五〇%より一〇%に及び日本品に有利であるから、米國品は拮抗し得ないのである。キューバ、コロンビア、ハイチその他の輸出品も右と同様の状態である。更に辨慶織物について見るに、ヴェネズエラ市場に於て日本品の値段はC・I・F ヤード五仙半なるに對し、米國品は九仙であつて、此處でも米國品を驅逐しつゝある。かくの如き日本纖維貿易の侵略的進出の背後には、強力な政府の援助があるのだ。即ち日本政府は纖維工業組合及び輸出組合に對しては莫大な補助金を與へ、以てそ

の隆盛を期せしあつゝあるのである。

翻つて米國內の纖維工業の現状を見るにN・R・A 法典の爲、市價の昂騰を來した。例へば綿布一反の値段は右法典のため四〇%乃至六〇%を増加した。依つて米國綿布輸業者はそれだけ困難な地位に陥り、從來の綿布市場を維持するを得ず、外國品によつて蠶食されることとなるのである。いづれの外國にも産業上右と同じ様な法典がないのであるからN・R・A は外國産業に好影響を與へ、その輸出を有利に導くこととなるであらう。

三、日本に對する米國の利害

ニューヨーク・ピカユーン紙

本邦商品の世界市場進出に對しては各國に於て關稅引上等の手段を執り著しく注意を喚起しつゝある折から日印會商を始め英國方面より日英經濟競争に關する通信が頻りに傳はり、過般はジュネーヴ通信として日本製懷中時計が掛目にて取引さるなどと中傷的宣傳報道等も行はれてゐるが米國南部最大の新聞たるニューヨーク・タイムス・ピカユーン紙及びヒューストン・ボ

スト紙が本問題を取上げ左記のやうな論説を掲げた。前紙は滿洲事變に關しては終始一貫支那側に同情的論評をなしたのであるが今般の經濟問題に關しては十一月二十六日『日本に對するわが利害』と題し米露復交を例示し過去は過去とし日米貿易の重要なるを無視してはならないとなし日本は綿布輸出に關し印度市場を失ふも尙ほ且つ英國を凌駕してゐると之を數字的に指摘したのち日本は米棉の最良顧客であるとして頗る日本に對して好意的な筆致を示した。後紙は十二月五日『貿易統割の醸成』と題し結論に於て先年の露國の例を引合ひに出し日本品競争の懸念は恐く誇張されてゐるとなしてゐる。

『最近米露復交によつて露國との貿易關係は復活したけれども之が爲めに有利な對日貿易關係を等閑に附してはならない。吾人は日本の滿洲及び支那本土への進略に對しては好感を有せぬが十五年餘に及び懸案たる對露問題について過去のこととして片附けたのであるから之と同様に日本に對しても臨むべきである。

今對日貿易狀況を見るに一九三三年八月より十月に至る間米棉の輸出は四六一、七九五俵に達し同期間に於ける棉花貿易史上最大の數量を示した。しかして之を一九三二年同期の二七三、八

二七俵及び從來の最高記録たる一九三一年同期の三四五、二五一俵に比ぶれば共に著しい増加である。一九三一年の増加は日本の金本位離脱による思惑に基因したのであるが一九三三年の増加はその原因を異にしてゐる。即ち印度に於て英國綿布に對する關稅從價二五%なるに對し英國以外のものは七五%に引上げられた結果日本が報復手段として印棉不買の舉に出でた爲めである。本問題については吾人は殊更ら關心を持たぬが、印度の損失は吾人の利得となり今日まで吾人が日本に輸出した棉花四六一、七九五俵及びその他の何れの俵であつても日米間の好印象を運ぶ使者たることは否み難いのである。

英國は特惠關稅の下に印度への綿布輸出を著しく回復しその比率は將來と雖も變化せざるべく之に伴ひ日本綿布は印度に於て多大の喪失を招いたことは疑ひがない。九月中に日本が印度に於て一四、〇〇〇、〇〇〇ヤードの綿布の輸出減少を來したに對し英國はその數量を増加した。それにも拘らず八九の二ヶ月間に於ける英國の綿布輸出總計が三一二、〇〇〇、〇〇〇ヤードなるに對し日本の輸出總計は三六六、〇〇〇、〇〇〇ヤードであつて英國を凌駕した事實は特に注目し値する。之は日本が綿布に關し印度市場を喪失し甚しく打撃を蒙つても尙ほ之を償ふ市場を有

するを證するものであつて今後とも引續き米棉の最良顧客たり得るであらう。」

三六

四、英國の二股草鞋

ヒューストン・ポスト紙

「日本の經濟政策が軍事政策と同じく攻勢的であつて、然も帝國主義的である、ことは事實によつて示されてゐる實際この二つの政策は互に相結合してゐるが如くであつて東京政府は産業發展を期するために之を決定したのである。」

日本の軍隊が滿洲及び北支に侵入し條約をあだかも反古紙同様に扱つた際英國人は日本がその舊同盟國たる關係から日本の侵略政策に對し甚しき憤怒の色をも示さず、米國の條約尊重に關する主張に對しむしろ微温的な態度に出た然るに日本製品が一旦英國市場に食込や英國は俄に態度を一變しランシマン商相の如きは右に關し思ふ存分の所見を述べその下院に於てなした攻撃演説は一國の國務大臣としてその友邦に對してなした最も峻烈なるものである。更に下院議長もまた日本が世界市場に於てランカシヤ製品に拮抗廉賣するに對し英人の懐く無念の情を表述した。

茲に附言しておくが別個の問題ではあるが英人自らも多年米國製品に對抗廉賣して來たのである印度、支那その他極東諸國は從來、英國の傳統的貿易範圍とされて來たのであるが、今や日本はその地盤を蠶食し爽功しつゝあるのである。ランシマン商相が日本は製品販賣に對し常習的に不正手段を行ひ英國製品の如く装ひ偽せレーベルを用ひてゐると非難し、また日本産業は圓價の下落、勞銀の低廉、長時間の勞働及び政府の補助等違法的便宜を供與されてゐるが現在のまゝで推移すれば日英通商條約破棄の用意を有すと述べたのである。

米國は本件紛争に關しては目下のところ中立的態度を持し得るであらう。即ち日本は世界市場に於て米國の競争者たると同時に米棉の重要顧客であつて將來購入量を増すべく然も印棉のポイコットを繼續し米棉を多量に購入せんとしてゐる。一方英國もまた米棉の購買者である。故に紛争は米國の競争者たると同時に顧客間で行はれ、ますゝ複雑なる狀況に陥りつゝある。

先き頃、一英國議員が述べた如く日本の生活程度及び勞銀の低劣は歐米諸國の生活程度に脅威を及すべきことは事實で、二三年前露國が原料及び製品を全世界に及び廉賣した際と同様、今や日本に對し懸念を懐きつゝあるのであるが、いづれにしても日本品競争懸念の根據は恐ろしく誇

三七

張されてゐることも事實である』。

五、日本は貿易戦を挑む

モーニング・オレゴニアン紙

十二月二十七日のモーニング・オレゴニアン紙は「日本は貿易戦を挑む」と題する論説を掲げ左記の如く論評した。

『英國商務大臣ウオーター・ランシマン氏が不正競争に對し自國工業を保護すべしと聲明したのは明らかに日英貿易戦をなすものである。ランシマン商相は英國綿製品よりも廉賣せんとする日本の方策に依つて動かされたものであつて、日本は商標を不正に使用し購買者をして、日本品を英國品と誤信せしめつゝある。また彼等は物價引下のため下落した圓價、酷使せられた労働者及び政府の補助金を使用して居るが是れは一切の競争國に對し日本の使用する方策である。日本はルーズヴェルト大統領が復興法典に則り關稅を引上げるまで低廉なゴム製品、電球その他の商品を米國市場に充滿せしめつゝあるのである。』

低廉な商品をもつて外國市場を充滿せんとするのは、軍閥の政策の一端であつて軍事行動の大きな經費を支辨せんとする手段である。日露戦争の際日本は英米兩國より多額の軍費を借款したが今日は英米の金融市場は閉鎖せられて居るをもつて、日本は戦争の經費捻出の爲に唯一の頼みとするところは國內製産及び輸出を擴張しもつて國家の收入を増大し貿易上都合よきバランスを得せしめんとするにあるのだ』。

六、日本攻撃見當違ひ

アボット氏の正論

昭和九年一月七日のニューヨーク・タイムス紙は米國の製造業が廉價な日本商品に對抗するため國外に於ては外國との互惠條約を締結し國內に於ては産業復興法に依る輸入禁止を日本に適用する事を政府に運動中である旨又ジュネーヴ發のユー・ビー通信は聯盟の國際労働局は歐米労働者の生活標準を脅威する日本品の世界市場に於ける進出状態を検討することに決定した旨の記事を掲げて居るが十五日のクリスチャン・サイエンス・モニター紙に於て有名な日本最負アボット

氏は左の如く論じた。

四〇

『最近の新聞は何故か日米間の感情疎隔に努力しつゝある如くであるが右國際勞働局の日本勞働調査の報道は之に油を注いだ觀がある。各國は報復關稅及び輸入禁止手段等に依りダンピング又は不正競争を防止し得ることは勿論であるが問題は不正競争の意義如何にある。日本は今その勞銀が低廉なため外國の競争を不可能ならしめるとして世界の指彈を受けつゝあるが果して一國は他國の勞銀率の公正を判定し得るか？國際通商に於て各國の理性の法則を守らざる時は戰爭誘發國の虞れがある。各國互にその製産品を安賣りすることに狂奔して居る今日一國の生産費低下の手段が如何なる限度に達するとき之に對して他國が報復關稅その他戰爭誘發に至るが如き政策の採用を是なりとすべきか、之を定める事は困難である。國際聯盟が若し他國の競争を不可能ならしめるほど低廉な商品を生産する日本の權利を眞面目に問題とし得るならば同様に一國が他國との割當制度協定に依り事實上協定國以外の生産國に對し自國を閉鎖する如き權利をも問題とし得る次第ではないか、市場獲得競争がいよゝゝ激化しつゝある時これらの人爲的輸入統制方法は國際關係の惡化を來しやがて戰爭に至らしめる虞れが極めて大である。』

イタリー

一、凄慘な黃禍と列國

カパツチヨリ博士

イタリー産業界、殊に製絲製織業がわが國と競争の立場に在るところから、近來わが國の産業の新鋭鋒に對し著しくイタリー當業者の神經を尖がらし、あらゆる機會に於て日本排撃の聲を高めつゝあるが、今般ミラノ市の經濟新聞イル・ソーレ紙がフロレンス在住のクイリーノ・カパツチヨリ博士が寄稿した「日本と其の他の諸國」と題する排日論文を掲載して注意を惹いたその要旨は次の通りである。

『刻下當面の問題は東洋方面は素より歐洲諸國に於ける日本の競争である。しかしてその競争は先づ現在では單に織物に對する競争のみの如き觀あるも、その他の各種製品に對しても近き將來に於て必然強力なる競争を現出するに至るべきことは輓近日本産業の發達顯著なるものあるを見ても明かである。然らば此の凄慘なる「黄色」の競争の由つて來る原因如何と云ふに

- 一、著しき組織力を有すること
- 二、國內に於ける労働市場の種特條件
- 三、國內の社會經濟様式の特異性

をその主要原因となし其の他同國の政治的性能の特種性も大いに之を助長する原因たるは勿論である。

日本は其の國土の狹隘を利用して組織し改革、統治の完成に成功し嚴然として東亞に君臨するの今日を致したのである。先づ日本は容易に支那を屈服せしめてその特權を支那に扶植した。しかして増殖率の多き日本國民は有り餘る労働者となり加ふるにあたかも歐洲に於ける英國のそれと等しき地理的の最上條件と相俟つて日本はその有効なる政策の推移と、極東に於ける彼の優越的地歩とによつて漸次成功を收め安固として國家經濟の進展を齎らすに至つたのであるが日本自身も勿論斯く短期間にその目的に到達し得やうとは豫測しなかつたところである。事實日本は一八七〇年頃までは殆んど一顧の價値なき小國に過ぎなかつたのである。然るに日本は其の後急速に歐洲産業組織の模倣に努め殊に蠶絲界に於て然りである。近年はまた人絹の製造が盛んとなり

天然絹絲に對する脅威を感じるに至るや日本は直に歐洲の人絹製造方式を模倣して之が生産に執中し數年ならずして人絹の世界的大生産國と肩を比べるに至つた。現在日本は人絹生産界に於て北米、イタリー及び英國に次ぎ第四位にあるも北米を除く他の二國とは生産高路ほ同額に達して居る。其の他綿布類の生産もまた嶄然頭角を現はすに至つたのである。

しかしながら斯くの如く日本の産業發達顯著なるものありと雖も過度の心配は無用である。何となれば日本は農業に適する土地に乏しく又大産業國たるべき眞の要素に缺くる點多かつた彼國民の活動力が單に生産工業に自らを引き入れて行つた型に過ぎないのである。故に歐洲諸國が政治的乃至心理的破綻に絶滅せざる限り將來永く此の日本産業の發達が歐洲諸國を威嚇し得るものとは思はれないからである。現在日本が歐洲諸國に脅威を與へつゝある所以のものは有態に云へば即ち歐洲諸國の大部分が近き過去に於て政治的錯誤に陥つて居た爲めと云へやう。例へば大戰後の平和會議は日本が大戦中にはした微力に對し餘りに過大なる報償を與へたのであつて大戦中イタリーが拂つた犠牲に對する報償を憶はんが。餘りに彼此均衡を失し居るを認めざるを得ない。且つ世界の強國が日本を斯くも早く世界強國の列に伍せしめたのは恐らく早計に失したるも

のと云はねばならぬ。之れ即ち日本の競争を痛感するに至れる過去の歴史があり、また現實の歴史を如實に編しつゝあるものと斷定出來やう。

故に極東に利害關係を有する世界各國、殊に歐洲列強としては此の重大なる現實に即して過去に於ける拱手傍觀的態度を改め反省一番すべきである。

惟ふに正常なる發達と公益に好果をもたらす競争は須らく生産原價を構成する各要素が出來得る限り公平なることを要し、而して即ちより良く組織することを知り且つ生産に必要なあらゆる事實を最も合理的に且つ活潑に調整管理することを知れるもののみ最後の勝利をもたらすものでなくてはならぬ。換言すれば一國家の公平なる生産原價の規準は各自國家の生産能力以外の要素に依つて區々たるべきものであつてはならない。若し或る國家が此の純理に反した行動に出でた場合は他の國家は之が膺懲の爲めに必要なあらゆる手段をもつて自らを防禦するの權利を生ずるのである。」

二、日本品への對抗策

イル・ソーレ紙

日本綿絲布の進出に對してはよろしく攻撃的態度に出づべしとする一論説が又してもイル・ソーレ紙に掲載せられた要旨は左の如くである。

『日本綿業に對しイタリーは忍従すべしとする論文を読んで喫驚した。圓價の暴落と、イタリー貨の高價なるに鑑み、又他國の門戸を吾人の一存によつて閉閉し難き事情とに顧み、イタリーの綿絲布産額を不定期間低減すべしとの所論は、いやしくもファシスタ工業家に勸告すべきものではない。勞働時間の短縮は左なきだに少額の所得がない勞働階級に一層の犠牲を負はしめ、惹いて彼等の消費を減じ、結局國內一般の消費を減退することとなり、その曉は又々生産力を減少するの餘儀なきに至るであらう。現に今日フューメには賣約濟の日本綿絲布が山積して居る事情に鑑み、日本品に對し、イタリーの門戸閉鎖が不可能であるとすれば、吾人は須らく守勢より轉じて攻撃に出づる必要があるだらう。先づその前提として。』

- 一、イタリー綿工業は現在以上の犠牲を拂ふこと能はず。
 - 二、工賃の低下を要求し得ず。
 - 三、政府の助力を要求し得ず。
- の三點を基調として、本問題の解決策を樹てる必要がある。こゝに於て吾人は下の如き提唱をなさんとするものである。
- 一、綿布輸出業者全體の一組合を創立し、失つた市場の回復及び現勢の確保を目的として活動すべし。
 - 二、日本の競争値段に對應するため必要な資金の蒐集をなすべし。

右の綿絲布輸出組合は各國市場を研究し、製造者各自に對し市場に依り、日本品以上に歡迎せられる程度の製品を作らしめ。また運賃、備船料、保険料及びその他を可及的減少し、もつて生産費の格安を圖るべきである。次に日本品と競争せんとするには、イタリー品の値段を人為的に引下げる必要がある。その爲には少なからぬ資金を必要とするのである。然らばこの資金を何處に求むべきか、吾人は次の如く提言せんとするものである。即ち國內に於て賣買せられる綿布の取

引税を増率し、新增率の分だけを組合の資金とすべきである。斯の如き負擔は全國民一般の負ふべきものであることは勿論である。

一九三二年にイタリーは綿布七五〇百萬メートル、二十億リラを生産し、その取引税は一億リラに達した。

右取引税の収入が倍加したとせんか、本組合は一億リラの資金を得べく、しかして輸出綿布一メートルにつき五〇仙の補助を興ふるとせば、この資金をもつて二億メートルの格安輸出を行ふことが出来るであらう。

國內の取引税に對し、一メートル毎に五仙や十仙の増税をなしても、國民全般にとつて大負擔ではない。しかも對日競争の曉は輸出旺盛となり、従て失業職工を救ひ、電力消費が高まり、鐵道汽船の収入も増加するであらうから、國民經濟的に觀て甚大なる利益である。』

三、メード・イン・ジャパン

エー・タバツリ・ポルテルラ氏

イタリアに於ける主要新聞の一たるツリブーナ紙は十一月十八日の同紙上にエー・タバツソ・ポルテルラ氏（對印度綿布輸出業者）の起草に係る「日本製」なる一論文を掲載した。其の論ずるところは斷片的智識に基き誇張の筆を弄したもので筆者の目的とする宣傳の効果は却て少かつたやうであるが、日本商品の世界的進出に對するイタリア輿論の一端を示すものと云ふべくその大要は左の如きものであつた。

「一九一〇年頃に至るまでイタリア産シャツ、靴下類は幾多の競争國を却けてアジア諸國の市場に君臨したのであつたが強敵日本の出現に依つて一敗地に塗るゝに至つた。不可解な微笑を顔に湛へつゝ日本人（支那人？）が群をなしてセルロイド製の玩具及び櫛並に絹布等を入れた包を携えて徘徊するに至るやダツカ産のモスリンは彼等の取扱ふ羽二重の爲めに驅逐し去られたのである。

日本人も歐洲人との接觸當時は多少躊躇、困惑の體があつたが歐洲大戰の結果漸次老歐洲の特權が没落を示すや東方の一惑星は次第にその光輝を加へ五十一箇月の長きに亘る大戰中日本の諸工業設備は急速度をもつて進展した。然も工業製品の價格が洋の東西な於て著しき懸隔のあるこ

とを世人が認識したのは漸く大戰終熄後のことであつた。爾來日本は絶えざる飛躍的發展を繼續し遂に最近マンヨエスター商業會議所をして歐洲各國に對し歐洲はその勞働者の麴麵の爲め日本に對し共同的防禦戰を講ずべきことを提言せしむるに至つたのである。これらの競争の反響は我等イタリア人には餘りに遅く達したかの感がないでもないが工業國として第一位の榮譽の獲得を斷念した諸國中、特に日本との競争は正に惡鬼襲來の觀ある現實の問題となり、今やランカシャの工場地帯には會て絶えることのなかつた工場の響きが無く又織るが如くであつた勞働者の往來も絶えて、煙無き煙突の並立した幾多の工場は靜寂なこと殆んど墓地の如くで、幾多の顔色蒼白の失業者はたゞ國家の施物を受けることに依つて生命を維持するに過ぎないのである。

更に大陸に至つて先づオランダを見るに約七十年間に亘り同國を豊にし且つ同國をして東洋に於ける殖民地の上に君臨するに貢献せし織物工場は長くとも六箇月、短きは三箇月にして完全に無用のものとなつた。又フランスに於ては大戦後ルーベ、ツィコアン及びベルギー國境地方に大小の工場が設立せられ殊にブラドフォール地方の工場は盛に活動したものだ何れも同様の運命に陥つたのである。次に濠洲は如何？ 會つて日本は濠洲より八十萬梱（イタリアは二十萬梱）

の原料羊毛を買入れ買入國として第二位であつたが今や第一位の買入國となつたのみならず、その製品の品質に於ても亦歐洲品と角逐せんとしつゝあるのである。

又人絹について見るにイタリアは本年僅に日本を凌駕して世界第二位の人絹産出國たる地位を維持したが今後日本が新式且つ大規模な人絹工場の設立を完了する曉に於てはイタリアは勿論米國をも凌駕して世界第一の人絹國たるに至るであらう。

九百萬の紡錘と三十萬臺の織機を有する日本の綿布工業——正にイタリアの有するものゝ二倍に該當し——世界の市場に對し英國の與へた以上の脅威を感じしめてゐる。

エジプトもまた日本の侵入を受け、又シリアに於けるイタリアの綿業家は數週にして日本の爲めに驅逐せられた。一葦帯水のアルバニアに於てすら日本はその綿製品を之に輸出した結果イタリアをして同國に對する輸出國中の最下位に立たしむるに至つた。その他ユーゴスラヴィア、西部及び東部アフリカ、南阿地方、いづれも驚愕の叫びを發せぬ所とてはない。ロード島及びエジプトに於て日本製自轉車は僅々五十リラ前後をもつて賣買せられて居ることは周知の事實であるが、自動車一臺もまた五十ポンド（イタリア貨三千リラ以下）で取引せらるると云ふことである。

數箇月前オランダの一都市に敷設する鐵管は日本から購入することゝなつたが右は正に一萬キロの距離（之に伴ふ運賃）を突破して間近な競争者ドイツを打破した證左である。アフリカの諸鹽田は日本との間に莫大なる量の鹽を供給すべき契約を結んだ趣であるが日本は斯くて世界最大の曹達製造國となるに至るであらう。日本の輸出する化學品中工業用主要酸及びアニリン色素はいづれもその量大なるを見るのである。「今日の農業労働者の賃銀は土地生産物の價格の下落に伴ひ一九二九年の賃銀に比し三分の一以下に低下したに拘らず獨り工業労働者の賃銀のみ依然變化なき理由何處にありや」と云ふて工業労働者の賃銀を低下しながら他方「歐洲諸國が吾人に對しその關稅障壁を一層高くすると吾人は之を突破する爲め一層の努力を繼げんと稱して労働時間を延長するが如き吾人は此處にも東西工業文明の一大相違點を感じざるを得ないのである。

イタリアの工業家にして技師たるガバッチ氏は日本製品の價格が歐洲製品に比し平均三割方低廉なる理由について研究した結果右三割安のうち一割八分は實際賃銀の低廉なるに基き五分は輸入原料品の運賃。一分乃至二分は電力、一分五厘は燃料、一分五厘は輸出諸掛、三分は包装及び輸出品運賃がそれ／＼歐洲諸國に比し低廉なるが爲めであると云つた。

印度人は國內に原料品及び金の外に共同者たる英人の技術を有してゐるけれども管理の不十分なこと、消費力の小なることのため假令保護關稅を五割とするも日本品の競争を防禦することは不可能である。印度は日印通商條約に基き今日日本に對し印度全產棉量の五分の一に該當する百萬梱の原棉を輸出し、その結果日本より四億ヤードの綿布——即ち印度輸入綿布の四割——を輸入の一方英國が必死となつて防禦に力戦しても、その甲斐がなくイタリー輸出綿布の如き一九三一年に於て僅に一分に止り統計面上にすら記載せられぬやうになつた。

また最近日本はアビシニア政府より棉花試作のため四百ヘクタール以上の面積の土地の讓與を受けんことを同國政府に對し交渉中であると傳へられてゐるが、數年後に於ける日本は印度に對し現在輸出綿布四億ヤードを八億ヤードたらしめるに至るであらう。』

四、覺醒した歐洲

ポルテルラ氏の論文

ローマのトリブーナ紙は十一月二十九日『覺醒せるヨーロッパと日本進出の狀勢』と題するエ

ーロタバツソロボルテルラと稱する人の論文を掲げた。その要點は左の如くである。

『過去三箇年にわたる世界經濟恐慌の結果諸外國の貿易は一九二九年の貿易額の半に過ぎざる時に當つて、獨り日本の貿易のみは著しき進展を告げ、本年の貿易額の如き二百億リラに達すべく綿布の輸出額のみでも上八箇月間に於て十四億リラに達した。この外船舶に依る運賃、諸外國に於ける投資による收入及び移民送金等を加算するときは日本は本年度に於て莫大な受取勘定を得べく今後十年間に於けるその發展は刮目すべきものがあるであらう。』

完全なる統制を遂げた日本の工業は自國以外に支那、蘭領印度、英領印度にわたり全世界人口の半に達する九億の大消費者を擁して居るがこれ等の地方に於てはいづれも日本製品の侵入を防ぐため五割乃至七割五分の高率なる從價稅の適用を規定してゐるに拘らず、日本製品は克く此の障壁を突破しますく侵入の狀態にある。

關稅引上げ、極端な保護主義など、いづれも日本製品の侵入を防遏するに足らず、自由通商主義もまた過去のものとなつてしまつた今日、歐洲産業に残された唯一最後の武器は「コンタンヂヤン」あるのみである。』

自分の非を柵に上げた英國の云ひ分ステファノ伯喝破ミラノ市のコリエーラ・デラ・セーラ紙は十一月二十六日「犠牲の賜物」と題する前大藏大臣アルベルト・デ・ステファニ伯（前大藏大臣）の論文を掲げた。

日本製品が低廉なのは政府が貿易保護のためにする貨幣政策と労働者の薄給の結果に基くものであつて畢竟、日本國の犠牲の賜である。若しこの低廉が製造實力に據るものであるならば吾等ヨーロッパ人は之をもつて正當なもの又光榮あるものとして尊敬すべきであるが、輸出及び貨銀低下に對するプレミアムなるに於ては尊敬の價値がないであらう。

日本製品安價の一原因として日本の輸出業者は金貨をもつて取引を行ひながら労働者に對しては約六割方の下落した紙幣で支拂つてゐる事實を擧げてゐるものがあるが斯くの如きは英國その他いづれの國に於てもよくあることだ。要はその程度の差異のみでをて日本にのみ獨特の事實ではない。日本製品安價の眞の原因は労働者の賃銀及び生産費の低下、圓安などの外に石炭及び電力の低廉、産業合理化等の事實を擧げ得るであらう。諸外國は低廉な日本製品の侵入防遏のため關稅障壁を高めんとしてゐるが、更に進んで若し歐洲諸國が日本品の取引を拒絶するが如き事

あらばこれら諸國の貿易は一大變調を見るに至るであらう。

日本品侵入防遏の一方法として通商條約の條項如何を云爲する論者もあるやうだが、元來通商條約はその本來の性質上、期間が短少なばかりでなく諸種の報償的條項の挿入、條項自身の修正等の弾力性を有するものであるから完全なる防禦法であるとは云いふことを得ない。むしろ輸入品の數量、價格及び品目を制限するに如かないのである。

諸外國中特に英國は日本を惡口して止まないが彼のオッタワ會議の召集は英國が刻下の日本に於けると同じくそのポンド貨下落に因つたものであつたことを忘却したのか？ 今や全世界の經濟はアフリカ及びアジア民族の勃興に依り一大變革を受けやうとしてゐる秋に直面してゐるのであるが日本の進出の如きも蓋し斯の如き轉換期に於ける世界經濟上の一問題に屬するものである。

ローマの有力新聞ポポロ・デ・ローマ紙は十一月二十九日「黃禍」と題する記事を掲載した。アムステルダムに於て日本製電球が一個について近々二十一サンチム（邦貨約五錢見當）で取引せられ、またスイスに於ては日本製時計が一キロ（重量）當り三十六リラ（約九圓）で賣却せられた。その他日本製自動車、自動車の價格も低廉であつて諸外國はいづれも貿易不振の状態

に陥つてゐるに拘らず、獨り日本の貿易のみは躍進的に發展し本年の貿易額は二百億リラに達すべく且つ日本の絹、人絹、綿絲、羊毛工業の發達ぶりには著しきものがある。日本品の價格が低廉なことは世界經濟上の新たな一問題である。しかしして右價格低廉の原因に對し日本駐在英國大使館商務官サムソン及びケルモード兩氏の英國海外貿易局宛て報告によれば圓價下落、政府の獎勵及び政策等よりもむしろ日本工業の實力、技術の進歩並に賃銀安に基くものである。

しかしして從來西洋諸國が劣等民族に對し餘りに寛大な態度を執つたことは自らの犯した不慮の誤謬であつて却つて今日自らを苦める原因となるに至つた。却つて日本人のために織機を設置した英人はランカシャの死滅の因をなし、日本人學生を教養せる獨、英の諸大學は却つて日本人にその専門を奪取し去られるに至つたわけで、「白人が黄色人に機械を與へた當日は黃、白人同等の地位にあるが明日以後は黄色人のため劣等者たるに至るであらう」と述べたオスワルド・スペングレーの言葉は眞をうがつてゐる。」

五、日本の海外市場獲得

ジンガレルリ氏

ナポリ市のマツチーノ紙は十一月二十八日「日本の海外市場獲得」と題するイタロ・ジンガレルリ氏の論文を掲げた。

「世界市場に對する何人も豫期しなかつた日本工業の侵出は全世界驚愕の的であつて、曾つて武力をもつて露國を屠つた日本は今や世界の勞働市場に於て全歐諸國、露國及び北米等を相手に相争はんとしてゐるのである。オランダに於ける電球、蘭領印度に於ける自轉車、英本國に於けるナイフ、フオークの類、北米に於ける玩具類、チエツコに於ける硝子類、スイスに於ける時計ドイツに於ける懐中電燈用電池、北米に於ける麥酒、オーストリアに於ける萬年筆、ブラジルに於ける軍艦等日本製品の海外市場に對する侵入は甚しきものがある。また自轉車用タイヤ、生絲綿絲布、陶器、紙類、鐵器類、人絹等の輸出も甚しく盛んで日本は人口増加その他のため從來の農業立國より工業立國に移らなければならぬ立場にあり、日本政府はダンピング說打消のため官

吏を派遣して居るが今後に於ける日本の進出ぶりは果して如何なる程度まで到達すべきが豫期し難きものがある。』と

イラク

一、品質劣等な日本品

イラク・タイムス紙の非難

本邦製綿織物のイラク國進出に關し昭和八年五月二十三日のイラク・タイムス紙（同國第一の英字新聞にして英國側の機關と見るべきもの）は左記の如き趣旨の社説を掲げた。

『日本綿製品の價格下落は最近一ケ年半を繼續したが尙ほ當分の間は停止することなかるべくバクダツド市の商人は格安品を仕入れんがため差當り手持品を多大の割引をもつて販賣しつゝある。』

現在多量の日本綿織物はシリア、バレスタイン、エヂプト、ペルシア灣方面よりイラクに殺到

してゐる。イラクに近接する諸地方に於ては品質劣悪のため日本品は後退し之に代つて英國品が漸次舊勢力を挽回しつゝある、バクダツド市商人は日本品の品質を見誤るものではないが、同地に於ける購買大衆は品質よりも價格の安いものを求めしかも最近の不況に際しては一層この傾向が強いのである。

然し近時中産階級は日本品を買入れることが結局は不利益であることを認識し、従つてバクダツドに於てもランカシャ產品の賣行を増加するものと推察される。之は長日月に亘つて英國品の品質の優秀なことが記憶せられて居るためである。』

シヤム

一、模範とすべき日本

バンコク・タイムス紙

八月五日バンコクの英字新聞バンコク・タイムス紙（英人の經營）はその社説で「模範とすべき

日本」と題し「經濟的國家主義は危険であつて大國中の數國のみが之を行ふことを得るものである」と前提したのち近年の日本の通商發展の狀況を説明し日本は人口問題解決のため工業國に轉化し遂に英國その他の販路を蠶食するに至つたとて當面の日英、日印間の經濟的紛争に對する日本の立場を説明した上「日英間の問題はシムラとロンドンに於て審議せられるであらう。右は分別ある遣り方であつて此の方法が日本の場合に適用せらるれば通貨及び經濟的事項に於ける一國の發達は國際的ラインに依らざるべからずとの教訓を吾人に與ふるものである。最近シヤム國政府が否認した土地勞働及び工業の國有化及び銖化の平價切下の問題等その思想には重大な危険を包藏してゐる。斯る問題でシヤム國が孤立に陥らば財界に於て其の信用を失ひ其の通商は轉覆するに至るであらう」と忠告し最近シヤム現政府要路及び民間有識者中に經濟問題に關し専ら範を日本に執るべしとの思想が横溢してゐるに乘じ日英間に行はれる協調主義を例示して暗にシヤムの直面する諸般の經濟問題、殊に貨幣問題等についてはシヤム國も亦宜しく日本の範に則つて英國と協調する外には途がないであらうと指摘した。

エジプト

一、日本品進出の要因

スーダン・デイリー・ヘラルド紙

ロンドン滞在中のエジプト經濟評論家モハメツド・リファート氏がロンドン・タイムズ紙に投書してエジプト方面の市場に於ける日英綿業競争の狀態を敘述し日本綿業勝利の原因は低廉な價格以外に日本當業者がよくその製品を消費者の趣味に適合せしめることに研究、努力しつゝあること及びその取引組織の優れてゐることにあり、日本品の價格について英國綿業者は之を如何ともすることは出来まいが他の二點について英當業者が消極的態度を持つて居ることは甚だ不幸であると論じたがこの評論はエジプト方面に於ける日英間の競争の激甚なる折からエジプト國に於ても甚大な反響を起し、スーダンに於ても日英間の綿布競争は漸次激甚を加へつゝある際として右記事は同地でも注目を惹いたものゝやうで八月二十六日スーダン・デイリー・ヘラルド紙は社説に

於てこれを論じ左の如く英國當業者に警告した。

「リファート氏の説くところは過去數年來近東及びエジプト方面の多數輸入業者の抱いて來た見解と一致してゐる。英國製造家がこの特に留意すべきことは商品の如何が主要であると同程度にそれか土地に適合した品物であるか否かが重大な問題であることである。殊に目下日本商品の進出に惱まされつゝある土地はいづれも本來は「英品を購買せよ」との慾求が人民の間に先決的に旺盛な場所であるに鑑み本警告は一層意味が大である。スーダジに於て過去十年の間に英國品に對して競争を試みた他國品は數多であるがその後いづれも蔭を市場より潜めるに至つた。その原因は英國製造家が特に從來の取引條件に一層注意を拂つて之に對抗した爲めではない、従つて英國現在の取引組織に大なる缺陷ありとは認められぬが他の論點たる商品を輸入國人民の民度と趣味に適合せしむべしとの論は今日の如き時代にあつては絶対に必要な事柄である」。

蘭領印度

一、日本品と割當制度

ジャバ・ホーテ紙

輸入數量及び價格の點に於て、目下オランダ本國及び蘭領印度の注意の焦點となつて居るキャンブリックの輸入制限の得失問題に關し、昨年九月十四日發行のジャバ・ホーテ紙は「織物輸入割當」なる題目の下に、大要左の論説を發表した。この放評は本問題の起因、内情及び蘭印民衆側の意嚮を窺知する好資料たるを失はないであらう。

「本紙はさきに植民大臣が蘭領東印度の或る種織物の輸入に對する割當を提案せる旨の報道をなしたが、右報道が當時さほど大なる注意を喚起したやうに見えなかつたのは、織物は割當の可能性ある商品の一部分に過ぎないものと考へたからである。

バタビマス・ニユース・プリント紙は、吾人と同様輸入割當に對しては反對意見を抱いて居る。

九月七日の同紙上に政府はトエンテ側の辯論によつて従來の方針を變更する様なことがあつてはならぬ。然しオランダ工業の危殆を見ては割當もまた已を得ずと思料するやも計られない。吾人は割當制はその當初にはさほど大なる危険を來すものとは考へないが、豫め十分警戒する必要があるのであつて、土人の日用品の騰貴を招くが如き輸入割當はその形式の如何を問はず、罪業で政治的にも經濟的にも思はざる悪結果をもたらす恐れがあるから、蘭印政府は常にこの點に細心の注意を拂はねばならぬ。旨の論説を掲げて居る。今回の植民大臣の提案に對しては擧つて反對を表明すべきであるが、果して右植相の要望を拒絶し得るや否やは疑問である。蓋しこの問題には明らかにアムステルダム銀行の勢力が多分に影響して居るため、蘭領印度の利益に反するのみならず、政治的見地よりも好ましからざる手段の實現防遏の一助として左に事情の真相を述べて見やう。

即ち問題の對象物である白キャンブリツクの製造には勿論、相當の勞働を要するものであつて當領には主としてバテツク業及びその他に使用せられ、その輸入額は左の通り。

年 度	數量 (單位百萬碼)	一九三〇	一〇三・一
一九二八	一一〇・二	一九三一	八九・〇
一九二九	一二二・八	一九三二	八七・五
右の内和蘭よりの輸入額左の如し。			
一九二八	九七・七	一九三一	七四・二
一九二九	一〇一・二	一九三二	五三・六
一九三〇	八九・三		

右數字に見るが如く、オランダからの輸入は激減し、之に反して日本品は次第にオランダ品を驅逐し、その結果としてトエンテ工業は破滅をもつて脅やかされるに至つた。しかして之が回復を期待して居るも、工業組織を改善して生産費の低減を計ることをせず、徒らにその製品を當領に於て損失を知りつゝ販賣して居る状態である。従つて前述の銀行が今や機業者の死活を左右するの地位に立つた次第である。

トエンテの政府に對する勢力は決して輕視することは出来ないが、蘭領印度は現に待遇良き地位に在るトエンテの労働者を更に優遇せんとするが如き如何なる對策に對しても反對である。トエンテ工業の蘭領印度移轉については多くを期待し得ない。そもトエンテ工業は大企業と見做すことが出来ない。むしろ家庭工業で、今なほ舊態を保持して居る。現代的織布工業には能率上多くは一工場一種類製造主義を採用して居るに反し、トエンテでは多種類の製造に従事して居る状態である。』

二、勝手なトエンテ

ハンデルスブラット紙

アルヘメーヌ・ハンデルスブラット紙は、蘭領印度は日本製品の輸入防遏は困難であると見て居るが、八月二十六日の論說中トエンテ工業問題の解決案として、次の如く述べて居る。

『資本家側は例へば最初の三年間は如何なる元價償却をもなさず、もつて生産費の低減を計りまた僅少の利得をもつて満足することに注意し、労働者側は政府の許可の下に八時間制の廢止を

承諾し、同一賃銀をもつて現在の一週四十五時間より當分六十五時間の労働に従事して、生産費の約三割を浮かばせ、また社會的諸要求を放棄して賃銀の約二割を節約し、尙ほ既存の基金を三年間据置き、之が利子を元金に繰入るれば數百萬盾の節約は可能であらう。

この献案に對してはトエンテより苦情が起るであらうが、從來トエンテの労働者は保護せられ立派な各種の社會的施設は設けられて居る。然るに客年は賃銀引下げ反對の罷業を起して莫大の労働日數を空費し、贅澤を盡したが、之は彼等自身篤と反省すべきではないか、吾人は彼等が敢へて土人に負擔を掛くるが如きことがない限り最善の社會的地位を與へ、失業、災難、老病に際しては援助の勞を齊むものではない。當領は廉價な品物を必要として居る。十仙玉一箇すら缺かすことの出来ない幾千萬の土民が居る。若しトエンテ紳士の利益のためにのみ織物輸入割當を適用し、土人の生活を脅かすが如きことあらば、全力を擧げて之に抵抗するであらう。』

ファイリンピン

一、日本品が米品驅逐

マニラ・トリビューン紙

日本品の比島進出

日本品がファイリツピン群島に對し最近著しへ進出しつゝあることに關しマニラ・トリビューン紙はファイリツピンに於ける下着類市場は事實上日本商人の掌中に在りと冒頭し在の如く述べた。

「税關の統計に依れば一九三二年度下着類の輸入總額二、八〇〇、〇〇〇ペソ中二、五〇〇、〇〇〇ペソは日本製品であつて尙ほ同年度輸入綿製品も日本品が首位を占め輸入總額一〇、〇〇〇、〇〇〇ペソの三分の一に當つてゐる。この状態に乘じ日本輸出商組合は地方狀況調査のため代表者をファイリツピンに派遣し同時に同國製品市場統制のため現地に組合を組織すべく目下在ファイリツピンの日本輸入商筋と商議中である。更にファイリツピンに於ける織物製品の狀態は本市場

に於ても日本品の進出に伴ひ當業者は米國製品が減退の傾向にありと觀測し悲觀的態度を表明して居るが之が對策としては當業者の歩調を一致せしめる必要がある。この點に關して特にノイス・ヘスライン商會副社長は在米同社々長に對し概要左記の如き電報を發した。

關稅引上げも効果なし。日本品のポイコットも取止みたり。十月中日本よりの入荷は米國品に倍す。全組合をして即時ワシントンに善處方要求せしむべし。然らずんば市場は完全に失なはるべし云々。

以上の如く無稅なる米國織物製品に對抗し日本品をしのファイリツピン市場に割込ましめた原因は第一NRAが産業復興に依り勞銀及び勞働時間を制限したこと、第二地方支那人が對日ポイコットを中止したこと二つであるが他面米國通貨のインフレも陰然與つて力がある。」

一、日英協調せよ

デイリー・ニュース紙

日本と英國との貿易に關聯し「デイリー・ニュース」は十二月二十三日論説を掲げ兩國とも平和的協調の精神をもつて協調しなければ失ふところ多く得るところ少きを暗示し左の如く述べた。日本はその古き土臺の上に將來に對する國家工業を築き、もつて世界市場に於て古き資本國家を驅逐しつゝあることは決して新しいニュースではない。過去五ヶ年間に於けるその發展たるや驚く可きものであつて、特に綿絲布は英領植民地各市場に突進して來た結果遂にランカシヤイヤをしてウエスト・ミンスターに向つて助けて乞ふに至らしめその最後の切札を示さしめるに至つたのである。英國議會は此の新らしい形勢を處置するに遅々たらず、最近下院に於ける討議の如きは滿場一致をもつて一決議案を通過した。即ち日本との取極めにより満足な割當率の決定を見

ざる曉には政府をして斷乎たる處置を執らしめんとするものであつて之は即ち今日まで單に貿易統計上のみに於て論議せられた問題に對し新なる光明を注いだものである。一方サー・ハーバート・サムエル氏は緊張せる國際關係に對し、例へば汚水に清涼劑を加へたるが如く或る頑固者の見が如く水平線上は今尙ほ曖昧なる不明状態に在るものでないことを指摘した。サミュエル氏はランカシヤ選出代議士であるから實情を了解するためには保守黨陣笠のある人々に比ぶれば適當な地位に在るわけだ。その説に依れば英國は貿易競争相手者と協和的取極をなすことは徒らに不愉快なる關稅障壁を高くし或は不買同盟を企討するよりも英國にとり得るところが多い。其の重要な一例を擧ぐれば會て印度に起つた不買同盟はランカシヤを苦しめること甚しく萬一チャール氏の對印政策が成功して居たとすれば英國の紡績業は再び立つ能はざるほどの打撃を被つたであらう。英國政府は此の反對黨の説に答ふるに外交的遁辭を弄した。ランシマン商相は日英條約廢棄を主張する者に答えて曰く「斯の如ま行爲は實現するに困難なる事柄であつて之が影響を受くる者は英本國のみならず、大英帝國を構成する約三十ヶ國であつて内にセーロン島も含まれること勿論である」と。然しながら政府當局の意見によれば歐洲諸國は經濟的に團結するの止む

なきに至る可きを物語るものである。日本産業中には他國に於て企て及ばざるものもあることは事實であるが日本貿易がこの域にまで發展した道程には公平ならぬことがある。例へば日本工業の裏面には日本政府の大なる力がある。斯の如く産業と國家とが密接な關係を有するものはソヴイエツト・ロシアを除外してはその例がない。

建築聯合會々頭たるハロルド・ベルマン卿は最近、東部アフリカ沿岸地方の旅行を行つたものであるが彼曰く「日本の物資は安い。その貨物は日本船によつて運搬せられ船賃は英船より安く且つ販賣組織は優秀である。問題の難點は實に此處に存在する。即ち組織上の戰である。然しながら敵意ある精神はいづれの國に對しても何等利益をもたらずものでないことを知らば本件は善意をもつて協調すべき事柄である。」

スエーデン

一、日本品を大いに歓迎

某貿易會社重役談

最近スエーデン地方にも本邦商品の進出が傳へられて居るため、ノルウェー、ベルゲン方面に至るまで本邦商品中特に電球及び綿布の輸入あり、綿布の輸入も相當大量であつてその價格は極めて低廉であるばかりでなく、品質もまた英國品を凌ぐものがある趣である。先般英國工業聯合會長はヨーテボリス・ハンデルス・チードニング紙記者に對し日英通商競争に關聯し日本産ゴム靴の如きはスエーデンに於ける競争品たるべく、歐洲諸國は共同戰線をもつて日本の競争に對抗するを要する旨語つた趣が報ぜられ、スエーデン方面に於て本邦貿易進出に關し相當大なる注意が喚起せられてゐる。日本勞働者の賃銀が低廉であるためその商品は極めて廉價であつて、然も品質優良となつた今日之が對策として日本品の輸入にとつて便宜な從量税に改めることが望し

い旨の意見を發表するものがある。またスエーデン貿易會社の重役は「スエーデンの對日輸出は日本の對スエーデン輸入に比し殆ど三倍である現狀に於ては、日本の輸出阻止の對策を講ぜんとするものは多いが、スエーデンとしては尙早な措置を採るに先ち充分熟慮するを要し、國際貿易に於て相互主義の傾向がますます顯著であつて、日本も現に日本品の制限を行ふ國に對し報復手段を採るべしとの論もある位である。輸入割當制度の採用は不可能ではあるまいが、スエーデンとしては却つて有利ではあるまい。自分は日本の競争は誇張せられて居るものと思考する一人で日本品の輸入額は僅少であるのみならずその中にはスエーデン品に影響なき日本特殊品を含んで居り、日本綿製品は薄手安價なるを特色とし、東洋方面に適するを以つてスエーデン纖維工業に對する重大な脅威とは思考せられない」とて寧ろ日本品の進出は引てスエーデンの對日輸出を増大するであらうとなし、日瑞貿易發展を喜んでゐる。最近當方面の新聞論調は概して比較的正確と認められる材料に基づき、本期に於ける貿易進出の狀況を記述して居る。

二、一大商業國への過程

チードニング紙

昨年十二月六日のヨーテポリイス・ハンデルス・チードニング紙は左の如く論じた。

「極東に於て十五年來世界的に影響のある事件が續行中であるが、日本は獨特の組織的にして沈黙的な方法により太平洋の政治的、經濟的霸權の基礎を創設中である。世界戦争は日本に好機を與へ、日本の指導は之を克く利用し同戦争中通商の發展が開始せられ、爾後ますます西洋との競争を増大し發展した。特に強度の工業化と迅速なる外國貿易の發展をその特色とし、世界不況も何等之を妨ぐることなく、他の諸國は製造品の生産が減退せるに反し日本は却つてその増大を見た。

歐洲に於て最大競争をなすものは主として日本の纖維工業であるが、大戦前に於て印度はその消費の九割八分を英國産綿製品に仰ぎ、約一分を日本より輸入して居た。しかるに最近は英國品の印度輸入は五割に減し、日本品の印度輸入は高率入税にも拘らず、四割乃至五割に増大し、他

の多數産業部門も同様の事態であつて例へば人造絹絲紙及びセルロイド工業に於て然りである。右は發育過程に在る一國民のその固有の要求に應ずる經濟的基礎を獲得せんとする本能的努力と云ふべく、日本の人口増加は西洋に於て未曾有の状況であつて、之に食料を供給するが爲めには食料品を大量に輸入しなければならぬ道理であるから、大貿易を確保することは絶対に必要である。之れは極東市場に依存する西洋の諸産業國に取つては好都合なものではない。ランカシア織維工業が英國政府に對し、日本のタンピング競争に對する保護を求めたのは當然であつて印度濠洲及び支那も日本の競争に遭遇してゐる。

日本の競争は専らダンピングの性質を有すとの觀念が一般に行はれて居るが、右が事實とすれば歐洲の工對に對する危険は餘り大ではあるまいが日本の輸出は一つの營利的行爲たるの觀があるラウンドテーブル誌の一記者は日本の主たる輸出工業は國家の補助に依存するものではないと斷言し、また日本の勞働者は充分の賃銀を受け、その地位は他の諸國の勞働階級の地位と比肩し得るであらうと述べた。

然るに日本の輸出商品が品質劣等で、しかも安價に販賣し得られたことは事實ではあるが、右

は已に改善せられ日本品はその品質改良に成功した。

事態右の如くなるに於ては極東の經濟的發展の將來は、將に目下或る方面に於て危懼せられて居るほど大なる危険を來たすまいが、日本は一切の障礙に拘らずますます經濟的發展を續行すべきは明であつて、滿洲國より工業原料の供給を仰ぎ、従前と異つた方法によつてその必要を充たし得べくその競争力は甚大となるに至るであらうが同時に日本の輸出も輸入と殆ど同様に増加し、且つ一九三二年の大輸出は圓價下落の直接の結果たる事實を看過してはならない。圓價下落は日本の信用及び經濟力についての財界の不信用の反影たるに外ならない。日本財界は餘り良好な状態ではない。對支戰鬥行爲は莫大な失費を生じ、負債は甚しく増大したことは日本の經濟生活を痲痺せしむべき弱點である。日本の競争は本年は比較的大ではなかつたが、之をもつて事態の進展に變化ありとなすのは誤りであつて、日本が一大商業帝國に變する過程に在る事は疑がない。

三、圓價の下落と低賃銀

チードニンゲン紙

十二月七日のストツクホルムス・チードニンゲン紙は左の如く論じた。

七八

「世界が一般に深刻な不況に悩んでゐるに反し、日本の經濟状態は殆んど隆盛時代の様相を呈して居る。工業上の生産は莫大な増加を示し、或る種の商品の輸出は貿易上の制限にも拘らず平常と同様大である。例へば綿布の輸出は殆んど五割も増加し羊毛、絹及び人造絹絲工業も同様の傾向を認め得べく日本の輸出は他國の損失に於て進出し、世界不況前に於て已に急速な發展を遂げた繊維工業のみならず、多數の工業生産品はその品質の不良なることがしばしばあるにも拘らず、一切の競争が不可能なる程度の廉價で歐洲に於て販賣せられてゐる。例へばオランダ國に於て日本製自轉車は約一ポンドの價格で販賣せられてゐる。日本の競争激化の根本原因は一般に信ぜられてゐるやうに低賃銀ではない。數年前日本の競争が今日と異なり更に自然な性情を有してゐた當時、日本の賃銀は同じく低廉であつた。一九三一年に於て日本の輸出は他の諸國の輸出以上に減少し、圓價の約四割下落の結果、事態の變化を來たしたものであつて、輸出市場に對する日本品進出の説明をこの點に求めるのが當然である。

日本の生産費また甚だ低廉であるが、日本労働者の生産は歐洲労働者の生産に比し劣つてゐる

ことを忘れてはならない。日本の競争は繊維商品の大量輸出が特に英國に取つて重大事であることは確實であつて、英國は殊に低級品の一大輸出市場を保全することは極めて困難なるべく、また他の諸國の輸出を杜絶し、工業活動を國內市場に局限せしむべしなどとしば云はれてゐるが、右は白色人種の經濟状態を大に危殆ならしめるばかりで、右の主張は餘り根據のあるものではない、何となれば一國は永い期間に亘り輸出商品とほぼ同量の輸入をなさずして輸出を續行することは出来ない相談であつて、でなければ外國に對し一大負債を負ふに至るであらう。

日本の労働者数は二百萬に過ぎないから、日本の工業は量に於て世界工業品輸出上に重大なる影響を及ぼすとは思はれない。これに對してイギリス、アメリカ、及びドイツは合計約五千萬の労働者を有してゐる。日本の工業が迅速に發達してゐることは事實だが、輸出は單に世界輸出の一少部分に過ぎぬことは明らかで、しかも日本の工業は専ら繊維工業に集中せられて居るをもつて、世界の他の工業はその未來を安心して可なりである。

然るに日本のダンピングに對して歐米の或る方面に於て甚だ悲觀する向もあるが、この問題は漸次解消すべきこと確實なるが、世界全體に於て價格問題が解決せられなければ、日本のダンピ

七九

ングに對する對策はスエーデン及び各國に於て切實であることは疑を容れない。

八〇

ドイツ

一、日獨ビール戦

ナハト・アウス・ガーベ紙

日本品の海外市場發展に關してはドイツに於ても漸く神經過敏となりつゝあるやうだが、六月二十日のナハト・アウス・ガーベ紙（國權黨系の民衆新聞）はその商業欄に於て『日獨麥酒戦——日本ドルトムンドビールの名聲を悪用す』との見出の下に米國及び蘭領印度方面に於ける日獨麥酒戦の尖鋭化せること、殊に日本ビール會社製造のユニオン・ビールの賣行が良好なのは世界的に有名な「ドルトムンドユニオンビール」とは品質及び風味に於て格段の差違あるに拘はらず名稱を同じくして居るが爲めであるなどを報道したのちドルトムンドユニオンビール會社當局が之に關し次の如く述べた旨を傳へた。

「日本ビールはドイツ・ビールの如く麥芽及びホップより製造するのではなくして米又は玉蜀黍を基礎としたビール類似の飲料水であつて。其の生産費は極めて低廉であるがドイツ・ビールと異り之を飲んだのちに不快な作用をもたらす缺點がある。米國が依然ドイツ麥酒を歓迎することは本社が最近十萬本のビールを同國に向けて仕送つた事實に徴しても明らかである。」

二、危険な日本經濟

獨逸企業家組合機關誌

ドイツ企業組合機關誌はその七月十五日に「日本の經濟的一般攻撃」と題する記事を掲げた。右記事は護謨製品、石鹼、時計、ブラツシ、釦、電球、陶器類、諸紡績製品、鐵製品、電氣製品等の日本品が世界的に侵出しつゝあることを述べたのち其の原因を解剖し、最後に將來に於ける發展如何に言及し、

(一) 日本品の進出は關係諸國の對抗手段を誘致するばかりでなく相互間の政治的關係にまで惡影響を及ぼすべきこと。

(一) 特にオツタワ協定の障碍あること。
 (二) アジア諸國はやがて日本に對し日本が歐洲先進國に對して演ずると同様の役割を演ずるに至るべきこと。

(四) 滿洲國さへ其の工業化の速かなればなるほど其の獨立傾向がますます顯著となるべき事
 (五) 日本從來の經濟政策が主として貨幣價值下落と國家の補助とに依つて實行せられたものなること。

等の諸點より考察するに日本經濟は目下極めて危険な道程を辿りつゝあるものであつて其の前途には暗黒と不安とが横つてゐる旨を述べた。

三、永續性はあるまい

フォルクスウイルトシヤフト紙

國粹社會黨機關新聞たるドイツエ・フォルクスウイルトシヤフト紙は八月五日「日本及び日本の通商」と題する記事を掲げ先づ日本の諸商品世界的進出を述べたのち其の原因は(一)低廉なる

勞銀(二)社會的負擔の缺加(三)國家の租稅政策(四)輸出補助(五)工業の合理化(六)大企業團の低廉なる自己資本の利用(七)低廉なる特許權取得及び(八)圓相場の下落等に在りとなし、是等の各原因について詳説し、最後に日本工業に利しつゝある是等の原因はやがて、變更すべきをもつて日本の輸出が現在の如き侵出を永く續け得るだらうとは想像し得ないと結んだ。

四、華橋の地位を奪ふ

ウイルトシヤフトデーンスト紙

八月四日のウイルトシヤフトデーンスト紙は外國欄の蘭領印度の部に於て同地方に於ける日本人の活動に關する記事を掲げた同記事中注意すべきは。

- (一) 日本が着々華僑の獨占的勢力を打破しつゝあること。
- (二) 植民地政府は日本品の侵入を防止する必要に迫られて居ても政治的理由よりして斷乎たる政策を採り得ずむしろ日本と互惠的協定を締結せむとしつゝあること。
- (三) 日本の經濟的進出も英米兩國の監視がある限りオランダの植民地統治に對し何等脅威と

なり得ざること。等の諸點である。

五、背後に帝國主義

ベルゼ・ツアイツング紙

八月八日のベルリナー・ベルゼ・ツアイツング紙は「日本の經濟的危險」と題する記事を掲げた。

右記事は先づ支那、印度、小アジア、アフリカ、歐米諸國等に於ける日本品の進出について述べたのち絹、綿製品、人絹、鐵製品、石鹼等の各種輸出品につき詳細な説明を加へた後、

進んでその發展理由に言及し、最後に主要工業諸國は日本の經濟的進出をこのまゝ放置すべきではなく同時に日本の經濟的進出が帝國主義的外交政策を背景とするものであることを忘れてはならないと述べた。

六、日本品への對抗戦

ベルゼン・クーリエル紙

八月十七日のベルリネール・ベルゼン・クーリエル紙は英國よりの報道なりと稱し「メイド・イン・ジャパン對抗戦」表題の下に大要左の如き記事を掲げた。

「英國の通商政策は大戦前に於てはメイド・イン・ジャーマニーに對する對抗戦であつたが現在は大々的にメイド・イン・ジャパンに對する對抗戦に變じた。即ち近來安價なる日本商品は英國市場に氾濫し特にランカシャの綿織工業は到底日本との競争に敵し得ぬ事情に在るをもつて近くロンドンに於て開かるべき日英通商會議並に九月印度のシムラに開かるべき日英印通商會議に於ては圓滿なる解決を期待し得られないであらう。」

尙ほ同日は東京通信として日本もまた英國に對する報復手段として南米諸國の英國市場を賛食せんとする計畫であるとの報道を掲げ當業者を大いに刺戟したが但し日本輸出業者の言によれば日本はラテン・アメリカ市場に日本商品の販路を開拓しても決して米國の市場を害することを企

圖するものではないとなし。更に三井工業團は既にブエノスアイレスに中央販賣部を設置し南米市場の開拓に着手し且つ日本商工省は輸出貿易促進費として千二百萬圓を政府に要求したと報じた。

七、歐洲舉つて日本に當れ

ノイエ・ウルトシャフト誌

十二月號のノイエ・ウルトシャフト誌は『黄色品の脅威』なる題下に左の如く論じた。

『ヨーロッパが政治的抗争を続け、また米國が不況に苦みつゝある間に日本の經濟的勢力は全世界に擴大しつゝある。日本の經濟的活動の過剩人口に對する土地獲得を目的とする政治的努力と相並行して居り、低廉な賃銀と圓貨下落とは殆んど如何なる關稅壁をも打破するであらう。更に日本は世界市場獲得のほか、國內に於ては外國品を排して自國品使用を宣傳して居り、また輸出を日本船舶會社に依つて促進せしめんとしつゝある。』

右の如き諸事實は既に自國內の經濟的不況に苦みつゝあるヨーロッパ諸國の經濟に取つて重大

な意義を有するもので日本品販路擴大はヨーロッパ諸國乘離の結果に外ならない。十一月十二日の國民投票に依つて明かとなされた獨逸國民の團結がヨーロッパ諸國をして最終的平和樹立のため努力し其の經濟的全力を脅威的黃禍の擊破に使用するやう影響し得ん事を望んで已まない。』

八、日本品勝利の原因

ターゲフラット紙

十二月一日のベルリナー・ターゲフラット紙は『日本はダンピングを行ふや』と題する社説中に於て先づ諸國に於ける廉價なる日本品の進出狀況を説明したのち日本に於ては右が計畫的ダンピングである事を否定して居ること及び在日英國大使館附商務官が之を支持して居ること等ら述べ次て原料品に乏しい日本が遠隔の市場に於て先進諸國との競争に打勝ちつゝある根本的原因は何處に在りやの問題を提出し左の通り述べた。

『一般に日本人の欲望が僅少なことをもつて之を説明せんとして居るやうだが日本の工業労働者の賃銀は上海、天津及び香港等に於ける支那人工業労働者の賃銀の二倍に當り、また印度人工